

国臨協関信支部地区代表者会議

(地区会提出議題及び要望事項等に対する回答)



1. 平成 28 年度地区会提出議題・回答 P 2 ～ 3
2. 平成 29 年度地区会提出議題・回答 P 4 ～ 10
3. 平成 30 年度地区会提出議題・回答 P 11 ～ 19
4. 令和元年度地区会提出議題・回答 P 20 ～ 31
5. 令和 2 年度地区会提出議題・回答 P 32 ～ 43
6. 令和 3 年度地区会提出議題・回答 P 44 ～ 52
7. 令和 4 年度地区会提出議題・回答 P 53 ～ 67
8. 令和 5 年 10 月 5 日付東京地区会からの質問・回答 P 68 ～ 74
9. 令和 5 年度地区会提出議題・回答 P 74 ～ 90
10. 令和 6 年度地区会提出議題・回答 P 91 ～ 109

1. 平成 28 年度 地区会提出議題

1) 本部、技師長協議会等、事業関連

① Q：認定微生物検査技師以外の各医療認定資格の手当拡充の要望

A：関信支部のみで具体的な行動を取るのは困難であり、全国の施設と歩調を合わせる必要がある。要望については国臨協本部と技師長協議会とで作成している要望書へ盛り込んでいく事になる。

② Q：臨床検査技師の育成について

A：一般技師を対象とした研修は、専門職と支部の方で個人の意識改革を目的としたボトムアップ研修を開催した。主任技師を対象とした管理者育成を目的とした研修は、専門職と技師長協議会の方で主任技師育成研修を開催した。管理者研修については研修も必要であるが、各職場長が日頃より管理者としての心得を部下職員に教育することも重要と考える。

2) 研修会、支部学会関連

① Q：各種認定試験対策及び糖尿病療養指導士を目指す方の為のセミナー開催をお願いしたい。

A：支部主催研修会は年間 3～4 回を予定しており、その時節柄にあった内容を計画して開催している。また、今後も会員の意見や要望を元に企画検討を行っている。

② Q：学術論文化の推進

A：支部の学会賞に、論文化することといった規程を盛り込むのは現実的では無い。論文化する事が可能な演題を見つけ、RA が指導して論文につなげていく方法もある。また、投稿雑誌については支部ニュースを学会誌にする方法も考えられる。

③ Q：研修会内容の動画配信

A：講師の了承が得られた研修会については DVD の撮影を行っているので、必要に応じて貸し出しを行っている。（昨年 4 月以降の研修会より）

④ Q：ポスター関連

A：ポスターの大きさについては B0 サイズまたは各施設のプリンターの最大サイズまでの大きさとする。ポスター賞を 1 位以外にも与えるかについては今後検討を行う。採点については各地区から 3 名の採点者を推薦し、その方々で採点を行い順位を決めている。採点基準については支部で改めて検討を行う。

3) 助成金関連

① Q：地区会助成金について、地区会員数を考慮した金額に変更することは検討しているか。

A：現在 3 つの案が考えられる。

a) 現状維持。

b) 地区会助成金を廃止し、地区会主催の研修会費用・講師料をその都度支部に請求する。支部では内容を精査のうえ、支給額を決めるといった方法も考えられる。

c) 地区会の規模によって助成金に差をつける。今後の地区会助成金の在り方を、各地区会に意見を持ち帰り、相談をして頂きたい。

4) 役員関連

① Q: 国臨協本部、支部、技師長会、地区会などがあり、各協議会の活動内容が会員に周知されていない、また各協議会の事業が広がり過ぎている様に思われるのでスリム化等は検討しているのか。

A: 各協議会の事業内容を、会員に説明するのは職場長の役割である。支部としては今後支部長会議（本部、支部事業の説明）の報告は HP に掲載するとともに施設連絡者に報告するので、施設連絡者は各会員に伝達して頂きたい。

本部、技師長協議会とそれぞれの役割に基づいて事業を定めている。継続事業となっているものが多いために今の状況になっている。支部の事業については学術、情報発信、会員相互の交流の 3 本柱は変わらない。

5) 専門職関連

① Q: 産休代替や非常勤等、人材派遣のような登録業務を行って頂けないか。

A: 現状では人材バンクの様な業務を行うのは困難である。また、全国的に代替職員の確保は難しい問題となっている。各施設での対応をお願いしたい。相談については随時受け付けている。

② Q: 定年退職者の再雇用における勤務状況等について情報提供をしてほしい。

A: 個人情報の提供は難しいが、退職者数などの全体の割合をお教えする事は可能である。機構本部としての考えは、各施設が再雇用制度を進めて行く方向へ向かってほしいということである。

平成 29 年度 地区会提出議題

1) 学術関連 (RA から学術委員会を含む)

- ① Q: 研修会の出席状況を調査することで、出席数の増加となるのではないかと。研修会の資料をライブラリとして共有可能したらどうか。地区会の研修会の相互利用、参加が容易な環境を整備したらどうか。e-ラーニングなどの利用について。

A: 研修会は開催地に近いほど、出席者が多い傾向がある。研修会で撮影した DVD を編集し、DVD 録画の有無が判るようにホームページに掲示していきたい。今後、地区会横断による研修会の参加を進めて行きたい。なお、支部では e-ラーニングを構築することは困難である。日臨技による e-ラーニングを活用していただきたい。

研修会について (地区会からの提出議題など)
栃木: 研修会に参加する人と参加しない人の格差がある。参加できなかった人は、何故参加しなかったのか内容に興味なかったのか、日程が合わなかったのか、会場までの距離が遠かったのかなど一度、調査してみて次回の研修会の参考とすれば参加数の増加につながると思う。
群馬: 研修会資料ライブラリの整備 (H28.4 より) を充実、強化して頂きたい。 ・支部/地区会開催研修会の資料をライブラリとして共有可能にする (地区会の資料提供協力が必要)。 ・各地区会事務局が支部へ資料提供し支部は HP にライブラリとして掲載管理する。 ・地区、施設で研修を企画する際に、相互利用、参加が容易な環境を整備する。 ・研修会の再利用 (他地区開催研修の再利用)。
群馬: 各種研修会の開催について継続・新規の企画をお願いしたい。
新潟: 学術・研修・会議関連 (e-ラーニング構築、サテライト勉強会、Web 開催、新人採用前研修、支部主催研修会内容)
支部からの回答 研修会内容、人数過去 2 年分の資料説明、 ライブラリは順次進めていく。DVD 貸し出し方法等、地区会横断による参加者を推進。 研修会の回数は現状維持。 e-ラーニングは、支部がその構築やネット配信業者と契約するなどでは費用が発生するので困難。個人で日臨技の e-ラーニングなどに加入することのほうが効果的と考える。

2) 支部学会関連

- ① Q: 今後の開催場所はどうなるのか。地区会ポスターは何を目的とするのか。ランチョンセミナーの開催予定はあるか。

A: 今後は国立国際医療研究センターの使用が困難となり、次回の開催場所は、国立

オリンピック記念青少年総合センターで開催予定である。会場の関係でポスターの掲示が困難となるため、現在別の方法を検討中である。ポスターは「地区会員や地区活動の紹介が目的」であり歴史が長いが、最近は各地区がバラエティーに富んだ内容となっている。今後はポスターの目的や表題を提示し、地区の活性化と理事のモチベーションの向上に活用していただきたいと考える。また、現時点でのランチョンセミナーの開催は難しいが、今後実施できるように情報収集を進める。

支部学会について（地区会からの提出議題など）
茨城：地区会コーナーに賞を与えることに異論はありませんが、地区会ポスターは本来、活動報告やレクレーション等の様子を報告するものでは？審査のために 3 つくらい評価基準を設けて評価しないと今後ますます派手になり、本来の趣旨を逸脱する恐れがあります。何を目的とした地区会ポスターなのか原点に返ってご検討いただければ幸いです。
新潟：関信支部学会（開催場所、抄録エントリー方法）
長野：関信支部学会のランチョンセミナーについて ・関信支部学会でランチョンセミナーの開催予定はありますか
支部からの回答
国際が使用できなくなる。少なくとも次年度は国立オリンピック記念青少年総合センターでの開催、ポスターの継続が困難、それに変わる地区会が力を合わせて作り上げるイベントを考えたい。（地区理事会役員紹介、新人紹介、観光地紹介など） ポスターについては、「地区会員や地区活動の紹介が目的」。また、その歴史は支部学会が開催され初期の頃より行われていたようである。その過程で施設の減少と共に存在意義が問われたこともあったが、最近は各地区バラエティーに富んだ内容となっている。ポスターはあくまでもこのツールを使って地区の活性化と理事のモチベーションアップに活用していただきたい。また、あまりにも逸脱した内容では評価対象外となる。（過去にも大きさが合わなくて対象外となったものあり） 次年度は国立オリンピック記念青少年総合センター、HP やメール等で早めにエントリーのお知らせをしていく。 ランチョンセミナーは今のところ予定はない。しかし、会場が国際のときは困難だったが、民間施設を借用するとハードルが下がる。メーカー共催学会として行える可能性はある。その場合として今後継続して後ろめたいことがないように、会計処理のことや利益供与や公平性の担保などの情報を整えてから開催する必要があると考える。会場費などが高額になったときのことを考え情報収集していく。

3) 広報関連

- ① Q: 関信支部ニュースの内容がマンネリ化してきている。もっと興味のわく内容を考えて欲しい。

A: 各地区会の定期総会・研修会の報告がほぼ同じ内容なので、マンネリ化を招いているが、引き続き内容や役員の報告は支部ニュースまたはホームページに掲載することで継続していきたい。また、支部ニュース記事を棲み分けしホームページに掲載することを検討中である。

- ② Q: 地区区分の見直しについて

A: 地区会の再編は毎年のように議題にあがっている。現状のままで良いのか広範囲のエリア導入などの方法も考えられるが、各地区会の方でも検討していただきたいと考える。いずれにしても地区会は必要であり、施設間の距離が離れている地区会もあるが、その地区にあった活動をしていただきたいと考える。また、地区会活動を通して人材育成をしていただきたい。

- ③ Q: 各地区の会費について

A: 地区会費の額については、支部の意向ではなく地区ごとに会員の総意で決められている。毎年、その予算に見合った活動をすれば良いと考える。

広報関連について（地区会からの提出議題など）
栃木：内容が、ややマンネリ化してきている。もっと興味のわく内容を考えてほしい。検査の話だけではなく、会員の趣味などの記事を載せているのは面白いと思います。
支部からの回答 「会員のひろば」を H28.1 月から掲載、9 回の連載となっている。各地区会の定期総会・研修会の報告が同じ内容なのでマンネリ化を招いている。総会の海佐報告や新体制は報告してもらいたい。なので支部ニュース記事を棲み分けし HP に掲載することを考えている。 支部提出議題 「国臨協関信支部ホームページの改修」についてでも討議

4) その他

- ① Q: 臨床検査技師の育成について継続・新規の企画をお願いしたい。

A: 関係協議会や専門職を含め、より良い研修会を企画、開催出来るようにしていきたいと考えている。

- ② Q: 関信支部からのメールの再送信が多い。

A: 十分注意して送信するようにしていきたい。

- ③ Q: 関信支部地区代表者会議と技師長会地区会代表者会議を年 1 回の共同開催には出来ないか。

A: 関信支部の地区代表者会議は、メンバーが同じであっても討議する内容が異なりその内容に回答する時間をかなり必要とするので、同時開催とした場合時間が足

りないことが考えられる。また、支部役員のメンバーは技師長協議会のメンバーではないので、現実的ではない。

④ Q: 合同交流会の出席はほとんどが技師長だけなので、もっと幅広く出席できる環境づくりをお願いできないか。

A: 合同交流会の招待者は技師長だけではなく、その年度に退職した会員全てに招待状を送っている。主任技師などの出席はその施設からの後押しをお願いしたい。

地区会関連について（地区会からの提出議題など）
群馬：地区会と支部の交流（研修会、レクレーション、OB 会）を推進することで連携強化する。 ・各施設が近隣 OB の拠点となり、交流、情報提供を相互に行う。 ・近隣地域の OB を最寄りの施設がリストアップし雇用人材として情報交換（管理）する。 ・OB バンク：人材再雇用バンク（産休/育休）を地区で管理（最小単位は各施設）する。 ・地区として産休育休等で人材が必要なときに OB バンクを相互に活用する。 ・支部、専門職へ情報として提供（施設・地区会）する。 ・地区の研修会、レクレーション、交流会への参加を促す事で情報交換を容易にする。
埼玉：首都圏の地区区分を見直して頂けないでしょうか。（理事会のために遠方の施設に出向くよりも他地区の施設の方が近い場合がある。）
神奈川：関信支部のレクリエーション（会員の交流）として地区会対抗球技大会（ボーリング等）の開催。各地区で予選会を開催し、上位チームでの決勝戦を支部主催で開催。3～4 回/年の研修会を 1 回減らす。
支部からの回答 ① 地区会の再編は毎年のように議題に上がる。資料説明、地区会の必要性を説明そのうえで現状のままで良いかは各地区考えてもらいたい。東京周辺と同じようにはできないので、その地区にあった活動をしてもらいたい。また、ほとんどの地区の会長は技師長で毎年のように交替されるが、新しい発想が必要と考える。技師長でなく副技師長や主任、定期総会も 1 年ごとではなく 2 年とか、ともかく地区会活動をとおして人材育成してもらいたい。また、地区会はそのままで広範囲のエリア（ゾーン、ブロック）制の導入。 ② 関信支部 OB 会とは、再雇用に関する仕組み構築は困難と考える。それよりは各施設近隣で退職した職員との情報交換を施設、地区で密にとってもらいたい。例えば定期総会や地区研修会への招待など。 ③ 地区対抗ボーリングのアイデアは面白いが、決勝戦の費用をどうするかなどの問題があるが、一度検討してみる。

地区会補助金関連について（地区会からの提出議題など）
千葉：地区会補助金の今後の方針について
長野：地区会助成金の在り方について

・地区会助成金の在り方について方向性など検討はされていますか
新潟：地区会助成金（増額）
神奈川：関信支部から各地区会に割り当てられ補助金について、今後も継続していただけるのか？また、継続していただけるのであれば、各地区会会員数に見合う金額設定か、現状のまま一律か？地区によっては地区会費が500～2000円と不均一で、不平等だと思われる。
支部からの回答 ① 支部提出議題「地区会活動助成金のこれからの在り方」で討議。 ② 地区会費の額については、支部の意向で決めている訳ではなく地区ごとに会員の総意で地区会費を決め、その予算に見合った活動をすれば良い。これは日臨技が県技師会の会費が県ごとに違う、また国臨協に於いても支部会費が支部毎に違うと言ったことと同じ。

その他（地区会からの提出議題など）
茨城：他の地区会主催研修参加がオープンになり、交流可能になったが、開催後の参加人数等の報告が有れば、今後自施設での開催時に、準備として参考にしたいのでぜひ報告をお願いいたします。
茨城：人材育成の為、専門知識及び将来の管理者育成等、日臨技のeラーニングを活用するなど、達成度の評価を可視化しモチベーションを保てるような工夫が出来ましたら支部の方で宜しくお願いします。
支部からの回答 ① 地区会横断的な研修会のオープン化を進める。各職員個人個人の日臨技研修会出席や達成度？の評価を可視化しモチベーションを保てるなどは、まずは技師長が把握し評価することが重要と考える。支部では各研修会等の個人の出席は把握し専門職に報告している。これらイベントへの参加は技師長の後押しが必要。また、優秀な人材は、各協議会の技師会、理事や委員などに推薦をお願いしたい。

栃木：関信支部からのメールの再送信 関信支部から送られてくるメールで誤りがあると何回も再送信をしているが送るメールの内容をダブルチェックしてほしい。
支部からの回答 ① 十分注意して送信する。

群馬：臨床検査技師の育成について継続・新規の企画をお願いしたい。
支部からの回答 ① 関係協議会や専門職を含め考え実現していく。

埼玉：関信地区代表者会議と技師長会地区代表者会議を年1回の共同開催にできないか。（目的議論が違ふと思われるが、実質的に地区代表者メンバーと討議事項はそれほど遜色が無いため。）

支部からの回答

- ① 技師長会の地区会長会議では、その活動報告がどこの地区も技師長会活動としての活動があまりされていなくて、関信支部地区会活動の報告となっている地区がほとんど。関信の地区代表者会議は、メンバーが同じで合っても（ただし、技師長会と会長が違う地区有り）討議する内容がことなり、その内容に回答するのも時間をかなり必要とするので、同時開催とした場合、時間が足りないことが考えられる。また、支部役員のメンバーは技師長会のメンバーでもないなどからなど現実的ではないと考える。（技師長会の地区会長会議も事業が多くなり討議時間が長くなっている現状もある。）地区会の意見を取り入れた支部運営が理想と考える。そのためには地区提出議題も建設的な意見をお願いしたい。

東京：現在、本省主催で行われている「検体検査の精度管理等に関する検討会」の情報提供について教示してほしい。

東京・山梨：法改正に伴う情報提供について

来年の法改正に向けて標準作業手順書作成に関する情報提供をお願いしたい。

東京・山梨：合同交流会について

定年者の出席はほとんどが技師長だけなのでもっと幅広く出席できるように環境づくりをお願いしたい。

支部からの回答

- ① 医療法等の一部改正する法律案」が可決されたことを受けて、検体検査の精度管理等に関する検討会が立ち上がりその会議資料説明。
- ② 合同交流会の招待者は、技師長だけに招待しているわけではなくその年度に退職した会員全てに招待状を送っている。結果として技師長と数人の主任となっている。主任などの出席はその施設の後押しがないと厳しい。

5) 他協議会対応関連

- ① Q：各病院で経営改善を行って効果のあったものの内容や取り組み、または民間病院の経営手法など参考となる内容を紹介（講演）して欲しい。

A：経営改善や職場環境改善については、技師長協議会事業になっている。支部として可能なことは、支部ニュースやホームページに技師長協議会コーナーを設けて経営改善に繋がる情報提供をしてもらうことがあげられる。

技師長協議会について（地区会からの提出議題など）
栃木：経営改善 各病院で経営改善を行って効果のあったものの内容や取り組み、または民間病院の経営手法など参考にできるものを紹介（講演）して欲しい。例えば、輸血廃棄率が少ない施設は、どういう方法を取っているのか、病院と検査科の関係を良好に保つための方法など。
群馬：輸血認定の手当てを拡充していただきたい。
埼玉：認定資格手当の細菌以外の新設
神奈川：細菌検査の認定技師だけが手当が出ているので、他の認定技師にも手当の支給を要望する。
支部からの回答 ① 栃木の経営改善や新潟地区からの職場環境改善については、技師長協議会事業になっている。支部で対応出来ることは情報提供となる。「支部ニュース」やHPに「技師長会コーナー」といった特集記事を設けてそこに情報提供してもらう。 ② 認定手当は、技師長協議会・本部の「提言書」に盛り込んでもらうように要望する。

6) 臨床検査専門職対応関連

地区会からの提出議題など
埼玉：出産・育児等による欠員問題は施設で対処しなければならないが、現実的に代替要員や非常勤は募集をかけてもなかなか見つからない。何か良い対処法があれば意見を聞かせて欲しい。
埼玉：新人職員の大規模施設（特にランチ施設）の配置は、検査を包括的に学ばせる意味において避けるべきではないか。
埼玉：再雇用者（再任用者）についての処遇改善と定数外での雇用
東京：定年延長に関しての情報収集及び情報提供してほしい。
神奈川：グループ登録選考試験実施職種における休業等代替職員について」の事務連絡が発せられ、3か月以上欠員が生じる場合、登録選考試験名簿登載者に残がある場合は、常勤職員での代替職員の採用を可能とする、とのことである。産休・育休・病休等が対象となるが、この制度を考慮し、グループでは名簿登載者数に余裕を持たせる方向に進むのかを知りたい。
新潟：処遇改善関連（ 認定資格手当の拡充 、再雇用の動向、再雇用定員枠外雇用、 職場環境改善 ）
新潟：人材確保・育成関連（新人技師大規模施設研修、転勤制度改革）
新潟：譲渡可能な検査機器情報の公開（使用可能な検査機器の譲渡）

平成 30 年度 地区会提出議題

1) 事務局関連（会員交流を含む）

(1) 会費の見直しについて

① Q：会費の見直しについて。非常勤・期間職員の減額・免除。

A：年会費については、企業の協賛が年々難しくなっている現状と地区会への学術支援を鑑みると現状維持、または将来の値上げも検討するべきと考えている。

(2) 地区会との連絡方法について

① Q：関信支部と地区会相互の連絡先・方法を明確にしてほしい

A：支部から依頼した文章については連絡先を明記している。地区会から発信する依頼についてはすべて事務局で管理することになっているので事務局に連絡をいただきたい。

(3) 役員の増員について

① Q：関信支部役員の仕事量が増えているので増員する計画はあるのか。

A：2020 年の国立病院総合医学会（新潟）に向け、特別に増員を考えていきたい。

(4) 地区会再編について

① Q：地区会再編について考えはあるか

A：地区会が統合することで地区会がなくなるのであれば、現状のままでよいという意見が多く聞かれた。

(5) 会員交流会（合同交流会・ビアパーティーなど）について

① Q：年度末の退職者がメインとなるような内容で開催してもらいたい。参加費が高額。

A：ここ数年、退職者の参加が減っており、新採用技師を中心に企画を考えている。新人のみ参加費を補助するなどの案が出された。

会費の見直しについて
東京・山梨： ① 支部会の会費（減額）の見直し、使用用途の見直し（特に理事会の回数、会議・理事会等へのすべての役員参加の必要性の有無、役員への手当てなど）
長野： ① 非常勤・期間職員に積極的に参加を促すため年会費は減額・免除を提案したいが、各地区会の状況をお聞きしたい。
支部からの回答
① 常任開催回数については、支部研修会準備、学会準備等の打ち合わせを鑑みるとメールに

より会議だけでは対応できないと考えている。全ての理事の参加については、役務分担を考えると必要最低限の人数であると思っている。役員手当については、日当半日 500 円、1 日行動で 1,000 円としており、会員代表で会務を執行していることを考えても高額とは考えていない。また、交通費については理事選出施設からの実費支給であるため必要経費と考える。年会費については、非常勤等を考慮すること必要かと思われるが、日臨技、専門学会ではその区別をしていないこと、協賛が年々難しくなっている現状と、地区会へは学術的支援を鑑みると現状維持または将来の値上げも検討すべきと考える。

地区会との連絡方法について

東京：

- ① 関信支部と地区会相互の連絡先・方法を明確にしてほしい。（地区会から支部への総会出席依頼、HP への投稿、支部ニュースへの原稿依頼または投稿など）

支部からの回答：

- ① 現状は、各施設職場長（技師長、副技師長）を施設連絡者として案内している。
原稿依頼については、本人および職場長に依頼状を发出している。
現状で問題ないと考えている。

役員の増員について

群馬：

- ① 関信支部役員の仕事量が増えているので増員する計画はあるのか。

支部からの回答：

- ① 本来業務をしながら、会務執行は大変になっている状況であることは承知している。
2020 年の国病総合医学会（新潟）に向け、特別に増員を考えていきたい。（仮称：特任理事）

地区会の区割りについて

埼玉：

- ① 地区会の区割りについて

支部からの回答：

- ① 各地区会の会員数を鑑みると、考慮する必要もあると考える。例えば、隣県の合併など。

会員交流（合同交流会・ビアパーティーなど）

栃木：

- ① ビアパーティーでの他施設の技師との交流を今以上に図っていただきたい。（進行や企画の観点より）

支部からの回答：

- ① ここ数年、新採用技師を中心に企画を考えている。各施設の交流を企画したいと思っても、限られた時間では困難であるところもある。参加されている施設の職場長を中心に交流を持ってもらいたい。

2)学術関連（学術委員会含む）

(1)研修会について

- ① Q：支部主催研修会内容の年間計画を公表してほしい。研修会後に満足度などのアンケートを実施してはどうか。法改正に伴う ISO 準拠に向けて、災害時や在宅医療における臨床検査技師の役割や可能性について、外部講師による接遇に関する研修会を検討いただきたい。医療法改正を内容とする研修会の企画があるのか。研修会の出席状況を公表してほしい。「e ラーニングシステム」の構築。

A：研修会の年間計画は支部でも検討している。支部だけではなく地区会や会員からテーマや内容の要望をぜひいただきたい。ISO 関連や医療法改正については国臨協本部、技師長会とも協調しながら考えていきたい。そのほかご要望いただいた研修会については検討していきたい。研修会参加状況の公表については、現時点では不要との認識で一致した。「e ラーニングシステム」については専門的な知識が必要なこと、専門業者に依頼するとコストが高くシステム構築は困難と思われる。DVD 貸出を利用していただきたい。また今後、学術委員会メンバーの地方施設での研修なども検討している。

(2)支部学会について

- ① Q：日臨技の生涯教育点数について(発表者の点数追加)。地区会ポスター作製について。抄録の Web 閲覧、冊子印刷廃止。Web での抄録登録。

A：日臨技の生涯教育研修申請について、関連団体ということで現状の点数申請が限界となっている。地区会ポスターについては、掲示が当日のみでもったいないという意見もあり、ホームページ掲載を検討、また会員全員による Web 投票なども検討したい。抄録集は以前 DVD にした際、会員から不評であったため冊子印刷に戻した経緯がある。抄録登録を Web 上で行うには経費的に困難である。

(3)学術委員会について

- ① Q：今後の活動予定について。各部門長を班長とした研究班的な研修会や講演会などの活動は可能か。

A：学術からの報告で詳しい活動内容について回答しているが、学術委員会には、研修会企画、学会企画、地区会への学術的支援等に積極的に関わってもらい活動していただいている。将来的には都道府県技師会の研究班のような組織にしていき、

各研修班での研修会開催を行っていききたい。

研修会
栃木： ① 支部主催による研修会の内容について年間を通して知ることが可能であれば、計画を事前に公表していただきたい。
群馬： ① 支部研修会（講演会）の後にアンケートを取って内容の理解度・満足度を問うてみたらどうでしょうか。また、会員に次回の研修会のテーマの希望を取ってみたらどうでしょうか。 ②法改正に伴う ISO 準拠に向けた勉強会の開催をお願いしたい。
埼玉： ① 研修会の内容として、a.「災害時における臨床検査技師の役割」b.「在宅医療での臨床検査技師の可能性」を検討して頂きたい。
東京・山梨： ① 支部主催研修会等の出席状況（役職別、県別、地区会別など）の公表 ② 接遇に関する研修会（外部講師による）を企画してほしい
新潟： ①「e ラーニングシステム」の構築の推進
長野： ① 国臨協関信支部として医療法の改正を内容とする研修会等を企画しているか。
支部からの回答： ① 研修会の年間計画については、理事会でも検討している。支部だけではなく地区会や会員からテーマや内容の要望を是非いただきたい。医療法改正、ISO 関連や SOP については、国臨協本部、技師長会とも協調しながら考えていきたい。埼玉地区会、東京・山梨地区会からの研修会テーマについては、検討していきたい。 ② 研修会出席状況についての公表は、議論していただきたい。 ③ e-ラーニングについては、過去に検討したことがあったが、構築するには専門的知識が必要なこと、専門業者に依頼すると予算的に困難と思われる。日臨技や専門学会のシステム利用を促していきたい。

支部学会
栃木： ① 関信支部の学会は日臨技の生涯教育研修履修に登録されています。（発表者の追加点数と参加者区分等）
東京・山梨：

① 地区会ポスターについて 1 枚印刷できない地区（施設）は、印刷可能な施設に依頼ができるなどの環境づくりをして欲しい（外部委託して費用が発生するのはもったいない） ② 関信学会抄録の Web 閲覧、冊子印刷中止（経費削減）
神奈川： ① 学会ポスターのあり方、審査法、掲載場所などについて根本的に再考する時期と考える ● 印刷を頼む地区会が多くなり、1 万円程度掛かることから地区会運営費への影響が大きい（助成金を活用） ● 国際医療の施設を継続的に借りられるか不透明であり、ポスター掲示場所の問題 ● 学会当日の掲示のみではもったいない ● もう少し多くの地区会に賞金をあげられないか ● ホームページに掲載し Web 投票により審査を行い学会で表彰してはどうか
新潟： ① 支部学会への抄録登録方法について（HP からの登録について）
支部からの回答： ① 日臨技の生涯教育研修申請について、関信支部は関連団体と言うことで現状の点数申請が限界のところもある。履修しやすくするため、できるだけ基礎で申請するようにしている。 ② 学会時の地区会ポスターコーナーについては、経費については地区助成金のあり方も含め検討の余地があると思う。掲示方法についても議論していただきたい。また、事前の HP へ掲載し、会員全員による投票も検討したい。 ③ 抄録の登録方法で HP からの登録は経費的に困難と考える。

学術委員会
茨城： ①学術委員会の今後の活動予定について及び支部との関りをお教えてください。 ②学術委員会の活動報告・予定を、もっと情報発信して欲しい。
栃木： ① それぞれの分野の RA を班長とした研究班的な研修会や講演会などの活動は可能ですか。
新潟： ① 学術委員の活動について
支部からの回答： ① 学術委員会には、研修会企画、学会企画、地区会への学術的支援等に積極的に関わってもらおうと考えている。将来的には、都道府県技師会の研究班のような組織にしていき、各研究班での研修会開催を行っていきたい。その会場や経費について予算化していきたい。

3) 広報関連

(1) 支部ニュースについて

- ① Q: 支部ニュースの在り方について。施設単位で発行し個人配布を中止してはどうか。各地区総会に参加理事からの投稿があると支部ニュースの活性化につながるのではないかと。今年度の定期総会議事録が未掲載であったのはなぜか。

A: 支部ニュースの在り方についてはホームページ掲載も検討のひとつと考えているが、印刷物でないと広告の協賛が取れなくなってしまう。アンケート調査でも会員の認知度が低いことはわかっており、内容についても検討をしている。今年度の定期総会議事録が未掲載になった経緯については紙面関係上今回よりホームページに掲載することに変更したためであるが、ご指摘によりホームページへの掲載が漏れていることが判明したため、早急に対応したい。

(2) ホームページについて

- ① Q: 地区会からの情報発信は支部を通さず行ってよいのか。ホームページの検索がしづらい、情報更新が遅い。ホームページ掲載勉強会の視聴方法について。

A: ホームページの管理は支部が行っている現状。更新のためのユーザーID、パスワード管理上難しいと思われるため、ホームページを使用した情報発信は支部を通して行っていただきたい。会員アンケート結果を踏まえ、利用しやすいホームページにするため調整、努力しているところである。ホームページにアクセスする際のID、パスワードが分かりにくいとの意見があった。毎年の各地区会報告で理事からホームページへのアクセス方法について説明させていただいているが、発行物などには一切記載がないため分かりにくい。「ホームページにアクセスする際のID、パスワードは支部からの発行物に記載されていないことを会員に周知する」、「支部ニュースにホームページ活動についての案内を載せる」、「ホームページ更新時には施設長にメールを流し、活動をアピールする」などの案が出された。

支部ニュース関連
群馬： ① 関信支部ニュースをホームページに載せてあるならわざわざ印刷物にする必要はないのでは、その分の費用を他の活動費に回してはどうでしょうか。 ② 支部ニュース活性化：新掲載の内容について、新しく主任や副技師長になった方の抱負や紹介記事をお願いしたい。
埼玉： ① 関信支部ニュースのあり方について
東京・山梨：

①支部ニュースの施設単位発行（個人配布の中止、経費削減）
神奈川： ① 各地区総会後、支部ニュースに各地区会より寄稿しているが、総会には支部理事の方が来られているので、寄稿文の後に、参加理事の感想などをいただくと一方通行ではなくなり、支部ニュースの活性化に繋がらないか。
支部からの回答： ① 支部ニュースのあり方については、群馬地区会からのご意見（HP 上の掲載）も検討のひとつであると考えます。アンケートで会員の認知度が低いことも判っている。内容の検討も含め、現在検討しているところでもある。
ホームページ関連
群馬： ① 地区会からの情報発信：他地区への情報発信は、支部を通して行ってもらっている。これは支部を通さなで行って良いか。
東京・山梨： ① ホームページの検索がしづらい、情報更新が遅い。 ② ホームページの有効活用（利用率の増加と会員のコミュニケーションの場としての利用）
新潟： ① HP 掲載勉強会の視聴方法について ② HP の活性化について（アンケート集計結果を踏まえて） ③ 「e ラーニングシステム」の構築の推進
支部からの回答： ① HP の管理は支部が行っている現状。更新のためのユーザーID, PW 管理上、難しいと思われる。利用しやすい HP にするため、努力をしているところで、専門的知識のある会員に委託する方法もあるかと思うが、継続していくためには問題解決しなければならないことがある。 ② e-ラーニングについては回答済み。

4) 法改正関連

- ① Q：法改正に伴う今後の医療監視の対応。働き方改革関連法案施行による影響について、若手の育成についてなど支部での取り組みはあるのか。

A：国臨協本部、技師長会と協調しながら決めていこうと考えている。

群馬：
① 法改正に伴う今後の事務監査のあり方などについての対応等。
神奈川：

① 働き方改革の遵守により検査技術向上（自己研鑽）への意識が疎かになっているように感じる。自己啓発も業務の一環と捉えることも出来るので強制は難しいと思うが、特に若い技師育成で問題となる。どのように育成強化を図っていけば良いか。また、関信支部での取り組みはあるか。ご教示いただきたい。
支部からの回答：
① 国臨協本部、技師長会と協調しながらと考えている。

5)他協議会対応関連

- ① Q：患者説明への方針や対応について
A：国臨協本部の案件であるため、支部としては現在考えていない。
- ② Q：国臨協「会報」の施設単位発行、Web 配信。職員名簿の廃止について。
A：全国支部長会議で会員の意見として提出させていただく。

国臨協本部（事業関連）
栃木：
① 支部としての患者説明への方針はどうお考えですか。今後どのように対応して行けば良いのでしょうか。
東京・山梨：
① 国臨協「会報」の施設単位発行（個人配布の中止、経費削減）Web 配信で必要時印刷
② 職員名簿の廃止（個人情報関連、経費削減）
③ 本部経費削減に伴った、支部経費削減となる
支部からの回答
① 国臨協本部、技師長会と協調しながら行いたいと考えている。
② 患者説明の支部としても対応については、現在特に考えていない。

5) その他

栃木：
① 退職者の再雇用動向や定年延長の現状について情報や、アンケート等の資料提供を今後お願いしたい。
支部からの回答
① 国臨協本部の情報で把握してもらいたい。
東京・山梨：
① 来年度も課題となりうる「働き方改革（有給休暇取得義務化・超過勤務縮減等）」に関する取り組みや在り方等情報提供してほしい。
支部からの回答
① 国臨協本部、技師長会と協調しながら行いたいと考えている。

新潟：
① 転勤制度について（活発な人事交流）
② 処遇改善について（認定資格手当の拡充）
支部からの回答
① 国臨協本部、技師長会と協調しながら行いたいと考えている。

6) 臨床検査専門職対応

栃木：
① 非常勤、産休代替、期間職員等の臨時職員確保が非常に困難である。退職者が人材登録を行い求人サイト的な窓口の管理及びホームページで求人検索が可能になりませんか。（求人情報、求職者登録）
埼玉：
① 退職者の再雇用動向や定年延長の現状について情報や、アンケート等の資料提供を今後お願いしたい。
東京・山梨：
① 来年度も課題となりうる「働き方改革（有給休暇取得義務化・超過勤務縮減等）」に関する取り組みや在り方等情報提供してほしい。
新潟：
① 転勤制度について（活発な人事交流）
② 処遇改善について（認定資格手当の拡充）
専門職からの回答
栃木①：グループで行う業務ではない。
埼玉①：公務員の定年延長が示されたが、機構としての対応は聞いていない。再雇用の現状については、地区会などで情報提供していきたい。
東京・山梨①：資料を準備したい。←流動的・・・
新潟①：技師長さんと連携し、施設事情に合わせた人事異動に努めていく。
新潟②：本部で定期的に討議はされていると聞いているが、確定した情報はない。

令和 元年度 地区会提出議題

1) 事務局関連 (会員交流を含む)

(1) 地区会活動助成金(研修会講師派遣等)について

① Q: 講師謝礼金額等の取り決めについて教えてほしい。

A: 講師謝礼金額等については、支部主催研修会も地区会主催研修会も同じ内規で運用している。内規の公表は考えていないが、各都道府県技師会の会計報告(講師料支出)等を参考にしている。

② Q: 研修会講師の交通費支給について運用を教えてほしい。

A: 学術委員会への講師依頼については、講師派遣申請を受け内規に則り講師料、交通費を支出している。地区会が独自で招聘した講師に対しては、補助金申請を受け内規に則り講師料の補助をしている。

③ Q: 地区助成金の復活をお願いしたい。

A: 各地区会の財政に不均衡が生じていることは承知している。地区会主催研修会費用の一部を補助することとしたが、初年度であったこともあり、上手く機能しなかった点があった。地区会財政の不均衡を是正するための方策を継続して検討していきたい。

(2) 地区会について

① Q: 他地区会の研修会等へのオープン参加はできないか。

A: 昨年度も議題に挙がっていたが、地区会から広報の依頼があれば各施設に案内することになっているので活用してもらいたい。また今後ホームページへの掲載もしていきたい。

(3) メール関連について

① Q: メールや連絡に訂正・修正が多い。訂正文に対して修正部分を具体的に明記してほしい。

A: 今後正誤表を添付することを検討する。

(4) 関信支部の今後の予定について(国立病院総合医学会準備等も含む)

① Q: 第 74 回国立病院総合医学会(新潟)に向けての準備状況を報告してほしい。

A: 別紙資料にて報告した。臨床検査部門関連会議、懇親会は 10 月 15 日にラマダホテル新潟で予定している。

② Q: 来年度はオリンピックがあるので、支部の予定について早めに知らせてほしい。

A: 定期総会・合同交流会 4 月 25 日、支部学会は 9 月 5 日で決定している。7 月の研修会・ビアパーティーはオリンピック開催時期と重なるため中止と

する。

(5) 会員交流（合同交流会・ビアパーティーなど）

- ① Q：合同交流会で退職者の参加が技師長しかいない。セレモニーが重すぎて出にくいのではないかと。新人紹介が行われているが、全く会場で盛り上がりにくい。もう少し参加者も交わるような企画はないか。

A：セレモニーは、昨年より分離した形で行っており好評を得ている。セレモニーを疎かには出来ないためご理解いただきたい。新人紹介を含む余興等は役員も毎回苦労している。具体的な提案がありましたらお寄せいただきたい。

地区会活動助成金(研修会講師派遣等)
群馬 ① 研修会講師の交通費支給の改正について ② 地区会助成金について
東京・山梨： ① 地区会活動の助成金廃止後に関し、支部に申請した際の講師謝礼金額等の取り決めについて
長野： ① 地区助成金の復活をお願いしたい。
支部からの回答： ① 各地区会の財政について不均衡が生じていることは承知している。また、地区会により500～2,000円と違いのある地区会費が徴収されていることも承知している。そのために、地区会主催研修会にかかる費用の一部を補助することとしたが初年度であったこともあり、上手く機能しなかった点があったと思われる。地区会財政の不均衡を是正するための方策を継続して議論する必要があると思う。 ② 講師謝礼金額等については、支部主催研修会も地区会主催研修会も同じ内規で運用している。内規の公表は考えていないが、各都道府県技師会の会計報告（講師料支出）等を参考にしている。 ③ 支部から地区会への支出については、次の運用で行っている。 ● 学術委員会への講師依頼については、講師派遣申請を受け内規に則り講師料、交通費を支出している。 ● 地区会が独自で招聘した講師に対しては、補助金申請を受け内規に則り講師料の補助をしている。

地区会について
東京・山梨：
① 他地区会の研修会等へのオープン参加
支部からの回答：
① 研修会のオープン化については昨年度も議題に挙がっており、地区会から広報の依頼があった場合は各施設に案内することとしています。

メール関連について
茨城：
① 支部からのメールや連絡に修正が、数多く認められるが訂正文に対して修正部分のどこをどう直したか具体的に明記をお願いしたい。
東京・山梨
① 支部からの連絡、議事録等に訂正が多いが確認体制について
支部からの回答：
① 支部からの発信について、修正が多く大変ご迷惑をお掛けしております。確認を十分にしているのですが、出来るだけタイムリーにお届けしたいという一心から起きていることと反省しております。今後はより慎重に確認し訂正がないように努力していきます。また、訂正が発生した際には、その箇所を提示するようにいたします。

関信支部の今後の予定について(国立病院総合医学会準備等も含む)
茨城：
① 第74回国立病院総合医学会(新潟)に向けての準備状況を報告してほしい。
② 来年度は、オリンピックが控えているので、支部の予定について早めにお知らせをしていただきたい。
埼玉：
① 来年度の国立病院総合医学会準備等についての進捗状況を教えてください。
支部からの回答：
① 第74回国病学会にかかる関連行事についての進捗状況は資料にて説明いたします。
② 支部の年間予定ですが、定期総会・合同交流会、支部学会の日程については例年と同じ時期の4月25日、9月5日で決定しています。夏に開催しています、研修会・ビアパーティーはオリンピック開催時期と重なることもあり来年度は中止させていただきます。

会員交流(合同交流会・ビアパーティーなど)
千葉：
① 次の事業・活動について、今後の運営方針についてお伺いしたい。
・合同交流会

神奈川： ① 合同交流会で退職者の参加が技師長しかいない。セレモニーが重すぎて出にくいのではないか。
長野： ② 合同交流会にて新人紹介が行われているが、支部役員は頑張っているが、全く会場は何が行われていか介していない雰囲気があるように感じる。新人を置き去りにするのではなくもう少し参加者も交わるような企画は無いものだろうか。
支部からの回答： ① 合同交流会のセレモニーについては、昨年の会より一応、分離した形で行い良かったのではと思っております。セレモニーを疎かには出来ないとも思いますのでご理解いただきたい。新人紹介を含む余興等については、役員が毎回苦勞して考えていることをご理解いただきたい。長野地区会からの参加者全体で出来る企画と提案されましたが、具体的な案がありましたらお寄せいただければと思います。また、研修会も同様であります。交流会の内容についても各地区会、会員からのご意見をお寄せいただきたいと思います。

2) 学術関係（学術委員会含む）

(1) 研修会について

- ① Q：若手・中堅技師を中心とした経営に関する研修会を開催してほしい。

A：病院経営や機構の収支等に関する話は大事だが、関信グループと協働で行っているキャリアアップ研修や主任技師育成研修が行われているので活用していただきたい。

- ② Q：地方からの参加は交通費等の負担が大きいため、Web を利用した研修会・勉強会、学会のサテライト形式などの環境を構築してほしい。

A：無料の Web 通信には制限が多く、費用面で課題がある。

- ③ Q：技量の格差や標準化を図るために、実技研修を検討してほしい。年数回シリーズで段階的に学習できるプログラムを組んで実施してほしい。

A：会場や準備を考えると少人数のほうが開催しやすいと思うので、地区会でぜひ企画していただきたい。学術委員を含め講師の派遣は可能なので利用してほしい。

- ④ Q：検体採取について資格取得研修後のスキル維持のため研修会を開催してほしい。

A：実技は難しいが講演形式は今後検討していきたい。

(2) 支部学会について

- ① Q: アウトソーシングすることによる 70 万円弱の経費増について検証してください。また、会費値上げにならないよう配慮してほしい。

A: 参加費 500 円増によって約 30 万円の収入増となったが、システムレンタル料は約 60 万円だった。自主運営する場合の PC 更新費やシステム構築に掛かる労力を考慮すると、十分な費用対効果があると考ええる。支部ニュース作成費などを見直す計画で経費の削減を図りながらシステムレンタルを継続していきたい。

- ② Q: 支部学会学術奨励賞等の受賞者に対して、「医療」または他の学会誌に投稿するよう文書での働きかけをしてはどうか。

A: 選考講評で述べていただいているが、文書を発行するかは検討課題とする。

- ③ Q: 地区会コーナー（ポスター）について、掲示だけでなく、発表あるいは PR 時間を設ける、ホームページ掲載、Web 投票など検討してはどうか。また順位付けは必要なのではないか。

A: 地区会コーナーは各地区会活動や交流を紹介するひとつの手段として良い企画だと思う。順位は助成金を授与するための手段で、この獲得のために各地区会も趣向を凝らしてくれている。ホームページへの掲載は、具体的に進んでいなく申し訳ない。各地区会からデータ提供を了承していただき実行していきたい。Web 投票については今のところノウハウがなく、実行できない状況である。

- ④ Q: 地区会ポスター作成の印刷費は地区会会計を圧迫しかねない。印刷、搬入の代行ができないか。

A: 支部で印刷を代行する場合、プリンターを貸していただける施設の決定、用紙およびインクの購入等を検討しなければならない。来年度の学会に間に合うように回答したい。また、データ提供が必要となるので作成期限が短くなると思われる。

(3) 学術委員会について

- ① Q: 学術委員会の活動が不透明である。活動方針を明確にしてほしい。学術委員の選出と承認について教えてほしい。

A: 活動開始してからまだ 2 年であり、手探りの部分があるので、もう少し見守っていただきたい。PR 活動や活動報告など積極的にしていきたい。規程や委員の選出については改正案を支部提案議題で提示する。

(4) 研修会 DVD 関連について

- ① Q: DVD の貸し出しだけでなく支部ホームページで動画の閲覧ができるようにしてほしい。

A: ホームページでの動画掲載は容量が大きく、また、ファイルをダウンサイジングすると画質が悪くなる。パワーポイントと音声のみにするなど検討中である。

- ② Q: 貸し出し状況を教えてほしい。聴講したい講演が録画していないことが多い。
A: 貸し出しは 1 回のみ。ホームページにリストを載せるなど工夫をしたい。録画はデータや文献の著作権の問題があり講師の了承を得られないことが多い。

(5) 学術関連(その他)

- ① Q: 学術情報の提供や Q&A 集等（輸血以外の部門にも）を発行してほしい。

A: 学術委員会で収集したものを取り纏めることになっているが、なかなか出来ていない。質問自体が少ない、学術委員以外の方に質問しているケースもある。収集の仕方も今後検討していきたい。

- ② Q: 検査手順を統一できるところは支部内施設共通のマニュアル（推奨）を提示できないか。

A: 全施設同じ検査内容、運用で行うことが前提となり困難である。技師会、専門学会が提唱するガイドライン等を参考に、各施設で標準作業手順書を策定するほうが良いのではないか。併せて検査マニュアルや教育プログラムもしっかり作り込む必要があると思う。基礎的な標準化を目標に研修会を行ったが、受講生が自施設に活用しなかった事例がある。グループ研修や技師会の勉強会も活用するように指導してほしいとの発言があった。

- ③ Q: 採血業務について、翼状針の使用はどの程度か知りたい。直針から翼状針に変更していくのか支部で指針が欲しい。

A: 4 月の第 1 回研修会で改訂になった標準採血ガイドラインと POCT 機器について講演していただくので参考にしてもらいたい。

研修会
群馬:
① 若手・中堅技師を中心とした経営に関する研修会の開催について
新潟:
① 地方からの参加は交通費等の負担が大きいため、Web を利用して研修会・勉強会や学会をリアルタイムに配信できるような（サテライト）環境の構築を検討していただきたい。
② 技量の格差や標準化を図るために、各地区での実技研修について検討していただきたい。
③ 研修会について年数回シリーズで段階的に学習できるプログラムを組んで実施していただきたい。
④ 検体採取について資格取得研修後に継続してスキルが維持できるような研修会を開催していただきたい。
支部からの回答:
① 群馬地区会からのご意見についてですが、確かに病院経営や機構の収支等についての話は大事だと思いますが、関信グループと協働で行っているキャリアアップ研修や主任技

師育成研修で行われていますので、そちらだと思います。給与明細ひとつ見られない技師もおりまして、疑問にも思わず何も言っていない状況もあるのではと思います。今後、キャリアアップ研修等では身近な内容も盛り込めたらと思いますが。

支部学会

茨城：

- ① 支部学会について、予算総会で承認したことだが、アウトソーシングすることによる 70 万弱の経費増についての検証および、いずれ予算増の為、会費値上げにならないでほしい。
- ② 関信支部学会学術奨励賞等の受賞者に対して、「医療」または他の学会誌に投稿するよう文書での働きかけをしてはどうか。（その施設や当事者が出すか出さないかは別として）

埼玉：

- ① 学会運営費について（経費節減）
- ② 地区会コーナー（ポスター）の運用について（掲示だけでなく、発表あるいは PR 時間とか）

千葉：

- ① 昨年度の検討課題であった支部学会地区会ポスターの進捗状況について（HP 掲載や Web 投票等）

東京・山梨：

- ① 支部学会運営について、学会参加費が値上がりしたが運営費内訳とシステムレンタルの費用対効果について

神奈川：

- ① 学会での地区会ポスターは必要か？ 順位をつける意味があるのか。

新潟：

- ① 学会の一般演題締め切りがこのところ延長されている。今年は国病もあるが両学会の演題確保をどのようにお考えか。
- ② 地区会ポスター作成の印刷費は地区会会計を圧迫しかねない。印刷及び搬入の代行をできないか。
- ③ 支部学会費用高騰のため再検証をお願いしたい。

支部からの回答：

- ① 参加費 500 円増によって約 30 万円の収入増となりました。システムレンタル料は約 60 万円でした。自主運営する場合の PC 購入費やシステム構築に掛かるストレスなどを考慮したとき、十分な費用対効果があると思われる。今後は、支部ニュース作成費などを見直す計画で経費の削減を図りながらシステムレンタルを継続していきたいと考えます。
- ② 地区会コーナーについて必要ない。順位をつける必要がないとのご意見は何故なのか。各地区会活動や交流を紹介するひとつの手段としては良い企画だと思う。作成にかかる地区

会内の交流もよいことだと思う。順位をつけるのは助成金を授与するための手段で、この獲得のために各地区会も趣向を凝らしてくれているのだと思っている。

- ③ HPへの掲載は、具体的に進んでいなく申し訳ありません。各地区会からデータを提供してもらいなど了承していただければ、直ぐにでも実行していきたい。Web投票については今のところノウハウがなく、実行できない状況である。掲示だけではなく、発表等の企画については提案地区会のご意見を伺いたい。エントランスで行うのか、演題発表のような形式をお考えなのか。その上で、各地区会のご意見を伺いたい。
- ④ ポスター作成にかかる経費や労力については、各地区会でご苦労されていることは承知している。ポスター作成にかかる経費を助成する案や支部で請け負う案や様々なことが考えられます。先ほどのHP掲載等にも関係するが事前にデータの提供が必要となり作成期限が短くなるが、どうお考えか。
- ⑤ 新潟地区会からの支部学会費用高騰とは、参加費のことなのか経費のことなのか。経費であれば、削減に向け努力していきます。今後、会場費の有料化や3年後に控える50回記念学会の経費を考えたときにもっと費用は掛かっていくものと考えます。参加費もそれを見ると妥当な金額ではないかと思う。

学術委員会

茨城：

- ① 学術委員会の活動が、不透明である、来季以降はしっかりした活動案と予算の収支を明確にしてほしい。

群馬：

- ① 学術委員の選出と承認について教えて頂きたい。

埼玉：

- ① 学術委員会の活動、予定、今後の方針を詳しく知りたい。

千葉：

- ① 次の事業・活動について、今後の運営方針についてお伺いしたい。
- 支部学会における学術委員会の役割

長野：

- ① 学術委員の派遣について、実際の現場での手順や実務について巡回指導し具体的改善事項を指摘してもらえないか。

支部からの回答：

- ① 支部としては懸命に努力して学術委員会活動を行っていると思っている。活動してからまだ2年という期間でもあるので、もう少し見守っていただきたい。不透明というご意見であるが、PR活動はそれなりにしていると思うが。規程や委員の選出および活動方針など今年度も来年度についても改定や改革をしながら進めていく。1年や2年で満足なものになるとは思っていない。

DVD 関連について
新潟： ① 現在、研修会・勉強会録画資料（DVD）の貸し出しをしていただいているが、支部ホームページで動画の閲覧ができるようにしていただきたい。 ② 研修会・勉強会録画資料の貸し出し DVD について、検査科での勉強会にも利用できるよう音声中心から講演動画等も交えた DVD としていただきたい。（講演動画があるようでしたらお教えいただきたい）
支部からの回答： ① 研修会動画のHPへのアップについては、検討しているがファイルのダウンサイジングをしていくと画像が悪くなると思われる。現在、1 時間～1 時間 30 分の研修会で数ギガの容量があり、それをHP上に掲載するにはかなり困難と思われる。今後は、パワーポイントのスライド上に音声を録音する方式にするなど、できるだけ活用しやすい記録にしていきたいと思っている。 ② 講演動画とはどのようなものか伺いたい。その上で回答したい。

学術関連(その他)
新潟： ① 学術情報の提供やQ & A集等（輸血以外の部門にも）の発行をお願いしたい。
長野： ① 検査手順として統一できるところは支部内施設共通のマニュアル（推奨）を提示できないか。異動により必要ないローカルルールに惑わされないため。 ② 採血は検査技師も多く携わっているが、翼状針はどの程度使われているのか。直針での採血をしている施設は今後医療安全上や教育上変更していくほうが良いのか支部全体での指標が欲しい。あくまでも施設事情優先でよいのか。
支部からの回答： ① Q & A集については学術委員会で収集したものを取り纏めて行くことになっているが、なかなか收拾出来ていないのが現状である。会員から連絡しやすい学術委員以外の方に質問の連絡がいつている現状もあると思われます。そのような質問も全て収集するのもひとつの考えではあるが、どれだけ協力が得られるかである。 ② 長野地区会からのご意見は、かなり困難な内容と思う。共通のマニュアル作成は理想なのかも知れないが、全施設同じ検査内容、運用で行うことが前提となると思う。それより、異動しても直ぐに業務が出来るように各施設で標準作業手順書の策定が重要になるのではないかと。併せて検査マニュアルや教育プログラムもしっかり作り込む必要があると思う。そうするとISO取得施設に異動になっても対応が早くなることも考えられる。 ③ 採血手順については、4 月の第 1 回研修会で改訂になった標準採血ガイドラインとPO

C T機器について講演してもらうこととなっているので参考にしてもらいたい。指標等を支部が策定していくのは困難だし違うと思う。

3) 広報関係

(1) 支部ニュース関連

① Q: 支部ニュース投稿文章等の依頼は提出期限に余裕を持ってほしい。

A: 原稿依頼は今後検討していく。

② Q: 支部ニュースとホームページの相互連携をとって会員に周知してはどうか。支部ニュースにホームページの内容をアピールする記事を載せてアクセス数を増やす等工夫をしてはどうか。

A: 現在ホームページ更新案内を各施設に配信しているが、支部ニュースの紙面をどれだけ割けるか検討していきたい。

③ Q: 今後、頻発が予想される台風や豪雨などの自然災害に関する情報提供をしてはどうか。支部ニュースで特集を組む、ホームページに災害時の写真投稿してもらう、学会でシンポジウムを企画するなど。

A: 支部から原稿依頼をしていきたいと思うが、積極的な投稿も是非お願いしたい。また、災害時や事前察知時の研修会開催連絡は、施設連絡者にメール配信、ホームページへ案内を載せることとしている。

(2) ホームページ関連

① Q: 各種申請手続きをホームページの入力フォームで可能にしてほしい。各種規定を検索しやすくしてほしい。

A: 入力フォームの作成は、ノウハウがなく伝授していただきたい。検索についてはホームページのリニューアルをしてかなり改善したと思っている。今後もアクセスしやすい構成を検討していく。

支部ニュース関連
群馬： ① 支部ニュース投稿文章等の依頼は提出期限に余裕を持って頂きたい。
千葉： ① 支部ニュースとホームページの相互の連携による会員への周知につて（例：支部ニュースにホームページの内容をアピールする記事を載せてアクセス数を増やす等、互いに連携する様な工夫をしてはどうか） ② 今後、頻発が予想される台風や豪雨などの自然災害に関する情報提供について（例：支部ニュースで特集を組む、ホームページに災害時の写真投稿してもらう、学会でシンポジウムを企画する等を行ってはどうか）

支部からの回答：

- ① 原稿依頼については、今後検討していきます。
- ② H P の周知については、現在H P 更新案内を各施設に配信しているが、支部ニュースの紙面をどれだけ割けるか検討していきたい。各地区会にお邪魔したときに、H P の案内もさせてもらっているし、専門職からもP R してもらっている。
- ③ 情報提供についても、支部からお願いしていきたいと思うが、積極的な投稿を是非お願いしたい。新しい紙面作りを検討し、少しずつ変えていっているが支部役員だけでは新しいイメージ作りは大変なところもある。地区会だよりの投稿を支部からもお願いしているところであるが、更なる投稿をお願いしたい。

ホームページ関連

群馬：

- ① 各種申請手続きを HP の入力フォームで可能にして頂きたい。
- ② 各種規定のH P 検索を分かりやすくして頂きたい。

千葉：

- ① 支部ニュースとホームページの相互の連携による会員への周知につて（例：支部ニュースにホームページの内容をアピールする記事を載せてアクセス数を増やす等、互いに連携する様な工夫をしてはどうか）
- ② 今後、頻発が予想される台風や豪雨などの自然災害に関する情報提供について（例：支部ニュースで特集を組む、ホームページに災害時の写真投稿してもらう、学会でシンポジウムを企画する等を行ってはどうか）

支部からの回答：

- ① 申請手続きの入力フォームについては、ノウハウを伝授していただきたい。現役員にはそのノウハウは持ち合わせていない。
- ② 検索については、H P のリニューアルをしてかなり改善したと思っている。今後もアクセスしやすい構成を検討していきます。
- ③ 千葉地区会のご意見は回答済み

4) 他協議会対応

(1) 国臨協本部（事業関連）

- ① Q：認定微生物検査技師以外の認定技師にも手当拡充をお願いしたい。

A：機構本部の事業であり対応できない。国臨協本部、院長協議会から要望はしている。

国臨協本部（事業関連）

茨城：

① 現在、資格手当は認定微生物検査技師のみとなっている。他の専門資格を取得した技師が施設のために貢献している。モチベーションを高めるためにも他の認定技師の手当拡充をお願いしたい。
新潟： ② 認定臨床微生物検査技師に続き、維持する糧と自負のため認定制度の数があるだけ手当をお願いしたい。
支部からの回答 ① 大変申し訳ないが、支部で対応できる事項ではないことを承知してもらいたい。国臨協本部から院長協議会や機構本部への要望で毎回お願いしている。

(2) 専門職対応

- ① **Q：診療報酬改定における最新情報について配信してほしい。**
A：厚労省ホームページで最新情報を確認して随時配信していきたい。
- ② **Q：退職者の再雇用動向や定年延長の現状について情報提供をしてほしい。**
A：来年度の地区会で情報提供していきたい。

茨城： ① 現在、資格手当は認定微生物検査技師のみとなっている。他の専門資格を取得した技師が施設のために貢献している。モチベーションを高めるためにも他の認定技師の手当拡充をお願いしたい。
東京： ① 診療報酬改定における最新情報について
新潟： ① 認定臨床微生物検査技師に続き、維持する糧と自負のため認定制度の数があるだけ手当をお願いしたい。 ② 退職者の再雇用動向や定年延長の現状について情報提供を今後お願いしたい。
臨床検査専門職からの回答 茨城⑤：拡充について話題に上がることはあると聞いているが、それが決定に至ることはないようである。 東京⑤：厚労省 HP などに注目し、新たな情報が発信されれば情報提供に努めたい。 新潟①：茨城⑤に同じ 新潟その他①：地区会等で情報提供に努めたい。支部ニュースも活用して欲しい。

令和 2 年度 地区会提出議題

1) 事務局関連(会員交流を含む)

(1) 関信支部常任理事会について

- ① Q:理事会の開催形式。オンラインによる会議が可能となっているが支部理事会は新しい体制にするのでしょうか。

A:今年度は集合型やオンライン型および両方の形式を合わせたハイブリッド型の全ての形式について実施いたしました。一切集合できないことや一部の理事は集合できるなど状況により様々でしたが、議論が活発に行われたのは集合型であることでした。今後は状況を見ながら出来るだけ集合型を開催したいと考えています。

- ② Q:コロナ禍のなか Web を利用したオンライン会議が活発になっている。理事会をオンライン形式で開催していく場合、支部の理事において今後は遠方の会員も理事に選出して理事会を開催できるのではないかと考えます。また、地区代表者会議も例年 1 回集合型として開催していたが、形式をオンライン形式とすることで複数回開催できるため意思疎通を支部と地区会で図れるのではないかと考えているので検討していただきたい。

A:すべての理事が一か所に参集して議論するのではなくハイブリット形式の理事会を開催することで通常通り議論が深まると考えますのでご意見を参考に進めていきたいと思います。また遠方の施設の会員からも理事として参画することも可能であると考えます。

(2) 関信支部年度スケジュールについて

- ① Q:年度スケジュールを新型コロナウイルス感染拡大程度の「収束」～「拡大」を 3 段階程度に仮定して、それぞれ提示することは可能でしょうか（オリンピック開催有無含む）。

A:COVID-19 感染症の状況による年間スケジュールの提示は困難と考えます。現在、非集合型開催について方法案を検討しており今年度中の開催を見込んでいます。研修会については関信支部提出議題の学術にてまとめて報告いたします。

(3) 関信支部会費について

- ① Q:支部会費の検討について今年度の事業は COVID-19 感染症により活動されていないので、残金がいつも以上になる。次年度の対応を検討する必要があるのではないかと。

A:繰越金は例年以上になることは間違いありません。しかし、会費改定は考えていません。

理由 1 :減額改定を望まれていると思われるが、規程をその都度改定しなければならいため一度減額すると増額しづらくなると考えられます。

理由 2: Web 形式の研修会および学会への予算計上を考えています。

理由 3: 令和 4 年度は関信支部創立 50 周年を迎えます。記念行事や記念学会も視野に入れなければならないと思いますのでご理解いただきたいと
思います。

(4) オンライン環境支援について

- ① Q: オンライン・Web 環境のソフト、ハード面での充実。コロナ禍の中、オンライン
〇〇、Web〇〇がかつてないスピードで浸透してきた中での特にハード面での充
実をお願いしたい。

A: 関信支部としては考えていません。全施設や全会員となると予算的にも困難です。
施設の設備を利用いただきたい。自宅での設備となると、通信設備、通信料までと
要望が広がる可能性がありますのでご理解ください。

(5) 関信支部地区会役員の人事異動時における対応について

- ① Q: 人事異動後の地区会役員の変更について

A: 人事異動によって地区会役員が交代する場合は、代行を立てるか改めて選出する
か地区会規程で決めていただきたい。交代時は支部に連絡いただきホームページ
等で周知させていただきます。

- ② Q: 地区会役員の交代があった場合ホームページの更新がされていないのですがい
かがでしょうか。

A: 地区会から申し出がないと把握できないためご連絡お願いいたします。

- ③ Q: 地区会役員が任期途中の人事異動により交代した場合、ホームページの記載は異
動前の役員の名前のままだが、後任の役員も二段に分けてホームページに記載す
ることは可能でしょうか。

A: 地区会から申し出があれば対応いたします。

(6) 会員交流（合同交流会・ビアパーティーなど）

- ① Q: 今年の合同交流会においては COVID-19 感染症の影響が大きいと思われるがその
判断基準・時期についてはいつ頃なのかお聞きしたい。

A: 令和 3 年度合同交流会について、例年の日程では開催しないことを理事会で決定
いたしましたが、地区代表者会議での了承を得て会員に周知させていただきます。
代替案として例年 7 月に開催しているビアパーティーの時期にずらすことがで
きるか検討しています。毎年 4 月に国臨協関信支部定期総会、7 月にビアパー
ティー、9 月に関信支部学会と遠方の方は特に交通費も含め費用負担をお願いして
いることもあり、在り方を検討していくことも考えております。

A: 各地区会長の賛同多数により令和 3 年度合同交流会の開催は中止とした。

② Q: 会員相互の交流について、参集型イベントが難しい状況での方法を検討いただきたい。

A: 感染対策を十分に行う条件下での開催も考えられますが、参加希望が見込めないのではと思われます。集合型開催が出来る状況まではホームページ等を利用した会員紹介などを企画していきたいと考えている。

2) 学術関係（学術委員会含む）

(1) 研修会について

① Q: 新型コロナウイルスで初めて PCR 検査に携わる人も多いと思うので、PCR 検査に関する研修会を企画してはいかがでしょうか。

A: COVID-19 感染症検査についての研修会を企画しています。COVID-19 感染症関連検査として、2 月下旬にオンデマンド形式で研修会を開催する予定です。また本部などで研修会が行われていることから新型コロナウイルスの PCR 検査は様々な原理があり、非常に難しいテーマだと考えていますので、まずは支部で開催する研修会を視聴していただきご意見いただければと思います。

② Q: どのような形式および場所で開催するか決定しているのでしょうか。

A: オンデマンド形式で 2 週間程度視聴できるような形式で開催したいと考えています。

③ Q: コロナ禍等を教訓にした集合形式以外の研修会のあり方について、今後の方針を伺いたい（Web 研修の開催等）。

A: 学術より詳細な報告をさせていただきますが、政府や都道府県も明確に方針を出せていないことや各施設の判断も様々であると承知しています。厳格に制限している施設もあれば、制限の中でもルールを決めて運用している施設もあるなど難しい状況です。国の基準で考えれば会場キャパシティの 5 割程度であれば集合型の形式で開催も可能と考えますが、医療従事者である私たちがそこに踏み込められるかという葛藤もあると思います。何れにしても今後暫くはオンライン形式やオンデマンド形式を利用した研修会を企画していきたいと考えています。

④ Q: 地区会総会・研修会が中止となったため、専門職や関信支部からの研修機会を失ってしまった。予定されていた研修内容や連絡事項等を何らかの形で配信してもらえないか。

A: 関信支部に関しましてはホームページ上の掲載や各施設連絡責任者宛へメール配信を検討いたします。専門職からの連絡事項については、専門職より回答していただきます。

【専門職より回答】

A: 今まで各地区会に招待いただきお話をさせていただいていましたが、皆様のところまで今後どのように開催していくか計画が決定していれば教えていただきたい。

そのなかでどのような参加の仕方にしていくか考えていきたいと思います。

(2) 人材育成について

- ① Q: 来年以降の退職者が多いため人材育成についてどう考えているか（来年以降の退職者が多いため）。

A: 関信支部としては、新人向けや中堅技師向けの研修会を企画していきます。管理者研修については、関信グループや技師長協議会で企画されています。関信支部も関信グループに中堅技師向けの研修を協力させていただいております。

- ② Q: 新人教育の充実。基礎教育研修会は学術事業方針で決定しているところですが、技術面での教育研修等を検討していただきたい。

A: 技術指導についても学術委員派遣を可能としていますので、要望を出していただきたいと思います。但し、実施出来るかの検討はさせていただきます。以前の輸血検査における有志の会のような技術研修会は学術委員企画として開催が可能ですし、輸血部門では実施し支部からの支援もしています。会員からの要望も検討いたします。通常研修会のような技術研修会を関信支部で開催するのは困難と考えます。

(3) 学術委員について

- ① Q: アンケート調査を踏まえた学術委員会の活動内容について今後の方針を知りたい。

A: 関信支部提出議題の学術より報告させていただきます。

- ② Q: 学術委員会のあり方について大変多くの委員がいますが、実際に活動しているのは極少数である。一部の支部運営に関わっているのみである。

A: 今年度は活動していないように思われますが、学会抄録の査読や各地区会研修会への派遣、支部ニュース企画への協力、今年度も学会抄録集に分科会協力をしていただいております。アンケート調査を実施させていただきましたので、その結果を踏まえ更なる委員会活動を検討していきます。各地区会からの要望をお寄せください。

- ③ Q: 学術委員会について利用するにあたり敷居が高い気がします。ちょっとしたことを聞きたくても Q&A 集に施設名、個人名を載せられると聞きづらい。

A: 回答する際の必要事項ですのでご理解いただきたい。ホームページに Q&A として掲載する際については、検討いたします。

- ④ Q: コロナ禍の影響で地区会の研修会等が中止となり研修機会も減った。今後学術委員会が各地区会への学術サポートをどの様に考えているのか。また、どんな形でサポートできるのか具体的な提案をいただきたい。

A: 様々な形式で支援したいと思い検討していきますが、現状で各地区会に派遣することは困難であります。サポートとして地区会で企画された研修会に対して広く

会員へ共有させていただく意味として支部研修会で利用するオンライン形式、オンデマンド形式の利用料の負担も考えていきたいと思っています。また Q&A 活動や支部研修会の記録も継続して行って参りますので、是非活用していただきたいと思います。各地区会で研修会を開催する場合、ご相談いただければと考えています。その際は地区会の企画ではありますが、地区会のみならず関信支部会員への情報提供として公開することもご了解していただきながら企画をしていただけたらと考えています。

⑤ Q: オンデマンド形式の研修会が増えることはありますでしょうか。

A: 回数は予算や時期的なこともありますので、まずは例年通りの回数を考えています。

(4) 国立病院総合医学会について

① Q: 国立病院総合医学会の発表演題や参加者人数等の報告はないのですか。

A: 現在の国立病院総合医学会のエントリー方式や発表の割り振りでは、把握が困難です。各施設からエントリー状況を報告してもらうなど検討したいと思っています。

(5) 関信支部学会について

① Q: 関信支部学会の開催方法について。一昨年と同じように外部委託にした場合の参加費などについて

A: 集合型開催の場合、運営の一部を外部委託で考えていますが参加費の増額がないような予算立てを考えます。非集合型の場合は広告収入が取れるようでしたら会費と合わせた予算の中で検討いたします。非集合型の場合も、Web 形式の開催を検討しています。

② Q: 支部学会地区会コーナーのポスター掲示について、マンネリ感があり内容の検討または廃止

A: 関信支部としては継続する方向で考えております。またポスター印刷に係る費用負担が大きいとの御意見もあることから、支部ニュース印刷をお願いしている印刷所に印刷を一括して依頼するなど検討しております。その際には、データ提出のため期限厳守が原則となります。今年の場合はデータを提出していただきホームページ上に掲載するなどを考えております。

③ Q: 地区会の活動のひとつとなっているので、内容が変わる場合は早めに情報提供をお願いします。

A: 随時情報提供いたします。

(6) 研修会ライブラリ活用状況について

① Q: 研修会ライブラリ活用状況について

A:令和元年度に新潟地区会からの貸し出し申請が1件あったのみです。

3) 広報関係

(1) 支部ニュース関連

- ① Q:これまでの検査や感染対策など、新型コロナウイルスに関する各施設の問題と対策や経験談や失敗談・工夫したこと等を文章化してまとめたものを定期的に（例えば関信支部ニュース等で）情報発信してもらえないか検討して頂きたい。

A:検討させていただきますが、関信支部から情報を把握することも難しいため是非各地区会の会員の方々から投稿をお願いいたします。

- ② Q:最近は学会誌も印刷物がなくなっている状況で、関信支部ニュースもホームページに掲載されているので、わざわざ印刷して配布することもないのでは。出来るだけ理事の負担も軽くなる方向で考えてみてはいかがでしょうか。

A:大変恐縮ですが、私の周辺で印刷物がなくなったというようには感じません。ホームページのアクセス状況を毎月確認していますが、多くの会員がアクセスしているとは考えられません。また、印刷物の配布でも全ての会員に読んでもらえていないと思われます。今後の検討課題としていきます。

(2) ホームページ関連

- ① Q:新型コロナ関連事項について関信支部ホームページに枠を設けるなど、情報共有の場を提供して欲しい。

A:本部専門職およびグループ専門職からの情報提供等が職場長宛てに発信されているので活用していただきたい。また新型コロナ関連情報は日々様々な情報が更新されている現状では、支部ホームページでコンテンツを管理するのは困難と考えます。

- ② Q:参集型のイベントが難しい折、ホームページの更なる充実、活用の推進をお願いしたい（新入会員の自己紹介記事等）。

A:一部、支部ニュースの紙面で企画していますが早急に検討していきたいと思います。

4) 他協議会対応

(1) 国臨協本部（事業関連）

- ① Q:ホームページ上で各種申請手続きが可能となれば良いのですが。

A:国臨協本部の様式がWord等の電子書式で配布されていないのと、直接入力フォーマットに変更しなければならないと思われます。国臨協本部に要望いたします。

- ② Q:タスク・シフト/シェアの各施設の状況などについて情報共有していただけると良いと思います。

A:国臨協本部および技師長協議会の事業として行われていますので、そちらを参考

にしていいただければと思います。

- ③ Q:認定資格手当の充実。認定資格取得及び維持に対しモチベーションの向上のためにもお願いしたい。

A:国臨協本部および技師長協議会から院長協議会等への要望として行っています。

(2) 専門職対応

- ① Q:関信支部として、関信グループ管内施設にて新型コロナ陽性の会員が発生した場合、近隣施設より応援体制が可能かどうかについて調査検討しているのか、または今後調査していく予定はあるのか教えていただきたい。

A:関信支部として調査することはないと考えています。

【専門職より回答】

A:関信グループ管内の臨床検査室において、複数の感染者がでるという状況にはなっておりませんが他のグループでは起きています。この場合、他施設から派遣するということが実際に行われており、派遣が必要な事態となった場合はグループ主導で考えることになると思います。しかし人材を派遣したとしても受け入れる施設が応援体制を想定していない場合は、その対応自体が困難になってしまうと思いますので常日頃から施設ごとにおいて応援体制を想定のもと BCP を策定しておいたほうがよいと思います。危機管理という点も踏まえて策定しておいていただけるとよいと考えています。

茨城地区会提出議題

- ① 年度スケジュールを新型コロナウイルス感染拡大程度の「収束」～「拡大」を3段階程度に仮定して、それぞれ提示することは可能でしょうか（オリンピック開催有無含む）

支部からの回答

- ① COVID-19 感染症の状況による年間スケジュールの提示は困難と考えます。
現在、非集合型開催についての方法案を検討していて、今年度中の開催を見込んでいます。

栃木地区会提出議題

- ① 人事異動後の地区会役員の変更について

支部からの回答

- ① 異動によって地区会役員が交代する場合は、代行を立てるのか改めて選出するのかは、地区会規程で決めていただきたい。交代時は支部に連絡いただきホームページ等でも周知させていただきます。

群馬地区会提出議題

- ① 新型コロナウイルスで初めて PCR 検査に携わる人も多いと思うので、PCR 検査に関する研修会を企画してはいかがでしょうか。
- ② 最近は学会誌も印刷物がなくなっている状況で、関信支部ニュースもホームページに掲載されているので、わざわざ印刷して配布することもないのでは。出来るだけ理事の負担も軽くなる方向で考えてみてはいかがでしょうか。
- ③ ホームページ上で各種申請手続きが可能となれば良いのですが。

支部からの回答

- ① COVID-19 検査についての研修会を企画しています。PCR 検査に特化した研修会については検討いたします。
- ② ホームページのアクセス状況を毎月確認していますが、多くの会員がアクセスしているとは考えられません。また、印刷物の配布でも会員全てが読んでもらえていないと思われます。今後の検討課題としていきます。
- ③ 国臨協本部の様式が Word 等の電子書式で配布されていないのと、直接入力フォーマットに変更しなければならないと思われます。国臨協本部に要望いたします。

埼玉地区会提出議題

- ① アンケート調査を踏まえた学術委員会の活動内容について今後の方針を知りたい。
- ② 今年の合同交流会においては新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われるがその判断基準・時期についてはいつ頃なのかお聞きしたい。
- ③ コロナ禍等を教訓にした集合形式以外の研修会のあり方について、今後の方針を伺いたい（Web 研修の開催等）

支部からの回答

- ① 本日、学術担当より報告させていただきます。
- ② 令和 3 年度合同交流会について、例年の日程では開催しないことは理事会では決定いたしました。地区代表者会議での了承を得て会員に周知させていただきます。政府や都道府県もハッキリ出せていないのと同様に難しい状況ですが、出来るだけ早い段階でお知らせできるように努めます。
- ③ 学術より詳細な報告させていただきますが、現在 Web 形式の開催について検討しております。

千葉地区会提出議題

- ① With/After コロナに即した、関信支部のあり方について
 - a) 研修会及び支部学会について、Web 形式、ハイブリッド形式など開催方法の検討をお願いしたい
 - b) 会員相互の交流について、参集型イベントが難しい状況での方法を検討いただきたい
- ② コロナ関連事項について関信支部ホームページに枠を設けるなど、情報共有の場を提供して欲しい
- ③ 参集型のイベントが難しい折、ホームページの更なる充実、活用の推進をお願いしたい（例：新入会員の自己紹介記事等）

支部からの回答

- ① a) 学術より詳細な報告させていただきますが、現在 Web 形式の開催について検討しております。
b) 感染対策を十分に行う条件下での開催も考えられますが、参加希望が見込めないのではと思われます。集合型開催が出来る状況までは、ホームページ等を利用した会員紹介などを企画していきたいと思います。
- ② 一部、支部ニュースの紙面で企画していますが、早急に検討していきたいと思えます。

東京地区会提出議題

- ① 支部学会の開催方法について（一昨年と同じように外部委託にした場合の参加費などについて）
- ② 研修会ライブラリ活用状況
- ③ 理事会の開催形式（オンラインによる会議が可能となっているが支部理事会は新しい体制にするのでしょうか。）

支部からの回答

- ① 集合型開催の場合、運営の一部を外部委託で考えていますが、参加費の増額はないよう予算立てを考えます。非集合型の場合は、広告収入が取れるようでしたら会費と合わせた予算の中で検討いたします。非集合型の場合も、Web 形式の開催（オンデマンド）を検討しています。
- ② 令和元年度に新潟地区会からの貸し出し申請が 1 件あったのみです。
- ③ 今年度は、集合型・オンライン型・ハイブリッド型の全てについて実施いたしました。一切集合できないことや一部の理事は集合できるなど状況により様々でしたが、議論が活発にできるのはやはり集合型であることでした。
今後は状況を見ながら出来るだけ集合して開催していきたいと考えています。

東京・山梨地区会提出議題

- ① 新型コロナ対応についての情報共有して頂きたい（各施設で困っていることなど）
- ② 支部主催の研修会開催について COVID-19 感染症により集合型開催は難しいが、それに代わる研修会の検討が必要ではないか
- ③ 支部会費の検討について、今年度の事業は COVID-19 感染症により活動されていないので、残金がいつも以上になる 次年度の対応を検討する必要があるのではないかと
- ④ 学術委員会のあり方について、大変多くの委員がいますが、実際に活動しているのは極少数で、一部の支部運営に関わっているのみである
- ⑤ タスク・シフト／シェアの各施設の状況などについて情報共有していただけると良いと思います。

支部からの回答

- ① 千葉地区会で回答済み
- ② 茨城地区会・埼玉地区会で回答済み
- ③ 繰越金は例年以上になることは間違いありません。しかし、会費改定は考えていません。

理由 1：規程をその都度改定しなければならないため。減額改定を望まれているかと思われるが、一度減額すると増額しづらくなると思われます。

理由 2：Web 形式の研修会、学会を検討しており、予算計上を考えています。

理由 3：令和 4 年度は関信支部創立 50 周年を迎えます。記念行事や記念学会も視野に入れなければならないと思いますのでご理解いただきたいと思います。

- ④ 今年度は活動していないように思われますが、学会抄録査読や各地区会研修会への派遣、支部ニュース企画への協力、今年度も学会抄録集に分科会協力をしていただいております。アンケート調査を実施させていただきましたので、その結果を踏まえ更なる委員会活動を検討していきます。各地区会からの要望をお寄せください。
- ⑤ 国臨協本部および技師長協議会の事業として行われていますので、そちらを参考にいただければと思います。

神奈川地区会提出議題

- ① 人材育成についてどう考えているか（来年以降の退職者が多いため）。
- ② 国臨協関信支部として、関信管内施設にてコロナ陽性の会員が発生した場合、近隣施設より応援体制が可能かどうかについて調査検討しているのか、または今後調査していく予定はあるのか教えていただきたい。
- ③ 支部会費値下げについて
- ④ 学術委員会について、利用するにあたり敷居が高い気がします。ちょっとしたことを聞きたくても Q&A 集に施設名、個人名を載せられると聞きづらい。

- ⑤ 国立病院総合医学会の発表演題や参加者人数等の報告はないのですか。
- ⑥ コロナ禍において、来年度の合同交流会開催は難しいのではないかと、また、代案を検討しているのでしょうか。

支部からの回答

- ① 関信支部としては、新人向けや中堅技師向けの研修会を企画していきます。管理者研修については、関信グループや技師長協議会で企画されています。関信支部も関信グループに中堅技師向けの研修を協力させていただいております。
- ② 茨城地区会・埼玉地区会・東京山梨地区会で回答済み。
- ③ 関信支部として調査することではないと考えています。
- ④ 東京山梨地区会で回答済み。
- ⑤ 質問する際には、必要事項ですのでご理解いただきたい。ホームページに Q&A として掲載する際については、検討いたします。
- ⑥ 現在の国立病院総合医学会のエントリー方式や発表割り振りでは、把握するのが困難であります。各施設から、エントリー状況を報告してもらうなどの検討をしたいと思います。
- ⑦ 埼玉地区会で一部回答済み。代案については、時期をずらした開催（ビアパーティー時期）など検討いたします。

新潟地区会提出議題

- ① 認定資格手当の充実について、認定資格取得及び維持に対しモチベーションの向上のためにもお願いしたい。
- ② 新人教育の充実について、基礎教育研修会は学術事業方針で決定しているところですが、技術面での教育研修等を検討していただきたい。
- ③ オンライン・Web 環境のソフト、ハード面での充実について、コロナ禍の中、オンライン〇〇、Web〇〇がかつてないスピードで浸透してきた中での特にハード面での充実をお願いしたい。
- ④ Web 形式の研修会等を積極的に進め、情報提供をお願いしたい。
- ⑤ 支部学会地区会コーナーのポスター掲示について、マンネリ感があり内容の検討または廃止。

支部からの回答

- ① 国臨協本部・技師長協議会から院長協議会等への要望として行っています。
- ② 技術指導についても、学術委員派遣を可能としていますので、要望を出していただきたいと思います。但し、実施出来るかの検討はさせていただきます。以前の輸血検査（有志の会）のような技術研修会は、学術委員企画として開催が可能で、輸血

部門では実施し支部からの支援もしています。会員からの要望も検討いたします。通常研修会のような技術研修会を関信支部で開催するのは困難と考えます。

- ③ 関信支部としては考えていません。全施設や全会員となると予算的にも困難です。施設の設備を利用いただきたい。自宅での設備となると、通信設備、通信料までと要望が広がる可能性がありますのでご理解ください。
- ④ 茨城地区会・埼玉地区会・東京山梨地区会・神奈川地区会で回答済み。
- ⑤ 関信支部としては継続する方向で考えております。

長野地区会提案事項

- ① コロナ禍の影響で地区会の研修会等が中止となり研修機会も減った。今後学術委員会が各地区会への学術サポートをどの様に考えているのか。また、どんな形でサポートできるのか具体的な提案をいただきたい。
- ② 今後のコロナ禍での国臨協関信支部学会の開催と症例数の確保、および非集合型で開催された場合、演題数が多数となった場合の配信についての構想を提示していただきたい。
- ③ 国臨協関信支部学会の地区会コーナーについて。非集合型で学会が開催された場合でも、何らかの形で再開できるように検討して頂きたい。
- ④ これまでの検査や感染対策など、新型コロナウイルスに関する各施設の問題と対策や経験談や・失敗談・工夫したこと等を文章化してまとめたものを定期的に（例えば関信支部ニュース等で）情報発信してもらえないか検討して頂きたい。
- ⑤ 地区会総会・研修会が中止となったため、専門職や関信支部からの研修機会を失ってしまった。予定されていた研修内容や連絡事項等を何らかの形で配信してもらえないか。

支部からの回答

- ① 様々な形式で支援したいと思い検討していきます。現状で各地区会に派遣することは困難であります。Q&A 活動や支部研修会の記録も継続して行って参りますので、是非活用していただきたいと思います。
- ② 具体的な提示は出来ませんが、オンデマンド形式での開催を検討しています。運営の一部を外部委託し対応していくことも検討しています。
- ③ 電子媒体での投稿などを検討したいと思います。
- ④ 検討させていただきますが、是非投稿をお願いいたします。
- ⑤ ホームページ上の掲載・配信を検討いたします。
- ⑥ 専門職からの連絡事項については、別途回答させていただきます。

令和 3 年度 地区会提出議題

1) 事務局関連(会員交流を含む)

(1)Q:Web 会議が主流になっており、交通費等が節約されるので会費の値下げをお願いしたい

A: 次年度は、コロナ禍の現状を踏まえて、Zoom ウェビナー契約を継続し、研修会（支部・地区会）、Web 会議（支部・地区会）などに活用していく。また、関信支部学会が第 50 回の記念学会となり、新たに EventIn 配信（V-CUBE）や特別講演等も企画する予定でいるため、会費の値下げは考えていない。原則、第 50 回記念学会の参加費は徴収しない方向で検討している。

(2)Q:Web を取り入れて簡便に会議や研修会などが開催できるが、理事の方々への負担が過度になっていないか。本来業務に影響がないか。

A: 集合型の理事会や研修会と違い、開催施設へ日常業務を休んで出向く手間が削減されたことと、基本的には、最大限 Zoom ウェビナーを活用し、理事会等は日常業務が終了した 17 時 45 分以降に開催をしている。また、研修会は、休日（土曜日 13:00～）集合型で開催していたが、今年度は、Zoom ウェビナーを活用したオンデマンド配信を中心とした研修会となっており現地での準備、運営、撤去作業等も無くなり、負担は軽減されていると考えている。個人に過度に負担がかからないように、業務を分担して会務にあたっている。本来業務に影響がでない支部活動になるように、今後も、事業計画の見直しや会務の効率化を進めていく。

(3) Q:会員相互の親睦に Web 等を利用した交流の場を検討しとあるが、実際は会話が一方通行になりがちになるが、どのような計画をしているのか。

A: 今年度は学会にて期間限定とはなりましたが、学会特設サイトを設け、PDF（PowerPoint 版）という形で地区会ポスターを作成していただき、Web を利用した各地区会による交流の場を提供した。また、Zoom ライセンス契約により各地区会に Web 環境を提供したことは、集合できない時世において総会や研修会を行える交流の場であったと考えている。会話による会員相互の交流については、今後の課題（チャット機能・Q&A 機能の活用）と考える。

(4)Q:Web 研修会等を開催するにあたり、専門業者が入ったと思うが、その業者の選択理由があれば教えて頂きたい。

A: Web 会議システムの導入を検討した中では、Microsoft Teams や Webex など検討したが、見積り金額と 24 時間サポート・録画機能の他、支部として初めて試みる Web 会議やオンデマンド配信の運用支援の手厚さと他学会運営などの業務実績を鑑みて、V-CUBE 株式会社「Zoom ミーティング Pro プラン（5ID）+Webinar500（1ID）」

の採用を常任理事会において決定した。

2) 学術関係（学術委員会含む）

- (1)Q: 昨年同様に感染拡大の状況であればオンデマンド配信の方が多くの会員が参加できるが、感染状況が落ち着いた場合は集合型で開催されるのか。また、ハイブリッド型（集合型+Web）で開催し、会員が視聴方法を選択する事ができる方式の運用は可能なのか。
- (2)Q: 各専門学会等と同様にハイブリッド型（現地参加型+Web 方式+オンデマンド配信）での研修会の開催について
- (3)Q: 集合型の研修会が難しければ Web 方式の研修会を積極的に進め、情報提供をお願いしたい。
- (4)Q: 技術的な面を取り入れて、ハンズオンセミナーを企画してほしい。
- (5)Q: 交通費や移動時間も考慮して今後も Web での研修会等の開催を期待したい。

A: (1) から (5) について新型コロナウイルス感染症の状況次第で Web 方式、オンデマンド配信、集合型（現地参加方式）を使い分けていきたい。ハイブリット方式については費用対効果を考えると支部としては行う予定はない。ハンズオンについてはコロナの感染状況を考慮して今後検討させていただく。

- (6)Q: 今後の研修会の開催方法について Web 中心としていくのか、参加型とのすみわけを教えてください。判断基準があるのか。

A: 来年度は Web 方式とオンデマンド配信を中心に研修会を開催する予定。新型コロナウイルス感染症の状況次第で集合型（現地参加方式）についても検討していく。

- (7)Q: オンデマンド配信だけだと臨場感がないので、ライブ配信で開催する会もあるとよい。

A: 令和 3 年度症例検討会はライブ配信を予定している。積極的な参加をお願いしたい。

- (8)Q: 学会および研修会等の配信期間をもう少し長くしてほしい。

A: オンデマンド配信の期間は、現状 2 週間としている。要望が多ければ期間を延長することは可能。また研修会資料は原則アーカイブ資料として貸出可能である。

- (9)Q: 事業方針案にもある法改正による業務拡大の研修会はどのような内容を予定しているのか。

- (10)Q: 新型コロナ感染者数が減少しているとはいえ、まだ Web 研修を続けていただきたい。オンデマンド配信は空き時間に学習できるのでよいと思う

A: (9) および (10) について、法改正（タスク・シフト）による業務拡大の研修会は日臨技の協力が必要となる。日臨技からの実技講師派遣については、座学修了者 60 名以上

を対象に都道府県単位で行えると聞いている。会員 60 名以下の地区会もあるため、支部では日臨技を介しての対応は行わない。今後、業務拡大に伴う研修会の開催については検討していく。

(11)Q:研修会ライブ러리活用状況について

A: 来年度は Web 方式とオンデマンド配信を中心に研修会を開催する予定。新型コロナウイルス感染症の状況しだいで集合型（現地参加方式）についても検討していきたい。ハイブリッド方式で開催した場合は、会場にどれだけの会員が集まるかは不透明であり、費用対効果の面を考えると、支部として行わない方針である。開催方法については集合型+オンデマンド配信を推奨したい。令和元年度に新潟地区会からの貸し出し申請が 1 件あったのみとなっている。

(12)Q:学術委員会の活動内容が不透明であり、もっと会員に情報発信をして頂きたい。

A: 現状としては、年度ごとに学術委員会の活動状況をホームページに掲載し、会員に周知している。今年度は学会（学会賞選考・分科会）、研修会のサポート、支部ニュースの Case study、Q&A の対応等積極的に活動を行った。

(13)Q:Q&A の利用実績の低さについて何か対策をされているのか。年に数件の利用に必要があるのか。

A: 手続きの見直しについては、今後検討を行い利便性の向上に努めていく。現状としては、令和 3 年 11 月 4 日輸血検査部門に対して東京地区会会員より「血液製剤運搬時管理方法について」質問があった。回答はホームページに掲載済み。

(14)Q:「学術委員会への質問がしづらい」質問内容、質問者の公開に疑問。個人が疑問で質問した情報を共有する必要があるのか。

A: 会員から同様の質問があった場合に情報が公開されていると、その場で確認できる利点もある。質問者等の情報については、個人情報でもあり、必ずしも公開しなくてよいと考えている。今後の検討課題としたい。

(15)Q:質問や相談するのにちょっと敷居が高いような気がします。

A: 運用手順等については、学術委員会と協議して来年度の課題としたい。

(16)Q:人数が多すぎないか。

A: 来年度、学術委員会部門員の改選が行われるので、活動内容などを検証して、学術委員会規程（第五条委員）の改訂を検討したい。

(17) Q:Web+オンデマンド配信で研修会を増やしてほしい。今までと同様に、大きい施設ならではの検査情報や知識、他施設の工夫などの発信を継続してほしい。

(18) Q:Web+オンデマンドを定着願いたい。

A: (17)および(18)について来年度は Web 方式とオンデマンド配信を中心に研修会を開催する予定。今年度も、12 月に開催した第 3 回研修会では国立成育医療研究センターに「新型コロナウイルスについて」、2 月に開催する症例検討会では、国立国際医療研究センター病院生理検査室にご協力を頂いて「救急症例」について症例提示と解説をお願いしている。今後も、学術委員会のお力をお借りしながら検査情報や施設での取り組みなど情報発信に努めていく。

(19)Q:他の地区会研修も視聴可能な運用はできないか。

A: Zoom のシステムとしては、他の地区会研修についても設定を行えば視聴可能ではあるが、他地区の研修会に参加可能かについては、研修会を開催する地区への確認が必要であり、双方で話し合いをして頂きたい。地区会が開催する研修会の予定については、支部事務局に事前にご連絡いただければ、ホームページ等に掲載は可能である。地区会費については支部では把握できていない。

(20)Q:参加者が自由に選択できるハイブリッド開催方式はいいのではないか

(21)Q:ハイブリット(集合+Web)方式は可能か。その場合、ウェビナーの契約と会場運営の両者の外部委託契約とするのか。

(22)Q:各専門学会等と同様にハイブリッド型(現地参加型+Web 方式+オンデマンド配信)での学会の開催

(23)Q:今年のやり方はよかったと思う。今後、対面式で行ったとしても、ライブ配信やオンデマンド配信などハイブリッド型で行うとよい。

(24)Q:コロナ終息後もオンデマンド配信は続けてほしい

(25)Q:現地集合型の方が議論は進むと考える。ハイブリッド開催が良いと思う

(26)Q:対面方式では発表が重なって聴講できないので、今後も Web+オンデマンド配信を継続してほしい

(27)Q:オンデマンド配信は当日参加できなかった人にはとてもいいツールですが 1 週間の配信では少し短いのでは

(28)Q:遠方の会員が、移動時間を費やすことなく参加できる方式であるので、集合型が可能となっても、Web を活用した、ハイブリッド型開催の継続を検討してほしい

A: (20)から(28)について、ハイブリッド方式で開催した場合は、会場にどれだけの会員が集まるかは不透明であり、費用対効果の面を考えると、支部として行わない方針である。開催方法については集合型+オンデマンド配信を推奨したい。オンデマンド配信期間については、現状 2 週間としているが、延長のご要望があれば対応は

可能である。

(29)Q:学会発表者への連絡事項(スライド作成方法、発表の方法など)や発表当事者への連絡がなかなか来ず、不安になり問い合わせ確認した例があった。初めての試みの時は特にご配慮をお願いしたい。

(30)Q:今回初めての試みが沢山あったが、座長や、発表者への打ち合わせが少なく、不安になる場面があった。

A: (29)および(30)について、初めての試みのため連絡等が遅くなってしまった。今年度の教訓を生かして、次年度の学会で対応に努めて行く。

Q: 今回、選出された座長が担当している業務と発表セッション内容が多岐にわたっていた。今後は分野ごとの座長を組み合わせさせていただきたい。また発表施設と座長の施設が重ならないよう選定していただきたい。シンポジストについては広報関連で掲載がされていないので、名前ぐらいは掲載していただきたいと思う。

A: 次回の学会では改善に努める。

(31)Q:地区会ポスターコーナーは今回のような方式が各地区の負担減(金銭的、作製行程、作製期限等)に繋がり、次回の学会が参加型となったとしても来年度も同様に検討したい。

(32)Q:地区会コーナーは不要、各地区新人紹介(転勤者除く)企画のみで良いと思う。

A: (31)および(32)について、学会特設サイトを設け、PDF (PowerPoint 版)という形で地区会ポスターを作成していただき、Web を利用した各地区会による交流の場を提供できた。来年度についても同様の方法で行うことを予定している。ご協力をお願いしたい。

(33)Q:第 50 回関信支部学会の記念学会としての企画などは計画しているのか。

A: 第 50 回の記念学会となるため、新たに EventIn 配信 (V-CUBE)や特別講演等も企画する予定でいる。9 月 3 日(土)に開催を予定しており、学会テーマは「未来への跳躍～過去から学び未来へつなぐ～」である。ご支援とご協力をお願いしたい。

(34)Q:参加人数把握について、施設によっては代表者がログインしているため全参加人数の把握が出来ていないのでは。施設で何人参加したか代表者に確認するか、各自で必ずログインして下さいなどの事前のアナウンスが必要ではないか。

A: 現在は Google フォームを用いて参加人数および日臨技生涯教育研修制度自己申告申請を行っている。ご協力をお願いしたい。

(35)Q:学会発表時の Q&A で質問は限界があるのでは (文章の長い質問は入力にも時間がかかるので、やはりリアルタイムでの質問方がいいのではないか)

A: Zoom ウェビナーを使用した場合、リアルタイムに質疑が行えるツールがない。今後の検討課題とする。

(36)Q:Web 方式でも参加費用は徴収してもいいのでは。

A: 第 50 回支部学会については、Web 方式で学会を開催する予定で準備を進めている。令和 4 年度の会費は減額する予定はなく、原則参加費は徴収しない方針である。

(37)Q:Web+オンデマンドを定着願いたい。

A: 支部学会については、伝統もあり、今後も継続していくことになる。しかし、開催方法やプログラム等については、時代に合わせて変えていくことが求められると考えている。

3) 広報関係

(1)Q:支部ニュース投稿原稿の依頼については提出期限に余裕を持って頂きたい。

A: 原稿依頼の目安は、基本的に 1 か月程度と考えているが研修会等の日程や執筆者の人選等の関係で提出期限に余裕がない場合があり、ご迷惑をおかけしている。今後は事前に執筆者を人選する等の対応をし、1 か月程度の執筆時間が確保できるよう努める。

(2)Q:ホームページの閲覧は研修会や学会時に多いと思うが、それ以外の期間での利用者向上のための工夫や取り組みがあれば教えて頂きたい。

A: ホームページ更新時に、施設連絡責任者宛に更新内容をメールにて配信し、アクセス向上に努めている。

(3)Q:会員専用ページに Q&A などのバナーを設置するなどには可能か。(学術委員会の Q&A とは別)

A: バナー作成には、画像素材の用意、デザイン、サイズの設定など高度な Web 技術が必要であり、個人で運営管理するホームページに、新規で作成し、設置するのは難しいと思われる。

(4)Q:会員専用ページに支部ニュース以外の情報掲載(専門職よりの情報提供、会員よりの情報提供など) 掲載期間の設定が可能でインフォメーション的な情報共有できるバナーの設置はどうでしょうか。

A: 会員専用ページに、支部ニュース以外の情報掲載は、現在もできる限り行っている。

昨年は専門職よりの情報提供として、COVID-19 関連情報の掲載を行った。掲載期間の設定等、技術的に高度になると個人の運営管理では限界があるので、外部委託することも検討することになると思われる。外部委託した場合、更新内容によるが、毎月数万円程度はかかると予想される。

(5) Q: 閲覧しやすい。

(6) Q: 研修会がホームページからの利用となりアクセスする機会が増えた。

(7) Q: 利用しやすくなったと感じている。

(8) Q: 更新情報をメール配信してくれることにより、閲覧意欲が向上したと思う。

A: (5)から(8)について、今後も閲覧のしやすいホームページ運営を継続するよう努める。今後もアクセスの多いページに関しては、トップページから直接アクセスできるよう努める。(7)および(8)について今後も更新情報のメール配信等、会員の利用しやすいホームページ運営を心がけていく。

4) 文化活動関連

(1) Q: 飲食を伴わない交流会の開催は可能か。

(2) Q: 集まるのは新人と年齢層が上の人が多いので、中間層の参加が多くなるとよい。

A: (1)および(2)についてコロナ禍・after コロナにおける検討事項と考える。Zoom ウェビナー契約により Web を用いた交流を検討する一方で、集合型開催が可能になった際に検討したいと考える。

(3) Q: 他地区、施設の方と交流できる数少ない行事であるため今後も行ってほしい。

(4) Q: 新型コロナが終息したら再開してほしい。

(5) Q: 令和 4 年度の文化活動においてもコロナの影響が大きいかと思われますが判断基準と開催時期についてお聞きしたい。(特に直近の支部定期総会と合同交流会はどうでしょうか)

(6) Q: 合同交流会は何時からあの形になったのでしょうか。転勤でお世話になった退職者へ、お祝いやお世話になったお礼を込めた原点に戻る必要があると思う。会員登録していない退職者に会った事もない新人を同調圧力で参加させている感が否めない。新人をひっぱり出すのは研修会や支部学会からで良いと思う。

(7) Q: ビアパーティーは今の時代、不要ではないかと思う。

A: コロナ禍により過去 2 年間開催できておらず、昨年度は中止に伴うキャンセル料が発生した。合同交流会は参加者の会費によって賄われる文化会であったが、前支部長の決断により支部会費からキャンセル料を支払った経緯があり、今年度も開催できる見込みはない。また会員数も 688 名と多くなり、会場の確保を含めて安定した運営自体が難しいと判断したため合同交流会の廃止を提案する。令和 4 年度集合型

懇親会（ビアパーティー等）についても、新型コロナ感染状況および例年の参加者（230 名程度）を収容できる会場の確保が難しいこともあり中止する。

Q: 3 月に退職される方々は合同交流会の準備や開催等で苦勞されたことが予想できる。その方々が退職される時に支部として丁寧に説明していただけたらと思う。

A: 会を重ねる毎に主任以下の参加が少なくなってきており、技師長や副技師長のみの参加が多くなった。また現状、再任用される場合も多くなり退職されてもそのまま継続して働かれる方も多くなっている。提案という形にはなるが合同交流会については廃止にさせていただきたいと考えている。今回退職される方々には丁寧に説明させていただく。

Q: 今回、地区会からの意見で廃止してもいいのではないかという意見も挙がっている。今回の令和 4 年度ということだが、令和 5 年度以降はどのようにするのか教えていただきたい。

A: 合同交流会の役割は果たされたと考えている。合同交流会自体、会員の参加費に賄われる会であったが、昨年度は中止に伴うキャンセル料を支部の会費より支払った。会員数も増えていることから支部で運営できる規模を超過しているのが現状であり、合同交流会の廃止をご提案しています。ビアパーティーに関しても、前回 200 名を超え会場の予約や運営をすることが難しくなっている。支部理事会で話している事だが、各地区会単位で同様な会を開催していただき、支部から金銭的な援助などを行い、支部役員も参加させていただくことも可能ではないかと考えている。各地区会の会員数（合同で行った場合を含め）の規模であれば会場確保も可能になるが、支部全体の会員数（668 名）では、開催会場がホテル規模になり、開催費用が会費 5,000 円で賄えなくなっている。学会運営方法についても今後検討を行い、懇親の場を 17 時以降ではなく 15 時開始にすることや、学会参加費に予め懇親会費を含めるなどの工夫をして、会員の皆様が気軽に参加できる懇親の場を提供していきたいと考えている。

5) その他

(1)Q:タスク・シフト/シェアについて、支部としてどのように関わっていくか教えてほしい

(2)Q:タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実務講習）を関信支部で企画できないか。60 人以上の参加者がある場合は日臨技より講師派遣が可能と聞いている。

A: (1)および(2)について、国立病院臨床検査技師協会（本部）の令和 3 年度事業方針（継続事業）の中に「タスク・シフト/シェアを考慮した医療の推進」があがっている。支部としては本部と協調しながら、日臨技が行う「タスク・シフトに関する厚生労働省関連講習会」への会員の受講状況などを見ながら研修会など対応を検討していきたい。実技講習については都道府県単位での講師派遣となるため、支部主催で行う予定はない。

Q: 職能団体で可能になった場合は前向きに考えていただきたい。

A: 今後、学術委員会と話を詰めて前向きに考えていきたいと思う。

(3)Q: 計画的な理事の育成をお願いします。

A: 今年度から、部門（事務局・会計・学術・広報）ごとにリーダーを設けて、リーダーを中心に会務（企画、運営、管理など）を行っている。また、すべての理事に、会務の割り当てを行い、業務の達成については三役が支援や指導などを行っている。会務については、定期的に引継ぎ書の改訂を行い、次年度会務の効率的な移行と教育に活用している。

(4)Q: 医療機器整備について、今後の整備計画の情報や共同購入等に関する情報があれば教えてほしい。

【臨床検査専門職からの回答】

A: 機構本部において進められている医療機器共同入札については、以下の 6 機種において実施されている。超音波診断装置、脳波計、心電計、生化学分析装置、血球計数器、全自動血液凝固測定装置これらの機器を申請する際には、機会均等の原則に則り、透明性、競争性、公正性、経済性を確保するために一般競争入札に付することを原則としている。

共同入札は、「施設ごとに実施していた入札行為を、本部において実施する」、「同等の機能を有する 2 機種（以上）が入札に参加出来るよう、仕様書を作成する」、「各施設からの要望で、希望する 2 機種が同一の場合、一つの山として入札する」、「統一規格の機器を入札し、施設に分配することを目的としたものではない」

令和 4 年度 地区会提出議題

(1) 事務局関連

① Q:会議や学会はWeb が中心になっているので会費値下げの検討について

A: (Ⅰ)会議や研修会等で使用している Zoom ミーティング Pro(5ID)プランの契約料(株式会社 V-CUBE)は、年間 407,484 円(税込み)(Ⅱ)学会運営で使用したライブ配信型オンラインイベントプラットフォーム方式 EventIn(株式会社 V-CUBE)は 8 時間以内講演×500 拠点配信で 1,331,000 円(税込み)(Ⅲ)ホームページ運営費用(GMO 利用料:114,912 円・更新料:1,628 円)116,540 円(税込み)で運営を行った。(Ⅰ)の運用実績等は別紙資料を参照。(Ⅱ)の実績は会員 431 名(会員以外の参加者:19 名)の参加を得て開催した。学会参加費用は無料にて実施した。(Ⅲ)ホームページ運用実績は別紙資料参照。新型コロナウイルスを想定した新たな生活様式を遵守して支部運営を行っているが Web 関連費用は高額となっている。広告掲載収入も減少傾向にある。今後、支部ニュース等の発行費用、配送費用、行動費(交通費等)の値上げも予想されるため、経費の見直しなどを進めて会費の値上げ等につながらないように健全な事業運営に努めて行きたいと考えている。現状としては会費の値下げは検討していない。

② Q:関信支部理事について(協議会運営の基礎を関信支部にて教育していただき、上位組織へ円滑に参加できるよう人材育成の検討と組織の恒常的な運営をおこなうため、人材の適正な育成と組織の体質改善のために定期的な役員入替の実施、理事の負担を減らす仕組みや、持続可能な活動の再構築)

A:今年度、支部役員の会務による負担を軽減するために支部役員の増員(3 名)を行いました。Zoom ミーティング Pro(Web)を活用し、Web 会議を主体的(常任理事会 12 回開催の内 10 回は Web 会議)に行うことで、集合型開催(遠隔地から交通手段を用いての移動など)負担の軽減化がはかれていると考えています。また、後進の育成については、各副支部長(学術・広報)と事務局長が統括し、事務局、学術、広報(ホームページを含む)に支部事業に精通したリーダー理事(専任)の指導の基で、理事(新人を含め)の教育及び会務を遂行している。理事は担当した部門の業務内容等の理解を深めるため、原則 2 期は同じ部門を担当していただくこととしている。各理事の理解度を確認しながら、定期的(1 回/2 期)に担当部門のローテーションを行いながら、幅広い会務を経験していただき、他協議会などの多くの人的交流を通じて、今後指導的立場で活躍してくれる人材育成に努めています。

③ Q:各地区会の支部理事について(各地区会の支部理事との連携、各地区担当理事と自施設の地区会理事との連携、活動状況報告などはポイントを絞り記載、報告)

A:今年度、新たな試みとして各地区会(10地区会)に原則1名の理事を配し、コロナ禍で途絶えがちとなっている地区会との交流(情報交換等)と会員の皆様方のご意見やご要望を迅速に支部運営に反映するための体制を構築しました。毎月開催(原則第2週目の木曜日)される常任理事会にあわせて、各地区会担当理事が、メールを用いて各地区会事務局長などから活動状況、要望事項などのご報告を受け、常任理事会で報告をいただいています。支部としてはリアルタイムで地区会の活動状況、ご意見やご要望などを把握することができて支部会務の運営に迅速に反映することができております。また各地区担当理事が所属する地区会の活動状況などを把握し、常任理事会で報告を行うことは彼らにとって良い経験につながっていると感じています。なにぶん初めての事業で支部からの説明不足もあり、各地区会の皆様方には、ご迷惑をお掛けしました。この場をお借りしてお詫びさせていただきます。来年度も継続してこの事業を行うかについては地区会の皆様方のご意見を伺い、第51回国臨協関信支部定期総会議案書の審議事項(事業方針)に加えて行くか判断したいと考えています。運営方法(報告手段や内容など)などでご意見がありましたらご教示ください。

④ Q:Zoomなどを用いた会議、研修、学会運営について《生活等式(SNSの発達、家族環境の変化、核家族化に伴う育児負担)の変化や遠隔地からの参加費用負担などを考慮し、コロナ感染終息後も継続し活用》

A:令和2年度よりZoomミーティングPro(Web会議システム)を採用し、会議、研修会等で活用していますが、3年間の使用実績・効果などを検証し、会員からのご要望を考慮しながら、第51回国臨協関信支部定期総会議案書の審議事項(事業方針)に事業の継続について記載するのかを検討している。令和5年9月2日(土)に開催を予定している「第51回国臨関信支部学会」は、未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、前回と同様に「EventIn」を用いてテーマ「原点回帰 ～いま私たちができること～」で開催することに決まりました。集合型での開催を見送ることになりましたが、第50回記念学会では充足した活用ができなかった「トーク・交流機能」を最大限に活用して会員相互の交流の機会の充実を図ってまいります。多くの会員の皆様方にご参加いただきますように何卒よろしくお願いいたします。

(2) 学術関連

① Q:ガイドラインを取り入れた研修会の実施について

A:具体的にどの分野についてなのか不明ではございますが、今後、検討させていただきます。各地区会よりこのガイドラインについて研修会を行っていただきたいとご要望やご意見がございましたら、是非、お聞かせいただきたいと思います。

② Q:Web+オンデマンド配信で新たに導入した検査法や各病院の特徴の検査などの情報発信、その施設に特徴的な症例を持ち寄って症例検討会や研修会などの開催について

A:こちらにつきましても今後、検討させていただきます。

③ Q:Web 研修会について

A:Web 研修会は今後も継続して開催したいと考えております。現時点での研修会はオンデマンド配信とさせていただいており、3 週間程度の配信期間を設けております。また配信期間につきましては妥当ではないかと考えております。研修会の回数は年 3 回の研修会と症例検討会(本年度は未開催)の 4 回の開催となっておりますが、支部理事の負担等を考慮すると回数の増加は厳しいかと考えます。今後は、地区会主催研修会等を支部会員が視聴できるような運用を検討し、研修会の充実を図っていきたいと考えております。

研修会の Q&A 対応の強化とのご指摘をいただきました。現状では研修会視聴後にアンケートを実施し、そこでいただいたご質問につきましては、講師の方にお伝えし、ご回答をいただく流れになっております。今後はもう少しリアルタイムに対応できるよう検討させていただきます。

④ Q:今後の研修会について

A:研修会につきましては、現在 Web でのオンデマンド配信となっております。集合型の研修会につきましては、研修会の準備(会場の手配、講師の手配)に時間を要するため、新型コロナ感染状況が刻一刻と変化する中で、開催基準を設けることは現時点で難しいと考えます。数百人が参加する集合型の研修会の開催につきましても未だに新型コロナ感染症が終息していない状況ですので、新型コロナワクチンの接種状況や治療薬の確立等の社会的状況が整ってから、改めまして検討させていただきたいと考えます。また、支部としてもイベント開催に関しては素人同然で限られた状況の中で運営しておりますので、会員の皆様方におかれましてはご不便をおかけして大変申し訳ございませんが、何卒ご理解いただけると幸いです。

集合型の研修会が開催されることになりましたら、現地開催のみならず、オンデマンド配信等もできるよう準備を進めてまいります。また、ハイブリッド開催につきましては、外部の業者をお願いして開催することになります。料金を含めましてかなり高額になることが考えられます。限られた予算の中でハイブリッド型の研修会等を開催することが妥当であるかは今後の検討課題とさせていただきます。

(3) 学術委員関連

① Q:研修会について

A:研修会の内容につきまして、いろいろとご意見をいただき、ありがとうございます。「遺伝子検査関連」、「臨地実習指導者講習会」の内容につきましては検討させていただきます。タスク・シフト/シェアにつきましては令和4年12月に第二回研修会「臨床検査技師にとってのタスクシフト～その背景と今後に向けた考え方～」(基礎編)を開催いたしました。来年度は実技を含めたもう少し深く掘り下げた研修会を企画する予定です。

またハンズオンセミナーにつきましては、今年度の学会で学術委員会の分科会として生理部門の学術委員による超音波のハンズオンセミナーを開催させていただきました。ハンズオンセミナーは器材の確保や準備期間を要するため、回数を増やす事は難しいかと考えますが会員の皆様のご要望を鑑みて、開催できるよう準備を進めてまいります。

② Q:学術活動の広報的な役割を各地区会の担当者(若手)の活用。技師長、副技師長よりも技師の抜擢について

A:今後の学術活動の案内や報告、情報の共有につきましては、各地区の担当者から積極的に行うよう指導いたします。技師長、副技師長よりも技師の抜擢等、もう少し具体的なご意見を伺えると幸いです。

③ Q:Q&A(学術委員に対する質問)について

A:学術委員会へのご質問やご意見につきまして、ご指摘いただきました通り、あまり活用されていないのが現状です。現在ではホームページよりQ&A用紙をダウンロードしていただき、支部に送付する形式を取っております。今後は方法の簡素化に取り組んでまいります。ホームページに掲示板等を設けて気軽に質問ができる環境を整えていけたらと考えております。

ホームページの作りこみ等の状況も考慮しなくてははいけませんので、もう少しお時間をいただけると幸いです。ご理解のほど宜しくお願いいたします。

④ Q:学術委員の投稿を支部ニュース発刊前にチェックする体制について

A:支部ニュースへの投稿に誤記述(誤記載)があった件について大変ご迷惑をおかけしたこと及び不快な思いをさせてしまいましたことを改めてお詫び申し上げます。現状では、学術委員に投稿をお願いしている「覚えよう身につけよう検査技術」、「CaseStudy」につきましては、専門的な内容であるため、基本的に内容のチェックについては学術委員の方にお任せし、誤字や脱字等についてのみ支部理事の方でチェックさせていただいております。学術的な内容のチェックにつきましては、今後、学術委員会の方々とも話し合いながら、第三者のチェック体制を行うなどの検討も考慮させていただきます。

(4) 学会関連

① Q:関信支部学会の開催方法について《関信支部学会の感染管理を考慮した集合型(ハイブリッド方式を含めた)での開催、Web開催となる場合「EventIn」形式の継続と充実、Web+オンデマンド配信の継続》

A:令和5年9月2日(土)に開催を予定している「第51回国臨関信支部学会」は、未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、前回と同様に「EventIn」を用いてテーマ「原点回帰～いま私たちができること～」で開催します。集合型での開催を見送ることになりましたが、第50回記念学会では充足した活用ができなかった「トーク・交流機能」を最大限に活用して会員相互の交流の機会の充実を図ってまいります。多くの会員の皆様方にご参加いただきますように何卒よろしくお願いいたします。集合型及びハイブリット型での開催は、他会場(ホテル、貸会議場など)を予約して借りることの負担(費用・会場運営・Web環境の設営等)も大きいため断念しました。従来会場として使用させていただいた、国立国際医療研究センター病院の会議スペースをお借りできる状態が整い次第、検討していきたいと考えています。

オンデマンド配信は、関信支部主催研修会等で視聴期間を3週間と設定して運営を行っています。「EventIn」を用いた学会運営の場合、特別講演、学術委員による分科会、企業によりランチョンセミナーなどは録画することが可能です。しかし、支部で録画内容(音声、画像等)の編集に対応することはできません。また特別講演、企業ランチョンセミナーなどは、著作権等の問題もあり全てがオンデマンド配信に対応することはできません。しかし、可能な講演内容がありましたら、前向きにオンデマンド配信に対応していきたいと考えています。

② Q:最先端の検査を実施している NC などの内容紹介を動画で配信について

A: NC 等でおこなっている最先端医療（検査・治療など）の講演や内容紹介の動画などについては、学術委員会と協調しながら、NC のご協力を得ながら今後の学会企画等に反映していきたいと考えています。動画配信（YouTube 等）については、運用方法、撮影機材（カメラ・照明・編集ソフトなど）の準備等が必要で、予算を計上する必要があるため、今後の検討課題としたいと考えています。

③ Q:Web 開催となる場合「EventIn」形式の継続と充実について

A: 学会抄録集については、今後、プログラム集を作成して会員に配信する運用方法に変更を検討している。プログラム集には一般演題の抄録は掲載しません。抄録については学会参加登録をされた会員の方々にメール等でパスワード（PW）を送付して学会専用ホームページから参照（ダウンロード等）が可能となる運用にしたいと考えています。プログラム集は A5 版（サイズ：14.8×21.0 cm）として、印刷費用、配送費用等の削減を行いたいと考え検討を開始しています。

④ Q:地区会ポスター企画の再考（作成が負担となっている）について

A: 地区会ポスター作製は、歴史のある企画で、平成 24 年 9 月 1 日に開催された第 40 回関信支部学会から地区会コーナー優秀賞を選出しています。令和 3 年度第 49 回からは、PowerPoint 版での作成としました。年 1 回 10 地区の活動状況等をテーマに沿った形で各地区会が思考を凝らして個性あるポスターを作成いただいております、会員より人気のある企画で、毎回ご好評をいただいております。支部としては、継続して取り組んで行きたいと考えていますが、地区会のご負担を考慮する必要性もあると考えております。来年度以降の地区会ポスター企画の継続について各地区会からのご意見を頂戴したいと考えます。地区代表者会議で審議したいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

(5) 広報関連

① Q:支部ニュースのメール一斉配信、書面の廃止について

② Q:SNS を活用して、支部ニュース等の電子版の配信について

③ Q:携帯版ホームページ、YouTube、メールマガジンなどのコンテンツの活用について

A: 3 項目の要望すべてが支部ニュースについて、現在の紙面発行から他のコンテンツに移行もしくは併用するといったものです。検査関連学会等に

よる情報提供については電子化に移行しているものが多く見られ、このコロナ禍の影響で加速しているように思います。しかし、支部ニュースにおいてはすべての会員に見てもらうことが一番の目的であり、検査関連学会等の専用サイトとは若干意味合いが異なるものと考えます。紙面配布することによりすべての会員が少なからず目にするようになりますが、電子化した場合は自らの意思でアクセスして見に行くという行為が発生するため、支部ニュースを見るという意思がなければ触れることすらなくなり、支部ニュースのみならず関連支部の活動自体の認知度が低下する恐れがあると思います。

現在、支部ニュースがスマートフォン等で閲覧出来ることを会員がどれだけ認識されているかが気になるところです。まずはスマートフォン等でホームページの会員専用ページから支部ニュースが閲覧できる方法を支部ニュースで掲載し、その後ホームページアクセス数等の動向を見るなどしてから改めて紙面発行の必要性を検討すれば良いかと考えます。

④ Q: 研修会の感想文だけでは研修内容までは読みとれないので、参加された研修会の紹介などの記載について

A: 執筆依頼について、依頼状には細かい内容の要求はしておらずテーマ「●●研修会に参加して」としか記載していないのが現状です。今後は研修内容がある程度わかるような文面も盛り込んだ内容で執筆をお願いしますと依頼状に一言加えるということでしょうか。

(6) ホームページ関連

① Q: 学術委員会からの情報提供等の充実について

A: 学術委員会提供の研修会資料等はホームページの資料アーカイブ等に随時掲載している。現在、学術委員会のページにはQ&Aを掲載しているが、学術情報の提供等の新コンテンツができれば随時掲載可能です。

② Q: 臨床検査技師に関する情報提供について

A: 臨床検査技師に関する情報は幅広く当ホームページで網羅するには限界があり、継続的な情報提供は困難であると考えます。当ホームページのリンク集から国臨協本部、日臨技や各種専門学会当のホームページへアクセスできるので、そちらを活用いただき、また新しいリンク先の要望があれば情報提供いただけたら追加します。

③ Q: 動画コンテンツの充実化について

A：研修会等の動画コンテンツについては試みましたが、動画編集や技術的な問題により実現できていないのが現状です。今後も検討していきますが、個人メインで管理するホームページとしては限界があるのでご理解していただけないでしょうか。

④ Q：支部ニュースに掲載しているコンテンツを、ホームページの会員専用ページに新たなバナーを設けて、過去掲載を含めて別途掲載について

A：支部ニュースを各記事に分けて新たなバナーにする事については検討の余地はありますが、作業がかなり複雑化してしまうので実現は難しいと考えます。現在ホームページの支部ニュースページに PDF 版および内容の目次を掲載しており、それをより詳しく掲載することで対応したいと考えます。またホームページに PDF 版が掲載されていること、およびアクセスの仕方について周知されていないのではと考えます（スマホでも閲覧可能）。支部ニュース発行時に、施設連絡者宛に支部ニュース発行のお知らせをメール配信すると共に、PDF 版の周知もおこなっていくのはどうでしょうか。

（7）文化活動関連

① Q：コロナ禍終息後、無理なく参加ができる方法、10 地区全体での集合型文化活動は、会場、予算、感染管理等で難しくなっている。近隣の地区会で区割りを行い、合同で集合型の文化活動を行う計画について

A：未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、来年度についても関信支部は、積極的に大規模（200 人以上参加）な交流イベント（合同交流会・ビアパーティーなど）を開催する予定はありません。新型コロナワクチン接種、治療薬の処方開始などが促進され、社会的情勢が好転するのを待ってから検討したいと考えています。会員の皆様方のご要望を早期に実現すべく対応してまいります。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。つきましては、各地区会等で、小規模な交流会等を開催する予定がありましたら、支部まで情報提供をお願いいたします。支部役員の参加をお願いしたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

② Q：Web 利用も含めた文化活動の検討について

A：Web 利用を含めた交流行事についてですが、令和 5 年 9 月 2 日（土）に開催を予定している「第 51 回国臨関信支部学会」を、前回と同様に「EventIn」を用いてテーマ「原点回帰～いま私たちができること～」で開催します。その際に第 50 回記念学会では充足した活用ができなかった「トーク・交流機能」を最大限に活用した会員交流トークスペース（グループ通話など）

を開設します。また、会員参加型イベント（案：ブース回遊型スタンプラリーなど）を企画する予定で準備しています。多くの会員の皆様方にご参加いただきますように何卒よろしくお願いいたします。

（８） その他

① Q:臨地実習学生受入れ準備は各施設でどこまで準備できているのか。

A: 令和４年９月９日（金）Webにて開催された「第１９回日臨技設立母体別代表者会議報告」の中で、臨地実習指導者講習会進捗状況には臨地実習受け入れ施設が約１,２００施設あり、２０２３年冬には新しいカリキュラムの臨地実習生の受入れ開始が可能となる見込みで、現在は６６０名の受講者がおり２０２３年には１２００名の受講を予定していて、２０２３年４月より１施設１名の受講縛りが解除になる予定とのことです。また、８月１９日（金）に開催された全国国立病院医療職（二）・福祉職協議会合同会議に提言要望として臨床検査部門より「２０２４年度の臨地実習指導者要件が適用において２人目以降の臨地実習指導者講習会受講費用の援助を提言要望した」と報告がありました。

② Q:コロナ禍における交流会が集合型でできているところがあれば、何をおこなったか知りたい。

A: 令和４年１１月１日（火）に開催された第３０回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議において、全国支部長らの意見交換が行われ、現状としては、Web方式、ハイブリット方式（Web+対面）で開催しているとのことです。今後は、感染状況に応じて対面での開催を拡大していきたいとのことで意見の集約が行われました。

③ Q:今後、産休育休取得の可能性がある職員が増加していくと思われるが、困窮している時の対処方法や救済ルートの検討が必要。

A: 国臨協本部報告の中で、８月１９日（金）に開催された全国国立病院医療職（二）・福祉職協議会合同会議に提言要望し、医療職（二）・福祉職の共通要望事項に、「産休・育休・病休代替制度及び雇用条件等の改善」と「育児時間等の育児制度・介護制度の拡充」が緊急課題としての要望事項となった。令和４年度全国国立病院協議会合同会議に提言要望した。今後も医療職（二）・福祉職の共通要望事項への提言と院長協議会要望書への提言要望を行ったと、令和４年１１月１日（火）開催された第３０回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議で報告がありました。また、国立病院機構関東信越グループ医療担当前島臨床検査専門職より、予め産休・育児休暇を

取得する職員の情報が分かった段階で、迅速にご相談してほしいとのことです。情報に基づいて対応策についてご相談させていただきたいとのことでした。

④ Q:職場長の定年・転勤による弊害を防ぐ為にも、希望があった場合は、副技師長の内部昇格も検討すべきではないか。

A:副臨床検査技師長の内部昇格については、今のところ国臨協本部等で提言要望として検討させていない。「主任技師の内部昇格と転勤制度の見直し」については、8月19日(金)に開催された全国国立病院協議会合同会議に臨床検査部門からも「人材の確保と育成」を提言し、「一般技師から主任技師への内部昇格の検討」として男女問わず優秀な人材の内部昇格を早急に検討していただきたいとの提言要望を行ったと、令和4年11月1日(火)開催された第30回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議で報告がありました。

⑤ Q:日臨技が実施しているタスク・シフト/シェア講習会の各地区の受講者数、受講率などを支部が中心となり統計を取り、ホームページなどに掲載し、可視化してほしい。

A:令和4年9月9日(金)Webにて開催された「第19回日臨技設立母体別代表者会議報告」の中で、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会進捗状況は、2022年7月末までの修了者は、5,600名で、コロナの影響で実技講習が先送りになり今年度の目標の30%しか到達できていない。厚労省から依頼で、地域医療介護総合確保基金の追加募集について各都道府県技師会を通じて3職種連名の案内を出す予定。地域医療介護総合確保基金の追加募集を活用して講習会を受講していただきたいとのことです。今年度の事業が対象となり有効期日は10月28日(金)まで。来年度も継続の見込み。昨年度分について振り返りはないとのことでした。令和4年11月1日(火)に開催された第30回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議において、各支部での受講状況を本部にて把握してほしいとの意見も出ており、関信支部においても各施設長のご協力をいただき受講者数、受講率などを集計していきたいと考えおります。その際は、ご協力をお願いいたします。

【日臨技8月1日現在で所属している会員数に対する修了者の割合】

関東甲信支部 基礎:申込3,272人 修了1,999人 実技:R3修了者476人 R4修了者622人 合計1,098人(修了率11.9%)、首都圏支部 基礎:申込3,186人 修了1,812人 実技:R3修了122人 R4 405人 合

計 527 人（修了率 3.8%）【国臨協・国臨技長会調べ】対象施設 162 施設
（5 月 1 日付：会員数 2,083 人）基礎修了者 357 人（17%）実技修了者 76
人（4%）求められている施設（具体的業務が示されている 10 施設を含
む）：35 施設（10%）、求めれていないが検査室内で検討している施設：
44 施設（27%）、施設から求められず検査室としても対応を考えていない
施設：83 施設（51%）

（9）自由記載

① Q:地区代表者会議の要望を考える上で、支部の活動方針、来年度事業方針（原 案）など、何を問題としているかを示してもらいたい。

A：例年、地区代表者会議資料集のプログラムに、「討議事項：支部提出議題（事
務局・学術・広報）」として次年度の活動方針（案）や事業方針（案）に関連
する事項について記載し、ご説明を行っていますが、本来重要な審議事項で
あり、十分な審議時間を設けてご意見を伺わなければならないところ、会議
の終盤になって審議を開始することもあり、説明と確認程度で終わってしま
っている傾向があります。本年度からは、支部、地区会からの経過報告など
に要する時間を簡素化して十分な審議時間を設けたいと考えています。ご理
解とご協力をお願い致します。

② Q:タスク・シフト/シェアの推進について、今後も現状報告と展望について情報 共有をお願いします。救急医療の現場における医療関係職の在り方に関する厚 労省検討会資料で、救急外来には臨床検査技師の配置がないことが示されて いた。タスク・シフト/シェアの観点からも救急医療体制における臨床検査技 師の役割について講演等を企画してほしい。

A：タスク・シフト/シェアの推進について、今後も現状報告と展望について情
報共有については、「その他：回答 5」をご確認ください。救急医療現場での
臨床検査技師に求められるタスク・シフト/シェアについては、日臨技中部圏
支部学会（10 月 9 日（土）開催）で「タスクシフト/シェアの実践」にてさくら
総合病院「採血にプラスの発想で」の発表で、検査技師が救急外来で静脈路確
保（生食ロック含む）を担当し行っているとの報告がされていました。関信支
部の中でも令和 5 年 1 月発行した関信支部ニュース 231 号「特集：救急現場の
タスクシフト」題して、国立国際医療研究センター病院中央検査部門 川口
港 氏より救急外来での取り組みをご紹介いただいています。また 12 月 1 日
～23 日オンデマンド配信にて第二回研修会「臨床検査技師にとってのタスク
シフト～その背景と今後に向けた考え方～」（基礎編）を開催しました。来年
度以降も学術委員会のご協力を得ながら支部主催研修会において実技や各施

設での取り組みなどを中心とした研修会の開催を計画しています。ご期待ください。

【討議内容】

(1) 令和 5 年度国臨協関信支部会費 (4,000 円) について

東京地区会：前澤 直樹

値下げを考えていないとのことだが、今後活動が以前のように戻った際に今使用している Web ツールは使用していくのか。ハイブリッド形式や Web ツールを使用しなくなった場合、理事の行動費が増えると思うが今後の会費についてどう考えているか教えてほしい。

関信支部回答

このようなシステムを活用していくと非常にお金がかかり、また行動費による費用がかかるということについては見直しが必要である。今後、会費を値上げはせずに行動費を抑制する方法を検討させていただく。

東京地区会：前澤 直樹

値下げを考えていない理由は理解するが、一時的な減額も行っていないのは関信支部だけであり、一時的な減額ができない理由はなぜか。

関信支部回答

体系的なコストがある。関信支部学会や研修会の費用も徴収していないこともある。

東京地区会：前澤 直樹

30 演題を切っている関信支部学会に今後も高額な費用を割いて今後も Web 開催を行っていくのか。

関信支部回答

次年度は EventIn を用いて学会を継続する意向はあるが、さらに次の年度は会場について検討する。

東京地区会：前澤 直樹

関信支部学会についても考え直す時期がきているのではないかと。関信支部学会に演題を増やす活動をする必要があるのではないかと。

関信支部回答

見直す時期が来ているのではないかと感じる。活動については日常業務の合間に行っているため難しい。

群馬地区会：新谷 和之

他の 6 支部がどのように支部学会を開催しているのか関信支部へインプットすることはできないのか。

関信支部回答

2 月開催の全国支部長会議で情報収集を行い、ブラッシュアップする。

関東信越グループ 医療担当 前島 基志

学会の演題数に関しては全体的に減少している。新型コロナウイルスの関係で専門学会も開催を見送っており、Web 形式となり肌感覚ではあるが全体的に減っていたと感じる。今後、対面で開催される学会も増えてくるので演題数も徐々に全体的に増えてくると予想される。今まで学会に演題を出さないことに対して各施設が甘えているところもあるため、この段階で引き締めを行って、若い職員の学会発表を促すように職場長の方をお願いしたい。

（２）合同交流会の廃止及び令和 5 年度集合型懇親会（ビアパーティー等）の中止について

茨城地区会：熊谷 豊

個人の意見としては開催したほうがよい。退職者を囲む会としてとして機能してきたが、数年開催されていないためできるのであれば開催していただきたい。

栃木地区会：宮澤 寿幸

機会があれば開催したほうがよい。若い職員の交流の場となり、場慣れという意味で会う機会があったほうがよい。中止してしまうと育成に支障がでるのではと考えている。

群馬地区会：新谷 和之

今年度は中止であり、次年度は再度検討する案はよいと思います。

ビアパーティーは支部の会計に計上されていないが、支部事業として出してよいのか。

埼玉地区会：小沼 進吉

開催については 4 月以降の新型コロナウイルスの状況により、厳しいと考えている。

合同交流会の事業として継続は規模も大きいので、個人的には厳しいと感じる。

千葉地区会：山川 博史

開催の継続はよいと考える。若い職員は廃止したい考えがある印象が強い。

東京地区会：前澤 直樹

合同交流会は本来の事業でないとすれば関信支部の事業に取り入れる考えはないのか。継続するための発想はないのか。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

廃止は反対である。合同交流会には歴史があるため OB 会含めて検討するべきである。

神奈川地区会：植松 明和

合同交流会は開催するべきである。

新潟地区会：渡辺 靖

合同交流会は一つの区切りになるため、参加したい。

ビアパーティーは人数や会場の関係上、現実的に難しいのではないかと思います。

長野地区会：平原 博美

合同交流会は廃止でないほうがよいと思う。参加することで職員の目線が広がる大切な場であると考えて入る。やり方は屋外や式典のみハイブリッドなど検討の余地があり、会食することがすべてではない。運営については回答が難しい。

関信支部回答

ビアパーティは支部の事業として開催している。

合同交流会については参加される会員からの会費によって運営される会となっており、関信支部が企画、準備、運営を行っている。国臨協関信支部が行う年度事業として、同交流会を取り入れていないことは無く、今までの慣例から正式な年度事業として予算建てをして、定期総会の事業計画（案）として取り入れて行くことは討議していなかった。今後、改めて検討を行ってみる。

神奈川地区会：植松 明和

合同交流会の始まりは、各施設で開催されていた退職者に対する会が個々に開催されると費用が高くなるため合同交流会という場の一つになったと思うが、廃止した場合もとに戻り繰り返されると思われる。継続を期待する。

（３）広報：支部ホームページおよび支部ニュースの認知度向上について

神奈川地区会：植松 明和

他学会で行っているように会員全体に一斉メールして、そこから閲覧できるようなことはできないのか。

関信支部回答

一斉メールはしていない。検討は行っていく。

（４）全体を通しての質疑

群馬地区会：新谷 和之

地区代表者会議の質問に対する事前回答を掲載した資料はとてもよい資料であると思っている。実際に各地区会の要望がどこから来ているのかわからない。要望を選んで掲載しているのか、質問文が原文のまま掲載されているのか疑問が意見としてあった。

前期監査が終了しているが、監事に対して要望の共有はどのようにしているのか。

関信支部回答

地区会から要望がほとんどないのが実際であり、前期分は議事録に掲載している神奈川地区会から 1 件であった。前期監査にて、対応内容の取り扱いについて監事よりご指摘を頂戴した。その後は、群馬地区会から 1 件の要望があり、支部長が回答（案）を作成し、常任理事会で討議を行い、回答用紙をメールにて事務局長宛に返信を行った。回答については、今後は監査の際に、資料として提示することを考えている。

群馬地区会：新谷 和之

要望を知る機会は地区代表者会議だけであるのか。

関信支部回答

来年度継続するか検討中であるが、継続する場合はホームページや施設連絡責任者宛てに見えるように配信していきたい。

東京地区会：前澤 直樹

要望を関信支部に挙げる手順が関信支部地区会担当理事であるとすれば、要望を挙げる際は地区会長からなのか、各施設連絡責任者からなのか。地区代表者と関信支部のやり取りの手順を形にしていきたい。

関信支部回答

個人単位での要望は、事務局に連絡することで随時対応する。

地区会単位での要望は、関信支部の各地区会担当常任理事から地区会事務局担当理事へ月末配信されるメールに添付されているファイルに要望を記載して返送する。

広報の今後の活動として会員の声をホームページからメールいただくフォームを作成している。個々からの要望をもらう手順は作成中である。手順書については国臨協本部の方法を参考にしながらブラッシュアップさせていただく。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

地区会の役員が変わった段階で関信支部の地区会担当理事から担当である旨の連絡があるとよい。

群馬地区会：新谷 和之

各地区から関信支部理事が選出されるのであれば、各地区会から関信支部理事として関信支部地区会担当理事を推薦したらどうか。

東京地区会：前澤 直樹

流れはいいが、反対である。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

関信支部地区会担当理事は事務局や学術などの業務も行っているが負担を減らしてあげてほしい。

関信支部回答

重々承知させていただいている。関信支部役員を初年度である理事は数年担当している理事と同じように動けるわけではないので、来年度に理事を継続する場合は同じ役務を継続してもらう予定である。

2023 年 10 月 5 日付 国臨協関信支部東京地区会からのお問合せ

1. ホームページを外部委託化したいとのことだがどこで決定したのか。又、決定事項なのか。

＜支部からの回答＞

支部ホームページの外部委託化につきましては、外部委託化の可能性について調査を行っている段階であり、決定事項ではありません。

また、第 51 回国臨協関信支部定期総会の第 1 号議案 3. 広報事業方針内において「会員の利便性の向上とホームページ管理業務の負担軽減を図るため、ホームページの外部委託化などを検討するための調査（メリット・デメリット、委託費用、委託業者等）を行う」と提案し、承認を頂いており、検討結果を令和 5 年度地区代表者会議で報告し討議を行う予定です。

※資料 1：第 51 回定期総会議案書(PDF 版) 11 ページ 3. 広報事業方針 2) 関信支部ホームページ(3)

※資料 2：第 51 回国臨協関信支部定期総会議案表決結果 3. 表決結果 2) 議案審議 (1) 第 1 号議案

2. 地区代表者会議で合同交流会を継続することは全地区会の会長の同意を得たはずだが、どのような経緯でアンケートを行っており、アンケートを集計してどのように利用するのか。

＜支部からの回答＞

昨年度の地区代表者会議で合同交流会の継続について、全地区会長が同意されていました。支部は、「ビアパーティは支部の事業として開催している。合同交流会については参加される会員からの会費によって運営される会となっており、関信支部が企画、準備、運営を行っている。国臨協関信支部が行う年度事業として、同交流会を取り入れていないことは無く、今までの慣例から正式な年度事業として予算建てをして、定期総会の事業計画（案）として取り入れて行くことは討議していなかった。今後、改めて検討を行ってみる。」との回答を行いました。

その後の対応としては、令和 4 年度 第 10 回常任理事会で ①地区代表者会議で合同交流会は概ね継続を希望する意見であったこと ②合同交流会は支部主催の事業化した方が良いのではとの意見があったことを報告しました。理事会では合同交流会を事業計画化するにあたっては、①会員の意見を聞く必要があるためアンケート調査をおこなうこと。②各地区会の定期総会・研修会で「関信支部からのお知らせ」を行う際に合同交流会の趣旨・開催方法など説明する機会を設けることが決まりました。

アンケート調査の結果は、令和 6 年度からの集合型イベントの開催方法や合同交流会の事業化を検討する資料として用いるもので、令和 5 年度地区代表者会議で報告し、討議を行

う予定です。

※資料 3：令和 4 年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）P 23～24

※資料 4：国臨協関信発第 81 号（令和 4 年度第 10 回常任理事会議事録要旨）

3. 関信支部学会の演題数が 29 演題で多数と発言していたが、会費と見合っていないのではないかと？関信支部会員にアンケート調査した方がよいのではないかと。

<支部からの回答>

資料として過去 11 年分の演題数と参加者数（視聴者数）の推移をまとめましたのでご確認ください。演題登録数と学会開催費用に対する効果についてですが、一般演題数の登録数の推移から検証すると、確かにコロナ禍前は平均 43 演題の発表が行われておりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い Web 形式に移行後は、平均 27 演題の発表となりコロナ禍前と比較すると 3 分の 2 程度に減少しています。しかし、演者の内訳をみると新人職員（業務経験が概ね 5 年以下）のよる発表が増えており、第 51 回では 29 演題中 20 演題が新人職員によるものでした。支部としては、支部学会を通じて新人職員の方々に学会抄録・口演用スライドの作成や口演の仕方、質疑応答への対応方法などを学んでいただく研鑽の場所を提供できればとも考えており、支部学会での経験をもとに、日本医学検査学会、国立病院総合医学会や専門学会などの一般演題発表に繋げていただければ幸いと考えています。また、コロナ禍前の集合型開催では、学会参加費として 2,000 円を徴収していました。Web 開催となってからは、学会参加費を徴収しておりませんし、Web 開催となった利点として、遠方の会員の皆様方が学会参加に伴う交通費の負担が軽減されたこともあげられます。但し、Web 開催の欠点としては、永らく会員相互の交流の機会が損なわれたことで、会員間の情報交換や会員相互の親睦と新しい出会いや発見・意志疎通の場を失ってしまったことだと考えています。新型コロナウイルス感染症については留意すべきところが多々ありますが、来年度の学会は、集合型で開催するべく準備を開始しております。実現すれば 5 年ぶりの集合型学会となります。支部しても各施設長にご協力をいただき、コロナ禍前の演題登録数を確保できるように働きかけを行います。以上の取り組みを行い、その結果を踏まえてあらためて会員に対するアンケート調査をおこなうことを検討していきたいと考えています。ご理解のほどよろしく願いいたします。

※資料 5：年度別学会参加会員数・演題数の推移 PDF

4. 来年度、東京地区会は関信支部から外れたい。支部に地区会に関する規定はあるのか？（前澤会長が来年も会長を継続できた場合）

<支部からの回答>

関信支部規約には「各都県に地区会を置くことができる」との条文はありますが、その地区会が関信支部から外れることはこれまで想定されたことが無かったため、支部から外れることに関する条文はありません。

また、国臨協会則も確認しましたが、同様に支部や地区会が外れることを想定した会則にはなっていないと考えられ、記述はありませんでした。国臨協会則で支部については「支部として 7 支部をおくことができる」との記載だけとなります。

※資料 6：国立病院臨床検査技師協会関東信越支部規約 第 4 条（地区会）PDF

※資料 7：国立病院臨床検査技師協会会則 第 1 章総則 第 4 条（支部）PDF

5. 昨年度の地区代表者会議での意見の回答が返ってきていない。

上記について、個別には回答を行っていませんでしたが、常任理事会で検討を行いその都度議事録に記載し、翌月には施設連絡者宛に「常任理事会議事録要旨」をメール配信し、支部ホームページ 会員専用：活動報告「常任理事会議事録」にも掲載して周知を図っております。今回、令和 4 年度関信支部地区代表者会議議事録より関連する事項について抜粋しました。ご確認をお願いいたします。

※資料 3：令和 4 年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

※資料 4：国臨協関信発第 81 号（令和 4 年度第 10 回常任理事会議事録要旨）

（1）会員数 600 弱の組織で Zoom ミーティング PRO 5ID が適切であり必須なのか（新谷）

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

契約継続を精査検討する。

＜その後の対応＞

2 月理事会議事録に継続の決定と各社見積もり比較を実施との記載。3 社比較を行い、同条件では V-CUBE 社が最も安かった為、今年度も契約を継続としました。

（2）ガイドラインを取り入れた研修会の実施の要望。また、要望の提出方法について（呼吸器、エコー）（熊谷、植松、新谷）

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

学術委員会と共同して来年度に活かしていきたい。要望先は地区会担当理事もしくは直接事務局に連絡してほしい。

＜その後の対応＞

2 月の常任理事会議事録に「学術委員会に要望を伝えて、分科会や研修会につなげていく。」と記載済みです。

（3）地区会ポスターについて（多数）

作成が負担（逆の意見もあり）、マンネリ化、テーマを早めに伝えてほしい、昔は他地区会の活動を知れるツールになっていたが地区会会報など支部ホームページで見られる現在での地区会ポスターの位置づけを再考してほしい

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

企画について再考する時期に来ていると思うため再考すると回答を行った。

＜その後の対応＞

2 月の常任理事会議事録に「地区会ポスターのテーマについては早めに関示していく。今年度のやり方では、閲覧数が確認できないため確認できる方法がないか検討」との記載があり、地区代表者会議では前向きな意見も出ており企画継続としました。現地開催の場合、ポスターの印刷、運搬の負担が大きいため、支部で印刷を請け負うことを検討しています。

(4) 支部ニュースの研修会感想文だけでは研修内容が分からないので研修内容の記載もしてほしい。(東京地区会)

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

紙面構成を再考し見直していく。

＜その後の対応＞

現在、原稿依頼の際に内容の概要を盛り込むよう執筆者に依頼を行っています。

(5) 地区代表者会議の要望を考える上で、支部の活動方針、来年度事業方針（原案）など、何を問題としているかを示してもらいたい（前澤）

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

本来は提示していきたいが、皆様の意見をなるべく聴いた形で 支部の活動方針、来年度事業方針を 2 月開催の常任理事会で決定し、定期総会に提出したいと考えている。本来はご指摘の通りだが、現状できてはいない。今後見直していく点であると感じるため、意見を踏まえて来年度にむけて検討していく。

＜その後の対応＞

今年度は地区代表者会議で、支部の活動方針や事業方針を示すよう準備を進めています。

(6) 地区代表者会議とは何か。来年度事業方針の資料を全部揃えてから定期総会前に先んじて地区代表者に今後の方針を提言し、代表である地区代表者が従い協力するといった回答をした後、定期総会に臨むといった会議ではないのか。(前澤)

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

長年開催してきた内容を粛々と継続しているのが現状である。ご指摘を受けたので、来年度の開催に向けて見直していくと回答を行った。

＜その後の対応＞

今年度は地区代表者会議で、支部の活動方針や事業方針を示せるよう準備を進めています。

(7) どの協議会も今までの慣例に倣って年間計画を立てているが、実際何のために活動し

てきているのか抜けてきているところが多いと思う。コロナ禍で様々なものが変わって、例えばできなくなったものや削除していくものは多いが、活着ているところは何のために継続しているのかももう少し検討していただきたいと考えている。(前澤)

＜地区代表者会議での支部の回答＞

今一度検討を行い、事業継続や中止は検討のもと会員の皆様方に提示していく所存である。

＜その後の対応＞

今年度の地区代表者会議で、事業継続や中止などについて示せるよう準備を進めています。

(8) 各地区会で何かを開催した場合、情報としてリアルタイムに閲覧できるツールが現在ない。支部ニュースやホームページで事後報告として確認できるのみなので、関信支部で各地区会の企画を広報してほしい。(新谷)

＜地区代表者会議での支部の回答＞

リアルタイムな情報提供を今後検討して、ホームページを併せて提供していく。

＜その後の対応＞

現状、地区会より情報提供いただいた地区会での研修会予定などは事務局より施設連絡者宛に配信をおこなうように手順は整っています。

ホームページに予定表をリアルタイムで掲載することについては、ホームページの大掛かりな改修が必要なため、対応を進めています。

(9) 30 演題を切っている関信支部学会に今後も高額な費用を割いて Web 開催を行っていくのか。関信支部学会についても考え直す時期がきているのではないかと。関信支部学会に演題を増やす活動をする必要があるのではないかと。(前澤)

＜地区代表者会議での支部の回答＞

次々年度は現地開催で行うべく会場を検討する。学会について見直す時期が来ているのではないかと感じる。一般演題登録数を増やす活動については、施設連絡者宛に協力要請のメール及びリフレットの配信等を行っているが、役員も日常業務の合間に会務に携わっているため、施設連絡者に直接働きかけを行うことは難しいと考えている。

＜その後の対応＞

問 3 での回答もご参照ください。現在、次年度の集合型開催に向けて準備中です。演題数登録数を増やすため、今年度開催される地区代表者会議までに、学会開催日程、テーマを決め一般演題募集リフレットを配布する準備を行っています。あわせて、地区代表者会議終了後に施設連絡者（技師長）宛に一般演題募集リフレットと協力要請のメール配信をおこなうことを準備しています。また、新たな取り組みとして、パネルディスカッションや教育講演、協賛企業によるセミナーを開催し、一般演題発表以外の講演数の

増加を図り、魅力ある学会運営に努めたいと考えております。

(10) 他の 6 支部がどのように支部学会を開催しているのか関信支部へインプットすることはできないのか。(新谷)

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

2 月開催の全国支部長会議で情報収集を行いブラッシュアップする。

＜その後の対応＞

2 月と 10 月の全国支部長会議で他支部と情報交換を行いました。例としては、九州支部では、演題数の確保のため学会と症例検討会を隔年で交互に行っているとのこと。本年度の地区代表者会議にて報告をおこなう予定です。

(11) 合同交流会は開催したほうがよい。(多数)

合同交流会は本来の事業でないとすれば関信支部の事業に取り入れる考えはないのか。継続するための発想はないのか。(前澤)

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

合同交流会については参加される会員からの会費によって運営される会となっており、関信支部が企画、準備、運営を行っている。国臨協関信支部が行う年度事業として、同交流会を取り入れていないことは無く、今までの慣例から正式な年度事業として予算建てをして、定期総会の事業計画（案）として取り入れて行くことは討議していなかった。今後、改めて検討を行ってみる。

＜その後の対応＞

2 月理事会議事録に、「事業計画化するには会員の皆様方の意見を聞いていく必要もある。各地区会の定期総会に参加する際に関信支部からのお知らせの中に合同交流会をしていることや趣旨を説明し、今後についてアンケートを実施していきたい。それを踏まえて、今後どうするかを検証して是非を検討する」との記載があり、9 月に集合型イベントに関するアンケート調査を実施しました。

(12) 支部ニュースについて他学会で行っているように会員全体に一斉メールして、そこから閲覧するようなことはできないのか。(植松)

＜地区代表者会議での支部からの回答＞

一斉メールはしていない。検討は行っていく。

＜その後の対応＞

検討した結果、費用面でのメリットもあるが、電子媒体だけだと内容が見られなくなるリスクが大きいとの結論となり、現行の紙媒体での発行を継続することとなりました。

(13) 要望に関信支部に挙げる手順が関信支部地区会担当理事であるとすれば、要望を挙

げる際は地区会長からなのか、各施設連絡責任者からなのか。地区代表者と関信支部のやり取りの手順を形にしていきたい。(前澤)

<地区代表者会議での支部からの回答>

個人単位での要望は、事務局に連絡することで随時対応する。地区会単位での要望は、関信支部の各地区会担当常任理事から地区会事務局担当理事へ月末配信されるメールに添付されているファイルに要望を記載して返送する。広報の今後の活動として会員の声をホームページからメールいただくフォームを作成している。個々からの要望をもらう手順は作成中である。手順書については国臨協本部の方法を参考にしながらブラッシュアップさせていただく。

<その後の対応>

7 月に「会員の皆様の声」を設置しました。支部ニュース 234 号に「会員の皆様の声」の紹介と使用方法についての記事を掲載予定となっております。

令和 5 年度 地区会提出議題

(1) 事務局関連

① 支部理事を広く多くの会員に経験させる予定はないか？(神奈川)

【回答】

- 予定は考慮しているが、経験を考えると理事は担当した部門の業務内容等の理解を深めるため、原則 2 期は同じ部門を担当していただくこととしている。各理事の理解度を確認しながら、定期的(1 回/2 期)に担当部門のローテーションを行いながら、幅広い会務を経験していただき、他協議会などの多くの人的交流を通じて、今後指導的立場で活躍してくれる人材育成に努めている。
- 支部役員の公募については、例年、1 月に発行される支部ニュースに掲載を行い、広く募集を行っている。しかし、役員の応募・推薦届の提出は少なく、支部長が各地区会長、各施設長に依頼してご対応いただいている。しかし、役員の改選時期が 4 月の人事異動に重なることと、施設事情によりご協力いただくことが出来ないこともある。地区会長、施設長の皆様方には、現状をご理解いただきご協力をお願いしたい。

② 支部理事の人数について(神奈川、茨城)

- 支部理事は地区によって理事の人数に違いがあるのはなぜか。また、以前に比べ理事の人数が大分多いと感じるが、行動費、移動費などの費用もかかるのでもう少しスリム化してはどうか。
- 理事の人数を減らしてはどうか？

【回答】

- 前任より継続を表明していた理事が人事異動によって支部長も在籍している NH0

横浜医療センターに集中してしまっているが、異動について関信支部は関与することができず、異動を理由に継続の意思を無下にすることはできないと考えている。人数や地区の配置については、次年度までの検討課題としたい。人数については前年度より支部役員の会務による負担を軽減するために支部役員の増員（3名）を行った。現在、支部ホームページの外部委託化を検討しているが、実現すればホームページ業務が軽減されるため、1名減とすることを検討している。

- 行動費（交通費を含む）については、常任理事会を含む会務（打合せ・会議等）は、基本 Web（ウェビナー）を用いて行っており、交通費等の負担は軽減化されている。また、来年度集合型での研修会等を開催する場合は、開催場所に近い役員のみ（必要最低限の人数）で会の運営にあたることも検討している。

③ 支部と地区会との連携について（神奈川、長野、茨城）

- 支部理事を各地区に配置したが、必要の是非について検証が必要ではないか？
- 情報共有の仕方について、支部として新たな取り組みなど考えはあるか
- 支部と地区会との連携方法がわかりにくい
- 各地区会と綿密な関係が築けているのか？当地区では地区の理事から情報提供などは一切なかった

【回答】

- 前年度の地区代表者会議でも賛否は分かれた。地区会との情報共有・連携の方法については、今後も検討課題としていく。

④ 高額な Zoom ミーティング PRO 5ID を使用しているが、無料の teams を使用し使用料を他の事業等に振り分けることは考えていないのか（東京）

【回答】

- 第 8 回常任理事会でも討議されたが、オンデマンドや Web でのリアルタイム研修会においては有料で Zoom スポット契約し、常任理事会などは無料の teams を使用する案が検討された。来年度までの新型コロナ感染状況を考慮しながら慎重に検討を進めて行く。

⑤ 3 年間いろいろなイベントが集合型で行われていないので、支部の存在意義等について新しく入職した会員に直接伝えることが必要ではないか。（地区会で支部は活動報告を行っているが、もっと基本的なところも盛り込んでどうか）（東京）

【回答】

- 会員交流事業として、令和 6 年度は「ビアパーティー」の開催を予定しているため、積極的な参加をお願いする。
- 地区会での「支部活動報告」については、内容の見直しを検討していく。

⑥ 「会員の皆様の声」について（東京、埼玉）

- 投稿率はどれくらいなのか。問い合わせの内容確認の為と分からなくもないが、完全匿名化しないと投稿されにくいのではないかとと思われる。投稿しやすい工夫をお願いしたい。また、投稿場所があることを知らない会員もいるため周知して頂きたい。
- 会員からの意見を参考に、今後、関信支部として具体的に検討していく課題はあるか

【回答】

- 現在 1 通のみとなっており、その対応については関信支部常任理事会議事録を参照していただきたい。またインターネット上の誹謗中傷が問題視されている情報社会において、完全匿名化はその一助になり兼ねない。周知については、1 月発行の支部ニュース 234 号に紹介記事の掲載を行った。投稿しやすい工夫や更なる周知については来年度以降の検討課題と考えている。

⑦ 支部からのメール連絡について（東京・山梨、神奈川）

- 施設代表者宛のメールが、技師長・副技師長に届くのは何か理由がありますか？
- ホームページの更新や研修会案内などは会員個人宛てに案内できないか？

【回答】

- NC においては個人のメールアドレスを情報系の Outlook から取得することができないことや、個人情報の管理の面などを考慮すると現状では対応が難しいため、今後も施設の技師長・副技師長に職員への周知をお願いしたい。

⑧ 退職後も繋がりを保つため、賛助会員（会費減額）などについて考えてほしい（長野）

【回答】

- 検討課題とする。

⑨ 臨地実習指導者講習会の受講料の助成を検討してほしい（長野）

【回答】

- 臨床検査技師等に関する法律施行令、臨床検査技師学校養成所指定規則の一部改正する省令の交付（令和 3 年 3 月 31 日文部科学省高等教育局長、厚生労働省医政局長）並び臨床検査技師養成所指導ガイドライン（令和 3 年 3 月 31 日、厚生労働省医政局長通知）の発出に基づく変更であり、全臨地実習施設においては必ず 1 名以上の臨地実習指導者講習会を受講した「臨地実習生指導者」の配置が義務付けられているため、各施設（例：受託実習生受入分配金などの活用）での対応をお願いしたい。

- ⑩ 今年度の消耗品費予算に関して、昨年度実績が 3,848 円で 5 年度予算が 90,000 円だが、その根拠は？また、会議費の常任理事会・部会の昨年度実績が 435,711 円で 5 年度予算が 720,000 円だが、集合型に移行していくのか？（茨城）

【回答】

- 年々決算額が減少していることから、段階的に予算額も縮小しているが、基本的に予算額は決算額を上回らないように決定している。次年度の予算も今年度の決算額の推移を見て決定する。また、集合型の会議等の回数増加により決算額も増加しているが、現時点では決算額、予算額の設定に問題は無いと考える。常任理事会の集合型への移行については、遠方施設の理事の負担が大きくなることから現在の集合型 2 回、Web 開催 10 回からの変更は検討していない。

消耗品費：令和 2 年度 予算額 300,000 円 決算額 180,038 円
令和 3 年度 予算額 300,000 円 決算額 24,654 円
令和 4 年度 予算額 200,000 円 決算額 3,848 円
令和 5 年度 予算額 90,000 円

会議費（理事会等）：令和 2 年度 予算額 1,000,000 円 決算額 178,548 円
令和 3 年度 予算額 1,000,000 円 決算額 276,468 円
令和 4 年度 予算額 780,000 円 決算額 435,741 円
令和 5 年度 予算額 720,000 円

（２）文化活動関連

① 会員交流の場について（埼玉、長野、茨城）

- 「with コロナ」としての会員の交流を支部としてどのようにしていくのか考えを教えてほしい（合同交流会、ビアパーティーなどの開催やそれ以外での会員交流を何か模索しているのか提示して欲しい）
- 集合型交流会の開催について、大人数での交流会については未だ難しいと思うが、少人数（特に新人、若手）での会員交流の場を検討して頂きたい
- 集合型イベントに関するアンケート調査結果を踏まえ、どのような対応とするのか？
- 文化活動（ビアパーティー・行動交流会など）の復活はあるのか？

【回答】

- 集合型イベントについては段階的な再開を目指す。令和 6 年度の合同交流会は中止を予定しているが、ビアパーティーの開催に向けて検討を開始している。令和 7 年度においては合同交流会の開催を予定している。

(3) 学術関連

- ① 研修会活動・症例検討会の開催方法について（東京・山梨、神奈川、東京、埼玉、茨城）
- 研修会の開催方法については現地開催+ライブ、オンデマンド配信が望ましい。オンデマンドのみの参加も可とする
 - アフターコロナで学会や研修会は集合型に戻るのか？遠方の会員はWebの方が参加しやすいと思うがハイブリッドなどは検討しているのか？
 - メーカー主催の研修会や各学会主催の学術集会は、集合型開催に戻ってきているが支部主催研修会や学会は、今後もWeb開催のまま継続していくのか
 - Web開催およびオンデマンド配信は参加しやすく、今後も活用していただきたい。但し、人事交流等にも繋がるため、集合形式での開催も数回は取り入れていただきたい。
 - 集合形式での開催の場合、予算面も含めて会場の確保に苦慮されると思うが、具体案あるいは決まっていることがあれば教えてほしい（例えば、公的施設の会場利用が可能とか）

【回答】

- 研修会の開催方法に関しては、現地開催又はオンデマンド開催を行うことにより多くの方に参加しやすい環境を整えたいと考えている。また、Web会議システムの利用が可能であれば、ライブ配信（ハイブリッド開催）についても取り入れていきたい。開催場所については、病院会議室や公的機関、企業協賛で行う場合は企業の会議室などを考えているが、利便性や予算の面も含めて選定していくべきかと考える。

② 研修会活動・症例検討会の内容について（東京・山梨、神奈川）

- 関東信越グループ研修と被らない領域の実技研修会を開催（基礎・初心者（資格取得研修を含む）・中級者向け）
- 「このような研修を用意している」のような発信があると活用の機会が広がると思う。
- 「臨地実習指導者講習会」および「タスク・シフト/シェアを推進する業務」の研修会などを開催していただきたい。

【回答】

- 実技演習に関しては、機器等を使用するため施設の確保及び講師の確保が必要であり、現在のところ関信支部が単独での対応は困難である。企業と連携して実技研修を開催することが可能であるか検討したいと考える。
- 研修会の内容について、現時点での用意している研修会はないが、今後、研修会の内容について早めに決定し、ホームページ等へ掲載するように努める。ま

た、各地区会において、「こんな内容の研修会を開催してほしい」等のご意見があれば、是非、検討させていただきたい。来年度の研修会内容に「臨地実習指導者」に関する研修会を行う予定である。「タスク・シフト/シェアを推進する業務」に関する研修会については、講師等の選定が必要であり検討させていただきたい。

③ 各地区会主催研修会について（神奈川、長野、茨城）

- 各地区会主催の研修会をオープンにして他の地区会からも参加できるようにできないか
- 各地区会の研修会内容を YouTube など活用して共有できないか
- 前回の地区代表者会議で地区会主催研修会等を支部会員が視聴できるような運用を検討し、研修会の充実を図っていききたいとあるが、今年度地区会主催の研修会の配信を行ったのか？

【回答】

- 各地区会にて講師の方に許可を得ていただき、録画したデータを地区会より関信支部に送っていただくことが可能であれば、期間を設けてオンデマンド配信を可能かと思われる。また、関信支部から働きかけを促していきたいと考える。YouTube の活用については、関信支部主催研修会を含め、前向きに検討する。また今年度は 1 件のみだが、長野地区会研修会の配信を行った。今後は、配信数を増やしていきたいと考えている。

④ 「誰でも簡単に（わかりやすく）質問できる環境整備を希望する」できればシステム構築をお願いしたい。（神奈川）

【回答】

- ホームページに「会員の皆様の声」の設置を行っている。また、設置に際しては、支部ニュースやメール配信を行っていたが、再度、施設のスタッフに周知をお願いしたい。学術委員に対して迅速に対応を要する内容について回答を行うことは現状困難である。メーカーの学術等を活用していただきたい。比較的柔軟に対応が可能な相談やアドバイス等については引き続き学術委員に対応をお願いしていく。

（４）学術委員会関連

① 地区会研修会講師の学術委員会への依頼について（東京・山梨、長野）

- コロナ禍以前のように、地区会から学術講演の依頼をして学実委員の方に講演していただくことは可能か

【回答】

- 可能かと思われる。支部 HP 会員専用：学術委員会→各種申請書「講演会・研修会等の講師派遣依頼について」をご確認いただき、「国臨協関信支部研修会開催申請書（外部講師招聘用）」を事務局まで提出してほしい。

② 各分野の研究班の設立について（東京・山梨）

- 研究班からマニュアルの標準化や精度管理・学術情報を発信、ホームページ等も活用

【回答】

- 現時点での研究班として活動は、予算の面や班員の人員確保の面を考慮すると厳しいと考える。今後、学術委員や関信支部理事と協議を重ねたうえで、研究班としての活動が可能であるか検討することとする。

③ 学術委員の所属施設の偏りについて（東京・山梨）

【回答】

- 関信支部としては、学術委員の所属施設の偏りがあるとは考えていない。選出は、様々な方々との協議や推薦によって行われており、その結果、専門性の高い施設や規模の大きな施設からの選出が多い結果となっているものとする。各地区会で学術的に優れている方がおられましたら、是非、推薦していただきたい。

【国臨協関信支部学術委員会規程 第七条（選出）】

支部三役、地区会長、学術に指導的な立場の会員等と協議し、(学術的に優れた) 会員の中から学術部門員を選出する。

④ 支部ホームページに掲載されている「学術委員会構成図」について（千葉）

- 構成図として分かりづらいと思うので更新してはどうか
- 学術委員会の存在を強調した方が良い

【回答】

- 学術委員会構成図については、ご指摘をいただいた通り、分かりづらい図となっている。こちらについては、改めて組織図を作成し、ホームページに掲載することとする。

(5) 学会関連

① 学会の開催方式について（東京・山梨、神奈川、埼玉、長野、茨城）

- 集合方式の学会開催+web 配信（オンデマンドのみの参加も可とする）により参加機会を広げてほしい
- 集合型とオンデマンド型のハイブリッド開催についてどのように考えているか教えてほしい

- 第 52 回支部学会は、集合型での開催を希望する
- アフターコロナで学会や研修会は集合型に戻るのか？遠方の会員は Web の方が参加しやすいと思うがハイブリッドなどは検討しているのか？

【回答】

- 学会については、集合型で調整をしている。会場利用費等の予算的な面も考慮し、ハイブリッド開催については、現状難しいと考える。概算ではあるが、ハイブリッドで学会を開催すると 200 万円程度の予算が必要である。

② 関信支部学会は、年々演題数も減ってきているが、今後の支部学会の運営についてどのように考えているのか（東京）

【回答】

- 専門学会のような敷居の高い学会ではないので、新人会員や学会発表の経験が少ない会員においても発表しやすい学会であるため、関信支部として今後も学会の継続は必要であると考えます。ただ、規模の縮小や隔年開催等については検討の余地があると考えます。演題数については、各施設でのご協力が不可欠であるので、引き続きご協力をお願いしたい。

③ 地区会ポスターについて（神奈川、群馬）

- 企画テーマの伝達時期を早めをお願いしたい
- 企画の見直しをお願いしたい
- 地区会ポスターの廃止

【回答】

- 地区会ポスターのテーマに関しては、昨年より 1 か月程度早く配信した。あまり早い時期にテーマを公表した場合、地区会によっては会期をまたいでしまうのご意見をいただいたこともあり、6 月初旬が妥当かと考える。企画については、毎年テーマを変えてポスター募集を行っている。基本的には地区会の地域の紹介や施設紹介、会員紹介等がメインのテーマとなっている。現在は、パワーポイントでの提出となっているが、集合型の開催になった際にはポスター展示としたい。ポスターの廃止については、地区会によっても温度差があると認識している。地区代表者会議においても何度か話題になってきた意見ではあるが、現状では廃止の方向では考えていない。

④ 関信学会の新人賞はなくてもいいと思う。（受賞したことにより、モチベーションアップは狙えるがそもそも新人の登竜門的な学会という認識である）（東京）

【回答】

- 第 51 回関信支部学会において 70%弱の演題が新人賞候補対象の概ね 5 年以下の

新人となっており、新人の登竜門的な学会という要素は否定できない。しかし、学術奨励賞や学会特別賞の基準に満たないが、評価できるといった演題について、新人賞対象の中で候補があれば表彰するといったスタンスで新人賞を設定している。今後はご意見を踏まえて、学術委員会、理事で協議したい。

(6) 広報関連（ホームページを含む）

- ① 支部ニュースの発送について、学会特別号の PDF 配信は良かったと思う。経費削減を考慮して、PDF 配信を推進してはいかがか（埼玉）

【回答】

- 今年度は経費削減や理事の会務負担軽減を鑑みて紙面発行回数を 4 回から 3 回とした。発行しなかった 11 月号の主な内容は学会報告となっており、それを補うため学会特別号として PDF 版を新たに発信した。紙面発行を減らすことで経費削減となったため、来年度もこの運用は継続していきたいと考えている。更に、今後を見据えて他号でも電子化の発行を検討していく。

② ホームページの活用について（東京・山梨）

- 学術委員活動等をホームページに掲載する
- ホームページをスマホ対応にする
- 動画による検査コンテンツの充実

【回答】

- 学術委員会提供の研修会資料等はホームページの資料アーカイブ等に随時掲載している。現在、学術委員会のページには Q&A を掲載しているが、学術情報の提供等の新コンテンツができれば随時掲載可能である。昨年度の地区代表者会議にて回答させていただいたが、スマートフォンでホームページは閲覧可能である。そこで支部ニュース（232 号「関信支部ホームページの活用法を知ろう！」）において、スマートフォンからホームページを開き会員専用ページの支部ニュースを閲覧する方法を掲載した。しかし、思った以上にホームページアクセス数が伸びていないので、今後どうすれば認知していただけるか検討したいと考えている。研修会等の動画コンテンツについては試みたが、動画編集や技術的な問題により実現できていないのが現状である。今後も検討していくが、個人メインで管理するホームページとしては限界があるのでご理解いただきたい。

③ ホームページのアクセス数について（埼玉、茨城）

- アクセス数は、コロナ前、コロナ禍、コロナ後で違いはあるのか
- QR コードを支部ニュースに掲載したことで、ホームページの閲覧数はどれくらい増加があったのか？学会や研修会の時期以外で閲覧数が増える効果はあった

のか？

【回答】

- HP アクセス数の変動がコロナ禍による影響によるものかは断定できない。また、学会や研修会が Web メインになったため、その分の HP へのアクセスが増加したものと考えている。支部ニュース（QR コード付き）と HP アクセスについては、ある程度相関があるのではないかと考えるが、QR コードが決定的に効果を示しているとは証明できていない。今後についても QR コードなどを掲載し利便性の向上に努めていく。【HP アクセス数の動向：資料参照】

④ 外部委託化についてはどのような進捗状況なのか（茨城）

【回答】

- 本会議の支部提出議題にて討議予定だが、外部委託を調査した結果（メリット・デメリット、委託業者、契約内容、委託費用等）を報告させていただく。この討議を経て総会で承認が得られれば、来年度に試行段階に入りたいと考えている。

⑤ 経費削減のために支部ニュースの発行回数を削減しているが、令和 5 年度会計予算案の印刷費が令和 4 年度の決算額とほぼ同額ということは、印刷費がかなり高騰したためなのか？会務負担軽減となっているが、数年前に理事を増やしても広報活動の会務負担が大きかったのか？

【回答】

- 令和 5 年度予算案については、発行数の削減が試行案であったため減額にしていなかった。来年度はホームページの外部委託に伴い、新たな経費も必要となるため更なる発行数の検討が必要と考えており、それに準じた予算を提示していきたい。昨年度より広報・HP 担当理事は 1 名増員とし、増員した理事についてはホームページ担当の会務引継ぎを目標に活動してきたが、現状としては引継ぎ作業がうまくいっていない。支部ニュース関連の会務については、紙面発行回数を 4 回から 3 回にしたものの、その代わりとして PDF 版の発行となったため若干の会務軽減に留まっている。来年度、ホームページは外部委託で管理出来れば 1 名の減員を見込んでいる。

（7）その他

① 臨地実習指導者講習会の講習進捗状況や臨地実習学生受入れ準備は、各施設でどこまで準備できているのか知りたい（神奈川）

【回答】

- 令和 5 年度国立病院臨床検査技師長協議会・国立病院臨床検査技師協会が合同で実施した「合同アンケート調査集計報告」（PDF ファイル）において「臨地実習指

導者講習会について」が報告されている。各協議会と連携して情報の収集と会員への周知に努めていく。

② タスク・シフト/シェアについて（東京、長野、茨城）

- 他施設のタスク・シフト/シェアに関する状況報告をお願いしたい
- 各施設で実際に取り組まれている業務について吸い上げ、運営等を紹介してほしい
- タスク・シフト/シェアに関して、指定講習会への参加を関信支部として働きかけをお願いしたい

【回答】

- 国立病院臨床検査技師協会「令和5年度組織実態調査」（PDF ファイル）にて下記の事項について調査が行われ、結果解析が報告されている。各協議会と連携して情報の収集と会員への周知に努めていく。また、令和5年度国立病院臨床検査技師長協議会・国立病院臨床検査技師協会が合同で実施した「合同アンケート調査集計報告」（PDF ファイル）において「タスク・シフト/シェアについて」が報告されている。各協議会と連携して情報の収集と会員への周知に努めていく。

➤

【厚生労働省指定講習会 タスク・シフト/シェア基礎講習受講調査：資料参照】

【厚生労働省指定講習会 タスク・シフト/シェア実技講習受講調査：資料参照】

（8）自由記載

- ① 支部への協力は惜しまないが、依頼する際は締切に余裕をもって連絡をいただきたい（埼玉）

【回答】

- 支部活動にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。締切り等に余裕をもって依頼を行うように努めてまいります。今後とも何卒よろしく願いいたします。

（9）地区代表者質疑応答

- ① 事務局関連：支部理事を広く多くの会員に経験させる予定はないかについて

- 群馬地区会：柳澤 隆司

理事が他協議会と交流している事業を教えてください。書面回答の協議会は地区会のことを指しているのか教えてください。また各理事が他の協議会と共同して何か事業を行っているのか。3点について教えてください。

【回答】

- 協議会とは地区会を含む国臨協本部や臨床検査専門職、技師長協議会、他のコメディカル関連団体などを指している。人的交流を通じてと回答に記載して

いるが、コロナ禍もあり対面での交流はない。文書などで会議の情報を得ながらという状況となっている。回答が大袈裟な表現となり申し訳ない。地区会との交流については現在理事を各地区会に1名は在籍させており、昨年は理事が地区会事務局と必ず問合せをして情報収集や定期総会に参加させていただいていた。現在は「会員の皆様の声」というツールを作成したので今後、皆様方にもツールの利用をご協力いただきたい。共同事業について目立つところがないが、国臨協本部から依頼については回答やご協力をさせていただいている。また国立病院機構関東信越グループからの講習会への企画や運営、各地区会で申請されているWeb会議ツールのホストなどご協力させていただいている。

➤ 茨城地区会：山田 晶

理事が各地区会にいるにも関わらず、あまり機能していないと思う。情報は地区会の事務局から配信されることが主であり、各理事から地区会へ配信されることはあまりなかったもので、今後していただけるといいと思う。

【回答】

- 地区会の方々へ有意義な情報収集や配信に努めていきたい。お知らせについては各地区会の定期総会でお話しさせていただいているが、内容を見直しさせていただきタイムリーな情報提供ができればと考える。ご意見を真摯に受け止めて対応させていただく。

② 事務局関連：「会員の皆様の声」について

➤ 神奈川地区会：武山 茂

「会員の皆様の声」はどういった質問を投稿できるのか。学術的な投稿もできるので、学術委員会と混同してしまう会員もいるようである。回答の期間も理事会にかけてからではなく、三役のみで協議して答えるなど回答の期間が短くなればいいと思う。

【回答】

- 会員の声を広く集めるために運用を開始しましたが、我々も同じ内容を理事会で話し合っている。支部ニュースにも掲載しているが周知方法が足りないと感じている。確かに頂いたご意見も月に一度の理事会ではタイムリーに答えられないので三役会や臨時のメール会議など今後運用して、臨機応変に対応させていただく。

③ 事務局関連：「支部からのメール連絡」について

➤ 東京・山梨地区会：北沢 敏男

「施設代表者宛のメールが、技師長・副技師長に届くのは何か理由がありますか」という問いに対する回答が筋違いでないか。会費納入時に施設代表者宛のメールを登録しているのに何故、技師長や副技師長に届くのかという問いなのだが。

【回答】

- 会費納入時の施設代表者宛メールアドレスは会費納入時のみに使用する登録になる。今後、書き方については話し合いをさせていただく。

④ 事務局関連：高額な Zoom ミーティング PRO 5ID を使用しているが、無料の Teams を使用し使用料を他の事業等に振り分けることは考えていないのかについて

- 群馬地区会：柳澤 隆司

昨年度の会長より実際にウェビナーを含めた Zoom ミーティング Pro プランでなければ対応できなかった会議等のイベントはいくつあったのか教えていただきたい。昨年の地区代表者会議でも質問しているが回答がないので説明が欲しい。

【回答】

- オンデマンド配信など研修会でウェビナーを使用している。昨年の件数について資料が手元にないため回答できない。

- 東京・山梨地区会：北沢 敏男

会員全員が参加できる体制を有料プランでなければ整えられないのであればシンプルでいいと思う。

【回答】

- ブイキューブという会社を通して 5ID に加えてウェビナーのセットで Zoom 契約を行っている。会議であればミーティング機能で参加者全員が自由に発言できるが、ウェビナーは発言権限を制限できるため研修会で使用している。特に人数制限でウェビナーを使用しているわけではない。セットプランであるためウェビナーを使用している。

- 東京・山梨地区会：北沢 敏男

会員全員が参加できる体制を有料プランでなければ整えられないのであればシンプルでいいと思う。

【回答】

- 現在ミーティングは 100 人まで、ウェビナーが 1,000 人まで参加できる。集合型の研修会は 100 人を下回る場合もあったが、ウェビナーを用いた現在は 200 人から 300 人程度の参加がある。ミーティングのみでは対応できないため

ウェビナーが必要である。

- 東京・山梨地区会：北沢 敏男
その説明で私はとてもクリアに聞こえます。
- 新潟地区会：竹田 信邦
Web 会議ツール利用申請書を提出しているが、それで回数がわかるのではないか。

【回答】

- 今年度の使用回数は 30 件である。本会議終了後、今年度および昨年度の「Zoom ミーティング」と「Zoom ウェビナー」を分けて集計して報告する。

⑤ 文化活動関連：会員交流の場について

- 東京地区会：後藤 信之
前回の地区代表者会議では令和 6 年度合同交流会を開催する方向で検討すると前地区会長から引き継いだが、集合型イベントに関するアンケート調査が 10 月までかかっている。前回の地区代表者会議から令和 6 年度合同交流会中止を決定したタイムラグの理由を知りたい。

【回答】

- 前回の地区代表者の方々からは開催したほうが良いと意見でご指摘いただいた。その後、常任理事会にかけてアンケートを取る事となった。アンケートの集計結果が 10 月頃となったが、アンケート結果の意見もほぼ半分は意見が割れた。前回でやる方向で検討するとなっていたが、結果を以って検討を開始した。以前より会場などの手配・準備などに半年の時間を要していた。また理事についても合同交流会など大勢が集まる文化活動は未経験者が多く、令和 6 年度合同交流会の早急な対応は困難であった。代わりではないが、コロナ禍明けとして梅雨明け 7 月または 8 月頃にビアパーティーを代表として開催させていただく。ビアパーティーにより経験を積んで令和 7 年度合同交流会は開催したい。アンケート調査に時間がかかり、未経験者が多く経験の浅さについては誠に申し訳なく感じている。

- 茨城地区会：山田 晶
文化活動のビアパーティーと合同交流会は関信支部の事業なのか。

【回答】

- 現状としては、ビアパーティーのみ関信支部の事業として登録されており、合同交流会については有志による運営となっている。昨年の地区代表者会議でも意見を伺ったが、キャンセル料が発生すると有志の場合、キャンセル料をど

こから支出するのが問題となった。コロナ禍で開催を予定していた合同交流会の中止に伴うキャンセルは、当時の支部長判断により支部の予備費を活用して支払った。合同交流会は有志でおこなう会であるため、キャンセル料を支部会費から支払うのか躊躇する一因となっており、昨年の地区代表者会議では事業にする案もあった。事業化する案は検討しており、問題がなければ取り組んでいきたいと考えており、定期総会に支部提出議題として挙げるために理事会で検討しているところである。事業化した際はキャンセル料の懸念が払拭できるので、令和7年度の実行を前向きに検討している。

➤ 長野地区会：岡村 治

集合型イベントに関するアンケート調査では大満足、満足、普通と回答している合計が70%を超えている。結果から、これからも継続していただきたい。辛辣な意見もあり、満足していない理由であると思うが不満に思う20%超のご意見も汲みながら進めていただけたらと思います。

【回答】

- 会員の皆様の不利益にならないよう、努めて参ります。その際にご協力よろしくをお願いいたします。

⑥ 学術委員会関連：支部ホームページに掲載されている「学術委員会構成図」について

➤ 千葉地区会：仲間 盛之

地区会で研修会を行った時、以前は学術委員が講師となって活動していた。現在も依頼すれば可能かご教授いただきたい。コロナ禍により時間経過とともに行われていないと感じているため、構成図とともに活動内容のアピールをしてはどうか。学術委員が講師となって活動していたことを広く周知していただきたい。

【回答】

- 以前より学術委員が講師派遣はおこなっていたが、コロナ禍の影響もあり派遣はできていなかった。コロナ禍も明けた状況となってきたので地区会の定期総会や研修会、その他でもご依頼いただければ学術委員とお話しさせていただく。また、学術委員から適任者がいないようであれば、学術委員からの推薦者を派遣することも理事会にかけて可能である。学術委員会の在り方（活動を含め）はコロナ禍による時間経過とともに停滞気味であった。構成図を含めて見直し、学術委員会へ依頼協力をお願いを行う。また関係支部からはお知らせのなかに学術委員が講師出来ることを盛り込んで、皆様方へ周知していく。

⑦ 学会関連：学会の開催方式について

- 新潟地区会：竹田 信邦

開催方法の回答は集合型のみで行うと認識していいか。

【回答】

- はい。

- 東京地区会：後藤 信之

遠方から参加する会員はハイブリッド開催がいいと思うが、回答にある 200 万程度の見積りは安くなるように検討できないか。

【回答】

- 200 万円は以前検討した際の予算である。コロナ禍以前、実際に何社か見積りを取って検討しており、国立国際医療研究センター病院でハイブリッド開催した場合の最安値である。200 万円以上かかることは明らかであり、ハイブリッド開催は難しいと考えている。

- 東京地区会：後藤 信之

他学会はハイブリッド開催しているが、本当に 200 万円以上の予算をかけて開催しているのかと思い、他に安いところがないか。

【回答】

- 他学会の予算はわからないが、関信支部の予算内では難しい。利便性は上がるが、関信支部学会の視聴者数からも費用対効果が高いとは感じていない。とりあえずとなるが、来年度は集合型で開催させていただきたい。

- 神奈川地区会：武山 茂

ハイブリッド開催だと録画してオンデマンド配信する配信料など業者に依頼する必要があり、200 万円以上必要と思う。学会参加に関して遠方の会員で来訪できない場合、演題を録画して参加することが出来れば発表者増えると思う。

【回答】

- 他学会でも行われており、視聴で単位を与えていたりすることもある。良いご意見をいただいたので検討させていただく。

⑧ 広報関連(ホームページを含む)：ホームページの活用について

- 東京・山梨地区会：北沢 敏男

会員への情報提供として会員のページは更新されましたと非常によくやっていただいているが、一般向けに対するコンテンツをどのように考えているの

か。基本的に会員向けで考えて行くのか。

【回答】

- ホームページについては、会員の皆様がどれだけホームページに対して重きを置くのか考えており、全国支部長会議の際に出席者に伺ってみたところ各支部においても温度差が大きかった。いらないと放置している支部もあれば、担当者を決めて行っている支部もあった。会員の皆様がホームページに対する要望の度合いによって温度差があるが、会員のページについては更新した情報を配信させていただいている。一般向けコンテンツについては、個人情報保護の観点から個人情報が含まれない研修会履歴や関信支部学会のページはパスワードをかけずに一般向けに開示している。またリンクについては昨年度より内容を増やして医療関連団体や組織、臨床検査技師関連学会や資格へのリンクを充実させ、一般向けコンテンツとして公開している。新たなコンテンツについては今後協議しながら検討していきたいと考えている。
- 東京・山梨地区会：北沢 敏男
外部委託化まで考えるなら確りとホームページを綺麗にして情報発信できる支部になっていただければと思います。

⑨ 広報関連(ホームページを含む)：支部ニュースの発送について、学会特別号の PDF 配信は良かったと思う。経費削減を考慮して、PDF 配信を推進してはいかがかについて

- 茨城地区会：山田 晶
以前 PDF 化してホームページに載せていた時期があったが、あまり評判がよくなり辞めた経緯がある。そこを踏まえて考えると実際どうなのか。

【回答】

- 昨年度は紙面で 4 回、今年度は 3 回といった形にさせていただいて、紙面発行がいい意見と PDF がいいという意見をともにいただいている。
- 茨城地区会：山田 晶
10 年ほど前のことであり、金銭のことや時代もあると思う。

【回答】

- 発行費用の削減を行いホームページの外部委託化費用の捻出に充てることなどを検討しているが、今後、紙面での発行を全く行わないとは考えていない。まず紙面での発行回数を段階的に減らせればと考えている。

令和 6 年度 地区会提出議題

(1) 事務局関連

① 支部理事の人数・業務について（群馬、新潟、茨城、栃木）

- 今後の支部活動において理事への負担軽減につながる会務のスリム化や縮小化等の考えはあるのでしょうか。
- 関信支部理事への負担が大きいと感じる。会員のニーズの多様化にあわせ活動メニューの縮小化など、理事の負担軽減となる改善や工夫に取り組んでいただきたい。
- 支部理事の人数は適正か？支部ニュースの年間発行数を減らし、ホームページもアウトソーシング化して理事の負担が減っているように思える。また、各地区に配置しても当該地区の理事が全施設と連携しているわけではない。
- 2年後の国病学会の関東甲信越の開催で理事の増員または減員はあるのか。

【回答】

- 支部 HP 管理業務の外部委託化が完了した為、次年度は役員を 1 人減とする。
- 令和 8 年に第 80 回国病学会が横浜で開催予定であり、関信支部が担当となる。2 年を掛けて準備を進める必要もあり、令和 8 年度までは会務負担が大きくなることはご理解いただきたい。出来るだけ各施設での日常業務に影響を及ぼさないよう配慮・工夫に取り組んでいく。
- 支部ニュースの作成については、紙媒体での発行を減らした分を PDF 版で作成・掲載しており、業務量としてはほぼ変わらない。経費削減を主とした取り組みであるご理解いただきたい。

② 支部と地区会との連携について（群馬、埼玉、東京、神奈川、栃木）

- 以前は会長及び副会長と理事という形で各地区会に出席していただいて関信支部との交流を持っていたかと思います。コロナの感染状況も落ち着き、各地区会活動も徐々に復活して集合型開催となってきました。今後の関わり方についてどのようにお考えなのかお伺いしたいと思います。
- 各地区会より理事が選出されていたが（埼玉地区会以外）、今後も同様に選出されるのか？選出されない場合は、各地区会との連携はどのように行われるのか？
- 今後の地区代表の関信支部の理事の有り方について。
- 各地区会で関信支部の理事が講演している「関信支部の活動報告」については 5 分程度に要点をまとめ、三役の代表が出席しているのであれば、その方が講演したほうが良いかと思います。
- 地区会事務局と支部理事との情報共有の場が多いと地区会会員へのフィードバックが充実されるのではないかと。

【回答】

- コロナ禍の中で地区会との連携を図る取り組みとして各地区会からの役員選出をお願いしていたが、各地区会活動も再開・集合型に移行してきていることを踏まえ、次年度から各地区会からの役員選出依頼は行わないこととする。
- 次年度から地区会定期総会への役員派遣依頼を頂いた場合は、基本的に支部三役から1名派遣し活動報告を行わせていただく予定である。その際に支部へのご意見・ご要望等があれば伺わせていただきたい。また、支部メールアドレスや「会員の皆様の声」でも随時受け付けているので是非ご活用をお願いする。
- 「関信支部活動報告」について、昨年度の地区代表者会議にてマンネリ化しているところのご指摘をいただき、スライドの内容・デザインの刷新を行った為、例年よりボリュームが大きくなった。5分程度というのは極端だと思うが、要望が多ければ内容の簡素化も検討していく。

③ 会議の開催方法（Web 中心では細かいところの共有ができないのでは？）（東京）

【回答】

- 集合型の会議と比較して意思疎通に影響がないとまでは言えないが、その差は軽微であり Web 形式のメリットが大きいと考えている。年に2回程度は集合型でも会議を行っており、役員の負担や経費の点からも現状の開催方法を継続していく。

④ 近年は支部に入っていない人も見受けられるので、各地区の総会時に行っている支部報告以外に新入職者向けに支部の活動内容を紹介してはどうか。（東京・山梨）

【回答】

- 施設によっては支部報告のスライドデータを使用して紹介・勧誘いただいているところもあると伺っている。依頼があれば PDF でデータをお渡しできるのでご連絡いただきたい。または、6月の会費納入依頼時に参考資料として添付することも検討する。

⑤ 「会員の皆様の声」について（茨城、東京）

- 「会員の皆様の声」を設けているが、会員に浸透していない印象。今年度の実績はあるのか？必要性や継続の是非、会員の意見聴取について代替方法は検討しているのか？

- 「会員の皆様の声」について昨年度は1件の投稿があったと記載があるが、その後投稿数は増えているか。また、どの様な声が挙がっているのか。可能な範囲で教えていただきたい。投稿数が伸びないのであれば増える工夫を考えていただきたい。

【回答】

- 現在のところ、今年度の実績は無い。支部 HP の TOP に掲載しており、支部ニュースでも紹介記事の掲載を行ったが、利用が無い中、個人で要望を投稿するのはかなりハードルが高いと思われる。
- ①の回答でも少し触れたが、元々の設置目的の一つに地区会からの要望を受ける窓口の役割というものもあるので、今回の会議でお寄せいただいた様な要望を地区会からとして投稿いただくと、地区代表者会議の時期を待たずに毎月の常任理事会で検討を行うことが出来るのは有用ではないかと思う。また、それに伴い実績が増えてくれば個人投稿においても現状から変化していく可能性もあるのではないかと考える。

(2) 文化活動関連

① 交流会の開催形式について（東京、千葉、長野）

- コロナ以降、合同交流会・ビアパーティーなどの交流会が、企画しても感染拡大に伴い中止となっている状況である。これについては、今後も同様の状況が続くと思われる。交流会の開催方法に関しては、再度見直しが必要なのではないか。
- 研修会と交流会の分離（参加者が増えるかも）
- 集合型のビアパーティーをオンライン飲み会にしたら気軽に参加できるのではないか。
- 研修会+ビアパーティーと関信支部学会の開催時期が近いため、双方へ地方からの現地参加はなかなか厳しいです。関信支部学会後の懇親会を意見交換会にしてビアパーティーと兼ねてみてはいかがでしょうか。

【回答】

- 今年度は中止となってしまったが、令和7年度もビアパーティーを企画・開催する予定である。その参加状況等を踏まえ、令和8年度においては合同交流会も開催を検討していく。
- 遠方からの参加を考えると、単独開催よりも研修会等と同日開催の方が参加のハードルが下がるのではないかと思う。
- 数百人規模でのオンライン飲み会というのは現実的では無いのではないかとと思われる。
- 関信支部学会+ビアパーティーとの提案については、学会閉会まで参加いただく

ことにも繋がると思われるので前向きに検討させていただく。

② 会員交流の場について（群馬、東京、千葉）

- 若い会員が集える企画などあると良いと思います。上司などいない場所で横のつながりを持てれば組織や活動に関心を持ってもらえるのではと期待します。
- 合同交流会が、感染拡大で実施できないのであれば、Web で退職者に挨拶して
- いただいたり、退職者へ向けて思い出話をしていただくなど、新たな企画が必要なのではないか。
- ビアパーティーや交流会を積極的に行っていただきたい。

【回答】

- 研修会について、新人技師向けの講習会の要望があるので、集合型で行うことができれば併せて懇親会も企画できないか検討したい。
- 技師長協議会において Web で退職者にご挨拶をいただく企画があったが、技師長協議会と支部で共同開催し、支部会員も視聴出来るような形式が可能か検討したい。

（３） 学術関連

① 研修会活動・症例検討会の開催方法について（東京、東京・山梨、千葉、長野）

- 研修会と交流会の分離（参加者が増えるかも）
- たくさんの人と交流をはかれる研修等を実施してほしい（特に入職５年未満の若い方）
- 研修会や検討会などは現地開催+ライブ配信、または現地開催+オンデマンド配信をしてほしい。
- 研修会など集合型開催もしつつ Web 方式も適宜、継続を希望します。
- オンデマンド配信の継続、または参集型+ライブ、オンデマンド配信を希望したい。他の学会活動など時期的に被りやすい時期でもあり、子供が小さい会員は家で育児をしながら参加でき、メリットが大きい。また、参加人数の向上にもつながると考える。
- コロナ禍で入職した技師にとって参加意義が不透明との意見もあり、参加に消極的な技師が増えた印象を受ける。業務との境界が難しいため、Zoom などを利用してなるべく参加しやすい環境が整えられることを希望する。
- 講師の確保など難しいと思うが、学会で活躍している技師が同じグループ内にいるメリットはとて大きいと思うので、地方会単位で実技研修を開催して欲しい。地区内の大きい施設を中心に若手技師を集めてやっていただきたい。

【回答】

- 過去の研修会参加人数では交流会やビアパーティーと同時開催している研修会

は多く、研修会単独での開催では参加人数は少なくなっている。

- 会員交流を目的とする支部活動としてはビアパーティーや学会等があり、研修会については年間を通じて会員全体で学術向上の場とすることを中心に企画・運営したいと考える。
- 研修会開催方法については、集合型は開催場所が利便性を考慮すると東京近郊となるため、遠方の会員も参加可能なオンデマンド型やライブ型での Web 方式を中心に進めていく。
- 地区会での研修会については、地区会より要望があった場合に支部より学術委員会へ共有する体制となっているためご相談いただきたい。またホームページ「会員専用」→学術委員会に＜国臨協関信支部学術委員会への講演会・研修会等講師派遣依頼手順について＞を参照していただきたい。

② 研修会活動・症例検討会の内容について（埼玉、東京、東京・山梨、千葉）

- 関信支部研修会で認定資格試験（対策）に特化した研修会を検討して欲しい。
- 資格試験対策（2 級や緊急など）やエコーハンズなどの実技研修を実施してほしい。
- 若い役員中心でいろいろと企画等していただいているところは感謝しています。会員サイドの問題もあると思いますが、もっと会員に参加（利用）してもらえないようにしないともったいないと思います。
- 研修会内容について、
 - ・ 各分野の専門性に特化した実技研修を開催いただきたい。
例：性状確認培地の接種方法や確認方法、グラム染色鏡検等の微生物検査の実技研修会
 - ・ 脳波、心電図、超音波などの各種専門実技研修会
 - ・ 新人技師向け講習会を定期的に開催していただきたい。
例：緊急検査、超音波検査、細胞診検査、輸血検査など
 - ・ 接遇、クレーム対応などに関する研修会を開催していただきたい。
 - ・ NHO、病院等で実施している以外に医療安全、メンタルヘルスに関する研修会を開催していただきたい。
- タスク・シフトの進め方や取り組み方の研修を要望する。
- 講習内容について臨床的な講義だけでなく、検査科の経営等の講義も実施してほしい。

【回答】

- 今回意見として挙げていただいた研修内容については参考とさせていただき、年間を通じてより多くの会員が学術研鑽を図る場として企画・運営したいと考える。また各会員や地区会において具体的にどのような内容の研修会を開催し

てほしいとの要望があれば、ホームページ「会員の皆様の声」等で投稿していただければ前向きに検討させていただく。

- 実技演習に関しては、機器等を使用するため施設の確保及び講師の確保が必要であり、現在のところ関信支部が単独での対応は困難である。企業と連携して実技研修を開催することが可能であるか検討したいと考える。また地区会単位の規模で施設を利用し学術委員会の協力を得てエコーハンズオン研修などの開催がより現実的と考える。

③ 各地区会主催研修会について（神奈川）

- 他の地区会での研修会で聞いてみたい内容の時、主催地区会会員ではなくても参加は可能なのか。

【回答】

- 各地区会の開催方法や内容によっては参加可能と考える。まずは地区会の協力が必要であり、連携体制の確立が課題となる。オンデマンド配信については、各地区会にて講師に許可を得ていただき、録画したデータを関信支部からホームページにて配信は可能である。前年度に長野地区会研修会の配信を行った。また集合型の開催が多くなっている所以で地区会より参加の許可を得られれば、関信支部でアナウンスを行い現地参加可能と考える。

④ 支部主催研修会の参加者（埼玉）

- 支部主催研修会の参加者を増やす取り組みがあれば教えて欲しい。（第 1 回目の参加者数は 226 名）

【回答】

- 土曜日開催としているが、ライブ配信として平日の時間外開催も検討したいと考える。

（４） 学術委員会関連

① 学術委員会の活動について（東京）

- ルーチンアドバイス事業の Q&A が直近、年間 1～2 件程度しか報告されておらず、質問体制などについて見直しが必要ではないのか。また、学術委員会活動の充実化を図るため、取り組みなど行っているのか。

【回答】

- 学術委員会の活動についてはルーチンアドバイス事業のみならず、支部学術活動の多くを支えてもらっているが認知されていない部分があると考えている。支部学会の学会賞選考や支部主催研修会の主催・運営、支部ニュース「身に付けよう覚えよう検査技術」・「Case Study」への投稿、国病学会の「この発表いいね

っ」の選考などを行っており、今年度は関信ブロック主催研修会「令和 6 年度臨床検査の精度および品質確保推進研修」でファシリテーターとして参加した。

(5) 学会関連

① 学会の開催方式について（新潟、東京・山梨）

- 地方や当日当番で参加できない会員のために、可能であれば関信支部学会をハイブリッド開催またはオンデマンド配信してほしい。
- 研修会および関信支部学会のハイブリッド開催について要望が多いため、今一度、検討いただけないか。（前回討議で費用が高額になると回答されていたが、理事が Zoom や Teams 等で学会会場を撮影しリアルタイム配信できるのではないかな）
- Web 方式+オンデマンド配信希望。適宜、Web 方式+対面で開催してほしい。

【回答】

- 会員の交流の場という点では前年度・前々年度の Web 方式のハイブリッド型開催より、今年度の集合型開催のほうが優れている。会計面では昨年に運営委託費として調査したところ集合型では 2,000,000 円、更にハイブリッド型を含めると 5,000,000 円と 2 倍以上運営費が必要となる。
- 理事が撮影しリアルタイム配信するというご意見についてはすべてを演題や講演については困難と思われるが、特別講演や分科会等の音声を録音しオンデマンド配信用にスライドと編集し、配信可能なクオリティーにできるか検証したいと考える。

② 学会の内容について（東京）

- 関信支部学会のレベルアップ（演題登録数や発表内容）
- 毎年の登録演題数は 30 前後で少ない印象です。何か演題数を増やす工夫をしてみてもどうか。

【回答】

- 登録演題数については一時期の 10～20 題から 31 演題と徐々にではあるが増加している。この演題登録数や発表内容のレベルアップは会員や施設の協力が不可欠であり、積極的に投稿していただきたい。また登録演題数を増やすことのみを考えれば投稿規定の条件を下げることも一考としてあるので検討する。

③ 学会企画について（茨城）

- 今年度の関信支部学会にて特別講演と有志の分科会が同時刻に開催されたが、そのため両講演を聴講することは不可能であった。特別講演と有志の分科会は可能ならば時間をずらして開催するなど、両講演を聴講できるような仕組みを

検討していただきたい。

【回答】

- この両講演については内容も素晴らしく当初より同時もしくは別時間での講演にするか議論はあった。しかし5年ぶりの集合型で遠方からの参加者を考慮し、開催時間短縮としたため同時刻講演とした。オンデマンド型として後から聴講できる等の対応ができればよかったと考えられるため、この反省を次回に活かせるように努めていきたい。

④ 学会抄録集について（神奈川）

- 学会抄録集は廃止してアプリとPDF（各自で印刷）に切り替えてはどうか。

【回答】

- 抄録集については支部内でも様々な方法を模索した中で今年度は現行通りのA4サイズで作成した。A5サイズで案内や日程表、演題プログラムを掲載し、抄録はホームページから各自印刷もしくはスマートフォン等で閲覧してもらう提案もあった。来年度はA5サイズ版等を検討し、メリットが大きければ進めていきたい。

⑤ 地区会ポスターについて（新潟、栃木）

- 作成に関わる地区理事が時間も労力も費やし相当な負担であるため、今後も継続させるのか再考していただきたい。関信支部理事の負担も大きいのでは？地区会として不参加という選択肢はあるのか？
- 地区会ポスターについては、各地区大変な作業のため廃止してはどうか。

【回答】

- 地区会ポスターについては毎年このような意見があるが、各会員や地区会によっても温度差があることも認識している。今年度はポスター印刷を支部で一括して行うなど地区会の負担軽減を図った。更に検討が必要な事項と認識しているが、一定の会員では良い評価もあるため現状では廃止の方向では考えていない。

⑥ 新人賞について（神奈川）

- 演題募集要項では発表者が採用5年以内の場合は、カテゴリ番号の前に「○」を入力とあるがこれが新人発表となるのか。新卒で5年以内と中途採用で5年以内ではキャリアに大分差があるので新人発表の規定の見直しを希望します。

【回答】

- 各施設の倫理観の問題で新人発表の規定について採用5年を新卒や中途採用もしくは職務経歴は発表者や施設の判断で新人とするか一般に委ねたいと考える。

また規定については学術委員会を交えて検討していきたいと考える。

(6) 広報関連（ホームページを含む）

① ホームページの活用について（神奈川）

- ホームページの充実（HP 上で e ランニング等）

【回答】

- 学術委員会提供の研修会資料等はホームページの資料アーカイブ等に随時掲載している。現在、学術委員会のページには Q&A を掲載しているが、学術情報の提供等の新コンテンツができれば随時掲載可能である。
- 昨年度、一昨年度の地区代表者会議にて回答させていただいたが、スマートフォンでホームページは閲覧可能である。そこで支部ニュース（232 号「関信支部 ホームページの活用法を知ろう！」）において、スマートフォンからホームページを開き会員専用ページの支部ニュースを閲覧する方法を掲載した。今後は、さらにホームページアクセス分析を進め、どうすれば認知していただけるか検討したいと考えている
- 研修会等の動画コンテンツについては試みたが、動画編集や技術的な問題により実現できていないのが現状である。来年度からは、ホームページのリニューアルについても検討していく方向であるため、コンテンツの充実化を目指していきたいと考えているが、現状においては限界があることをご理解いただきたい。

② ホームページのアクセス数について（茨城）

- ホームページをアウトソーシングしているが、委託前と見た目の変化がない。費用をかけているのであれば、もっとアクセス数の増加に繋がるようなデザインやコンテンツを導入してはどうか。

【回答】

- 来年度からは、ホームページのリニューアルについても検討していく方向で考えている。まずは、ホームページのリニューアルに必要な改善箇所の洗い出しが必要な状況である。システム改修の必要性も考えられるため、予算化し取り組んでいきたいと考えている。
- アクセス数の増加に関して、支部ニュースに QR コードを掲載することでスマートフォンからのアクセス増加も目指している。今後は、スマートフォンからのアクセス数などの分析を充実させていきたいと考えている。継続して QR コードなどを掲載し利便性の向上に努めていく。
- ホームページアクセス数の動向（資料参照）

③ 外部委託化について（東京・山梨、神奈川）

- 外部委託化して利便性の向上もしくは新しい機能は追加されているか？
- 今年度外部委託の試行段階と報告を受けているが進捗状況を教えてほしい。
- 外部委託した際には、スマホ対応できるか。スマホ対応可能であれば、会員証をデジタル会員証に移行したらどうか。（会員カード作成費、再発行費、発送費が削減できる。学会・研修会当日の会員認証もカード不要、カード忘れの受付も不要となる）

【回答】

- 9月30日にホームページ管理について、外部委託会社と契約を締結し、管理業務の移行も完了した。外部委託のメリットを活かした運用方法を構築し、利用の促進を図っていきたいと考えている。
- 現在のホームページは旧来のものを移行したものであるため、現状機能等に変更はない。改修の必要性は感じており、上記②でも示した通り、ホームページのリニューアルについても検討していく方向で考えている。
- デジタル会員証については、個人IDでのログインが必要となることから、システム改修が必要となってくる。利便性とコストについて、システム改修と併せて今後検討をしていきたい。

（7） その他

① 国臨協本部への要望について（東京・山梨、神奈川）

- 本部理事について、全国を対象に理事を募るのはどうか？通常の理事会はオンラインでできるのでは？
- 会員名簿を以前の職員名簿に戻していただきたい。
- メールにてアンケート結果等のお知らせがある場合、HP掲載場所を文章表示ではなく、URLリンクで出来ればお願いしたい。

【回答】

- 2月に第37回国臨協全国支部長会議が開催されるので、関信支部からの意見・要望として上記内容を報告させていただく。

【本部の回答】

- 本部の理事については、「国立病院臨床検査技師協会役員推薦規程」第5条（役員の選出）において「本部役員は事務局所在地及び近郊の会員より、公募及び推薦により選出する」と決められている。また、過去に全国支部長会議においても審議事項として話し合われたが、役員推薦規程に準じて行うことが確認されている。今後も規程に準じた対応を行う。
- 会員名簿について従前のような職員名簿を求める声も認識している。退会された会員等から掲載しないでほしいと複数の依頼があり、また、国臨協の事業で

あり非会員の情報を掲載する妥当性がないため、会員名簿として作成することのご理解を頂きたい。その代わりとして、4月1日付会員調査ファイルを全国版として集約し、支部と共有していきたいと考えている。

- URL リンクについては今後対応する。

② タスク・シフト/シェアについて（埼玉、東京）

- 関信支部としてタスク・シフト/シェア推進への取り組みを検討していたら教えて欲しい。
- 検体採取等に関する指定講習会およびタスク・シフト/シェアに関する指定講習会の受講率がわかれば教えてください。

【回答】

- 支部の事業としては、令和6年度第1回研修会をタスク・シフト/シェアをテーマに開催させていただいた。今後も研修会等でタスク・シフト/シェアへの取り組みの紹介や理解の向上を行うことで推進に寄与していきたい。
- 指定講習会の受講率については、国臨協本部事業である「令和5年度組織実態調査」にて調査が行われ、結果解析が報告されている。国臨協本部 HP に掲載されているのでご確認ください。

医療職（二）職員	基礎講習会受講率（全国）	1,227 / 2,116 人	58.0%
医療職（二）職員	実技講習会受講率（全国）	838 / 1,227 人	68.3%

③ ISO 認定未取得施設（未経験者）から ISO 取得施設へ異動となった場合を想定した準備などを考えていますか。または、企画立案をお願いしたい。（埼玉）

【回答】

- この内容については国臨技長会や国臨協本部の品質管理推進委員会の領域の案件と思われる。2月の全国支部長会議にて関信支部からの意見・要望として報告させていただく。ISO 取得施設の関連業務を研修会で紹介する等、支部として出来ることには協力させていただく。

【本部（品質管理推進委員会）の回答】

- 品質管理推進委員会は ISO 15189 に特化した委員会ではなく、臨床検査部門における品質管理の標準化と底上げを目的として活動している。当委員会で作成しているチェックリストは ISO 15189 の要求事項にも準拠している内容なので活用していただきたい。また、ISO 15189 : 2022 年度版については、チェックリストに記載している要求事項については変更がないことから、見直しはするが大幅改定は予定していない。
- ISO 15189 は 2025 年度秋に JIS 規格に制定される予定である。JIS 規格では ISO 15189 : 2022 対訳版よりも分かりやすい和訳と解説が示される予定であるため、

そのあたりも今後は周知していきたい。

- チェックリスト step1 が医療法に準拠する内容に該当する。委員会として情報発信を心掛けていきたい。

④ 機器選定や実際の運用相談ができるツールとして、各施設の使用機器一覧情報を作成いただくことは可能か。(東京)

【回答】

- この内容についても国臨技長会や国臨協本部の試薬機器標準化委員会（活動休止中）の領域の案件と思われる。こちらも2月の全国支部長会議にて関信支部からの意見・要望として報告させていただく。

⑤ NH0では定年年齢の引き上げ（案）が提示されたが、NCはどうなっているのか。(東京)

【回答】

- NCの定年延長の引き上げに関して、現時点では情報を入手していない。(熊谷相談役)

⑥ OB会との連携強化を目に見えるような形にしてほしい。(東京・山梨)

【回答】

- 今年度はOB会定期総会の現地開催が再開され、齋藤副支部長が参加した。また、第52回国臨協関信支部学会でもOB会に告知を行い、OB会員の参加があった。イベントなどの再開に伴い相互交流の機会も増えていくと思われるので、連絡を密にとり連携強化に努めていきたい。

(8) 自由記載

① 今回の要望は千葉地区会会員に対し、アンケート調査を行いました。集計結果は総回答数43件、要望あり6件、要望なし37件となっております。ご検討のほどよろしくお願いします。(千葉)

【回答】

- 今回の活動報告書の作成に多大な労力を掛けていただき感謝申し上げます。ご要望にお応えできるよう支部活動に取り組んで参ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

(9) 地区代表者質疑応答

① 事務局関連：支部理事の人数・業務について

- 群馬地区会：瀬下 明子

国病学会の準備等の会務負担が大きくなるのに、次年度の理事が1人減として
いるのは矛盾があるのではないか。

【回答】

- ホームページの外部委託が完了したため、その関連の特任理事を1名減にする
ということ。2年後に第80回国立病院総合医学会が横浜で開催される予定で、
学会運営の準備等を行う担当は関信支部となる。学会長施設は、横浜医療セン
ターで、副会長施設は東京医療センター、高崎総合医療センターとなる。この
3施設には理事を置く予定で、3施設で情報共有を行い、その情報を支部が吸い
上げて準備を行っていく予定である。それに伴い国病学会関係で理事を1名増
やすので、人数は現状と変わらないことになるのでご理解をいただきたい。

- 栃木地区会：宮澤 寿幸

第80回国立病院総合医学会の準備は大変なものになると予想される。事前の
準備は十分に必要で、人員も必要と思うので協力は惜しまない。国病学会を成
功させてほしいと思うので、皆さんに遠慮なく協力を求めてもいいと思ってい
る。

【回答】

- 心強いお言葉に感謝する。神奈川地区会や神奈川県臨床検査技師会のほうにも
協力をいただきながら学会運営を詰めていく。過去に横浜で行われた国病学会
の運営を経験された方も推薦していただけているので、ご意見をいただきなが
ら対応を進めていく。人員は特任理事として任命もできるので、必要であれば
理事会で検討していく。総会でも議案として提出させていただくので皆様のご
協力を是非ともお願いしたい。

- ② 事務局関連：近年は支部に入っていない人も見受けられるので、各地区の総会時
に行っている支部報告以外に新入職者向けに支部の活動内容を紹介してはどうか。

- 群馬地区会：瀬下 明子

支部にお願いしなくてもまずはその施設で説明できるのではないか。

【回答】

- 支部としては資料を提供できるので、PDFを活用していただき可能であれば施
設で対応していただきたい。

- 東京地区会：関 竜二

他支部でも会員数の減少は問題になっている。使用の依頼はどこにすればよい
のか。

【回答】

- 事務局長または支部のアドレスに連絡いただければ事務局から提供させていただく。

③ 文化活動関連：交流会の開催形式について

【回答】

- 新型コロナ感染者数の状況や時期、また開催方法を検討しながら、来年度はぜひとも開催をしたいと思っている。可能な限り会員の皆様に集まってもらい、親睦の場を設けたいと思っている。遠方からの参加にはご負担も多くなり申し訳ないが是非ご参加していただきたく、ご協力をお願いします。

④ 学術関連：研修会活動・症例検討会の開催方法について

【回答】

- 研修会の開催方法は、過去の参加状況の分析結果からオンデマンド配信での開催を主に行っていく。遠方からはオンデマンド配信を続けて欲しいとの声も多いので、一定の教育の機会を設けさせていただくために、オンデマンド配信・Web方式を用いた開催を中心に行い、集合型開催につきましては、ビアパーティーなどの交流の場と合わせながら開催をしていきたいと考えているので、ご理解の程をお願いします。

⑤ 学術関連：研修会活動・症例検討会の内容について

【回答】

- ご意見等は常任理事会で討議させていただくので、ご依頼の際は「会員の皆様の声」のご利用をお願いします。

⑥ 学術関連：各地区会主催研修会について

- 神奈川地区会：瀬戸 茂誉

前年度に長野地区会研修会の配信を行った。とあるが、経緯を教えてほしい。

【回答】

- 長野地区会で開催した研修会の内容が良かったので、長野地区会の依頼によりホームページより、視聴できるようにした。

- 神奈川地区会：瀬戸 茂誉

各地区会から関信支部に研修会データの配信を依頼すればよいのか。

【回答】

- 以前から同様の質問はいただいているが、情報の共有が難しく、著作権等の問題もあり配信が出来ないこともある。各地区会の状況をご教示いただきたい。

- 群馬地区会：瀬下 明子

地区会の研修会は地区会で完結していて、他地区会への公開という習慣がなかったのではないかと。地区会が検討して公開に問題がなければ、支部に連絡してアナウンスしてもらい、参加や視聴の申し込みを行ってもらおうのはどうか。

【回答】

- 公開等の希望があれば、支部は協力させていただく。全国支部長会議でも討議されているがやはり権利上の問題が絡んでくる。今後、国臨協本部ホームページが整備されていけば、討議が進み研修会の情報が共有できるのではないかと。支部としては、色々な情報を提供していただき、ホームページの支部年間予定表を活用しながら速やかに情報発信をしていく。

- 神奈川地区会：瀬戸 茂誉

以前は地区会と支部との共同開催の研修会があったと思うので、共催の研修会もあってもいいのではないかと。

【回答】

- 共催等も協力や働きかけをさせていただくので、ご相談やご協力をお願いします。

⑦ 学術関連：支部主催研修会の参加者を増やす取り組みがあれば教えて欲しい

- 栃木地区会：宮澤 寿幸

平日のほうに参加しやすい。短時間で興味のある内容の研修会を開催するのはどうか。

【回答】

- ご意見を参考にし、取り込んでいけるように学術で検討していく。

- 群馬地区会：瀬下 明子

平日で勤務時間後に行う短時間の研修会のほうが参加しやすい。

- 関信支部監事：椎名 将昭

コロナ以前の226人の参加人数が多いか少ないかは議論が必要。印象としては、参加人数に大きな変動はないと思われる。できれば各施設で積極的に参加を促してもらえれば、参加人数の増加につながるのではないかと。

【回答】

- ご意見をいただき感謝する。参加人数が多いから良いのかという問題もあり、また、視聴時間の検証も難しいところがある。会員の皆様に均等な機会を提供したいと支部では考えている。そこに対する費用対効果は今後の課題となるが、今のところこのような取り組みを推進していきたいと思っている。コロナ前は

規模が大きい施設で研修会を集合型で行った場合、開催施設の会員が多く参加していただいていた。当時の施設長のお力添えがあったかと思う。

- このコロナ禍の5年間の影響は大きく、企業を含め専門学会が主催する集合型の研修会でも、参加人数が戻ってこないと聞いており、開催方法などについて適時対応していかないと難しいと思っている。椎名監事の意見も参考にしていきたいながら開催を検討していくので、ご協力をお願いしたい。

➤ 千葉地区会：中谷 穂

研修会の目的内容によって参加人数は変わってくる。会場の準備や費用を考えるとオンデマンド配信は必要になってくるのではないかな。コロナ前の研修会に戻す必要はないと思っているので、便利に活用できるオンデマンド配信を利用した研修会も考えてほしい。

【回答】

- その通りだと思う。コンテンツや開催方法の問題なので、今後はスマートフォンを活用した視聴も整備していきたい。NHOや他支部でのスマートフォンのアプリを活用した教育等の方法は把握しているので、当支部でも活用していきたいと考えている。

➤ 群馬地区会：瀬下 明子

新しいツールを使用していくのはありがたいと思っている。個人の意識の変化や専門学会などでのオンデマンド配信が増えてきて希釈されてきているのではないかな。支部の努力不足で参加数が低下しているとは思っていない。十分に努力をしていると思っている。国病学会のこともあり、学習の機会は支部の研修会だけではないので、次年度以降は研修会を減らしてもよいのではないかなと思っている。

【回答】

- いただいたご意見の検討を行い、来年度の実施計画は斎藤副支部長を中心に立案し、定期総会で審議してもらいたいと思う。

⑧ 学術委員会関連：学術委員会の活動について

【回答】

- 学術委員会の活動を十分に報告できていなかったもので、今後の課題とさせていただく。来年度は学術委員会の活動状況等を常任理事会で報告して議事録に記載していく。

⑨ 学会関連：学会の開催方式について

- 千葉地区会：中谷 穂
今後も学会費の徴収はしないのか。

【回答】

- 今年度は国立がん研究センター中央病院のご厚意で支部学会を開催したが、使用規約上、学会費を徴収すると会場使用料が発生してしまうのであえて徴収をしなかった。来年度以降も、費用対効果を考えると国立がん研究センター中央病院での開催し、学会費の徴収を行わないほうが会員への費用負担は少ないと考えている。令和7年度の支部学会も国立がん研究センター中央病院での開催を予定している。

- 群馬地区会：瀬下 明子
演題数の確保の働きかけは必要ではあるが、演題数の確保は各施設長の責務だと思っている。ただ近年は専門学会が増えて、支部学会にエントリーする演題の確保が難しくなっているため現状の演題数でも問題はないのではないのか。

【回答】

- 演題数の登録を増やしていくことは課題であり、各施設でも演題登録を増やしていただけるようにご協力をお願いする。

- 千葉地区会：中谷 穂
他の学会との重複発表は可能か。

【回答】

- 現行の抄録投稿規定では認めていない。会員からの要望があれば、規定の変更については学術委員会を交えて検討する必要があるのではないかと考えている。

- 東京地区会：関 竜二
演題の著作権は学会事務局が持つので、その辺りの確認も必要と思われる。

【回答】

- 頂いたご意見を参考に今後検討していく。

⑩ 学会関連：学会抄録集について

- 神奈川地区会：瀬戸 茂誉
製本サイズを変更したときの試算はあるのか。

【回答】

- 製本代、輸送費で減額となるがそれが会員にとって利便性に繋がるかは検討が

必要。ご意見をいただいたので、定期総会までに更に検討していく。

- 千葉地区会：中谷 穂
実際に変更する場合、会員へのアンケート調査は行うのか。
- 群馬地区会：瀬下 明子
いきなり A5 サイズで発刊してみてもどうか。

【回答】

- アンケート調査はかなり手間がかかり会務の負担が大きいため、今のところ考えてはいない。いきなりサイズ変更してみるのも一案だが、参考にして検討する。

⑪ 学会関連：新人賞について

- 茨城地区会：山田 晃子
学会賞等の選考で、選考基準以外の要因で選考から外されることはあるのか。

【回答】

- 選考基準に基づいて、選考しているので不正や忖度のようなことはない。

⑫ 広報関連：ホームページの活用について

- 神奈川地区会：瀬戸 茂誉
ホームページの外部委託化についての進捗状況を教えてほしい。

【回答】

- ホームページの管理は契約を締結し、業務移行も完了した。スマートフォンでの閲覧は可能であるが、旧来のホームページを移行したために、現在のシステム運用の基準に合致しないところがありリニューアルが必要と考えている。来年度はリニューアルに必要な改善箇所を洗い出し、再来年度の予算化に向けて費用対効果を検討しながら、ホームページの充実を図っていく。

⑬ その他：国臨協本部への要望について

- 群馬地区会：瀬下 明子
会員名簿を以前の職員名簿に戻していただきたいとあるが、全国支部長会議で承認された経緯の説明がないので、お聞かせ願いたい。

【回答】

- 会員の会費で印刷しているものなので、純然たる会員名簿にしたいということで全国支部長会議の討議で決定した。以前の職員名簿のほうが使いやすいとも聞かれるので、直ぐに職員名簿に戻ることはないと思うが、次回の全国支部長会議で意見・要望として報告させていただく。

【本部回答】

- 会員名簿について従前のような職員名簿を求める声も認識している。退会された会員等から掲載しないしてほしいと複数の依頼があり、また、国臨協の事業であり非会員の情報を掲載する妥当性がないため、会員名簿として作成することのご理解を頂きたい。その代わりとして、4月1日付会員調査ファイルを全国版として集約し、支部と共有していきたいと考えている。

⑭ その他：ISO 認定未取得施設（未経験者）から ISO 取得施設へ異動となった場合を想定した準備などを考えていますか。または、企画立案をお願いしたい。

- 埼玉地区会：沼田 正男
特に支部で ISO の研修会等を企画していただけないか。

【回答】

- NHO や日臨技等の他団体でも研修会を開催しているので、そちらに参加するよう促すのも良いかと思う。ご意見を参考に来年度の事業計画に組み込めるよう検討させていただく。